

教室年報 2019



岩手医科大学医学部外科学講座

Iwate Medical University, School of Medicine
Department of Surgery: Annual Report 2019

巖刀会(外科学講座同門会)



岩手医科大学新附属病院(矢巾町)

外科学講座の歴史

本学は昭和3年、岩手医科大学の前身である岩手医学専門学校が設立され、昭和26年に学校法人岩手医科大学が発足するに至った。

外科学講座の歴史は古く昭和4年、副島鎮雄の教授就任まで遡る。その後、昭和5年に三宅徳三郎、昭和13年には永松之幹、そして昭和19年には瀬田孝一が教授に昇任した。昭和31年に外科学第一講座と名称を変え、瀬田は在任35年間にわたり当教室の基礎を築き、大きな発展をもたらした。

昭和54年の瀬田の退職後、同年東北大学第2外科助教授であった森昌造が教授に赴任。昭和61年に東北大学第2外科教授へ転任となるまで、疾患別のグループ制度を導入することで各分野の専門性を確立し、研究活動にも大きな躍進がみられた。

昭和62年6月に斎藤和好が外科・内科において初の母校出身の教授に昇任し、良き伝統と誠の医師としての真摯な態度を継承、内視鏡手術など外科学の更なる進歩に貢献した。

平成17年に斎藤の退職後、同年9月慶應義塾大学外科学専任講師であった若林剛が教授に就任、患者様を中心とした最良の治療が選択・実践可能な「チーム医療」を基盤として北東北での肝移植を実現した。

平成27年8月に同科准教授の佐々木章が教授に就任。肥満外科手術の指導的施設として国内外に情報を発信するとともに、各分野の内視鏡外科手術を中心とした患者様に低侵襲で良質な治療を提供できるよう研究、教育そして診療に取り組んでいます。



こちらのQRコードを読み取って
ホームページにアクセスできます

外科学講座の 広報活動

当科では我々がやっている医療を一般の方、あるいは医学生や研修医の先生をはじめとするさまざまな医療関係者の方にご理解をいただくために、ホームページの充実を図っております。最新医療をトピックスとして提供するとともに、スタッフのプロフィールも公開しております。「主治医の顔と人となり」を少しでもご理解していただくことで、良好な信頼関係を築く一助になることを期待しております。また、私どもが主催する市民公開講座や研究会等、各種イベントのご案内も随時更新しております。このホームページが、理想的な医療体制の実現に向けて、私どもと皆様をつなぐ架け橋となるよう願っております。



教室年報 (2019年)

岩手医科大学医学部外科学講座同門会

CONTENTS

巻頭言

2019年を振り返って…………… 外科学講座教授 佐々木 章

教室の今年1年

教室の1年…………… 外科学講座准教授 新田 浩幸
今年一年、特にこの半年を振り返って…………… 外科学講座准教授 大塚 幸喜
特任准教授と医局長を拝命して…………… 外科学講座特任准教授 岩谷 岳
内丸メディカルセンター病院長就任して…………… 救急・災害・総合医学講座総合診療医学分野教授 下沖 収

012 外科学講座スタッフ紹介・日常風景

015 チーム紹介

上部消化管チーム・下部消化管チーム・肝胆膵（内分泌代謝外科）チーム・
乳腺チーム・小児外科チーム・リサーチチーム《分子治療研究室》・
高度救命救急センター《救急・災害・総合医学講座 救急医学分野》

027 新教室員紹介

高橋 真人／川上 亜紀子／中屋 流石

028 2019年診療状況

入院患者分類／手術件数／関連病院手術件数／関連病院化学療法件数／
関連病院発表業績件数／外科専門医制度修練指定施設・関連施設／
日本消化器外科学会専門医制度認定施設

030 表彰の栄誉

内視鏡医学研究振興財団 内視鏡医学研究医海外派遣助成を受賞して…………… 梅邑 晃
特定非営利活動法人 ヒューマンセンター21…………… 梅邑 晃
若手研究者の為の研究助成を受賞して…………… 梅邑 晃

031 寄稿

第16回日本乳癌学会東北地方会 会長あいさつ…………… 佐々木 章
第16回日本乳癌学会東北地方会印象記…………… 小松 英明
巖刀会学術賞…………… 梅邑 晃
岩手医科大学報…………… 茂木はるか
国内留学レポート…………… 海外学会報告
第7回アジア肝胆膵会議(A-PHPBA)…………… 齋藤 和好
第35回環太平洋外科系学会日本支部学術大会(PPSA-JC)…………… 中村 侑哉／有吉 佑／早野 恵／屋成 信吾／高橋 智子／小泉 優香

052 2019年アルバム紹介

060 関連病院だより

岩手県立二戸病院・岩手県立軽米病院・岩手県立久慈病院・盛岡赤十字病院・
盛岡市立病院・岩手県立釜石病院・岩手県立宮古病院・北上済生会病院・
岩手県立千厩病院・岩手県立江刺病院・函館五稜郭病院・能代厚生医療センター・
八戸赤十字病院・かつの厚生病院

072 外科紹介医療機関

077 研究業績

092 スタッフ名簿

094 協賛広告



岩手医科大学医学部外科学講座
教授

佐々木 章

Akira Sasaki, M.D., Ph.D.
Professor and Chairman

2019 年を振り返って

教室における2019年の振り返りと2020年の抱負を述べさせていただきます。

岩手医科大学は、明治30年に創立者三田俊次郎が、地域医療が壊滅的な状況にあったことを憂い、私財を投じて私立岩手病院を設立し医療人の養成に努めたことに始まります。昭和3年には、私立岩手医学専門学校が設立されましたが、同時に外科学講座の歴史が始まりました。創立120周年記念事業では、2017年4月に看護学部が新設され、医・歯・薬・看護の4学部からなる医療系総合大学として新たにスタートしました。そして2019年9月21日には、矢巾新病院・内丸メディカルセンターが開院しました。矢巾新病院は国内最大規模の高度治療機能病院（病床数1,000床、手術室20室）として建設され、外部電力が絶たれた状況下でも非常用電源ではなく、病院機能を100%維持できるエネルギーセンターを備えた世界初の施設です。内丸メディカルセンターは、迅速な検査と診断を行う高度外来機能病院として、矢巾新病院と相互に連携して運用していくことになりました。今後は、両病院の運用上の問題点などを抽出した上で、役割分担を明確にしていく必要があると思います。

外科学講座の人事では、2019年2月1日付で

大塚幸喜特任准教授（平成5年卒）と新田浩幸特任准教授（平成5年卒）が准教授、4月1日付で岩谷岳講師（平成7年卒）が特任准教授、木村聡元特任講師（平成14年卒）が講師に昇任しました。また、医学研究科博士課程に3名（岩手医大卒）、専攻医として女性外科医1名（岩手医大卒）が入局となりました。今後も外科学に興味を持つ仲間を増やしていけるように、外科学講座の活動を更に活発化し、良い雰囲気づくりに努めていきたいと思います。

教育では、私自身は教務委員長の学務のために、学生教育のエフォートが50%を超え、留年者面談などでは教育の重要性の再認識と限界を感じる毎日を過ごしています。本学の低迷している医師国家試験合格率の向上、各学年の留年者・成績不良者への学修支援体制の構築、そして今後予定されている教育分野別評価と病院機能評価への対応など、前向きに整理を進めていくことで解脱すると信じています。

研究活動では、梅邑 晃助教がRoyal College of Surgeons of Thailandのjoint sessionで日本代表に選出、梅邑助教は、特定非営利活動法人ヒューマンセンター21 若手研究者育成の為の研究助成も受賞しました。ご選考いただきました先生方に心よりお礼申し上げます。

k i r a S A S A K I

M.D., Ph.D. Professor and Chairman

受賞の機会が個人のモチベーションを上げ、さらに後進の教育と指導に反映されることを期待します。また、齋藤和好名誉教授がAsian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association (A-HPBA, Seoul)のinvited video lecture by legendary lectureに招待され、「Accumulated surgical skills on laparoscopic liver surgery and liver transplantation」でご講演を行われましたが、会場は立ち見が出るほど満席で、好評でした。

競争的研究資金としては、平成31年度の科学研究費補助金の交付件数は3件(基盤研究C)・継続研究8件(基盤研究C 7件、若手研究1件)、日本学術振興会藤田記念医学研究振興基金助成1件の研究が進行中です。今後も更なる競争的研究資金の獲得を目指して、独創的で先駆的な基礎・臨床研究を立案していきたいと思います。

2019年の診療実績では、総入院数は、2018年の1,520名から1,696名に増加、総手術件数は、9月の新病院移転のための手術制限により、2018年の1,141件(全麻1,071件、局麻63件)から994件(全麻918件、局麻69件)に減少しました。術式は、可能な限り低侵襲な内視鏡外科手術を選択していますが、一方で高難度手術である肝移植も安全に実施できています。2007年1月から2019年12月までの期間で肝移植件数は119件となりました。内訳は、生体104件(小児8件)、脳死15件(肝腎同時移植2件)で、生存率75%と全国平均以上です。この成績は、多診療科・多職種によるチーム医療の成果であり、救えなかった患者を振り返り、次の患者の治療に反映させる努力を続けていく所存です。

主催した研究会について報告します。第16回日本乳癌学会東北地方会(仙台)を、テーマ「東北地方における乳癌診療の現状と課題」で開催しました。最終的な演題数は81題、ランチョンセミナーなどの共催講演数は12題となり、過去最多の350名を超える参加者のもとで盛会のうちに終えることができました。プログラム企画にご協力いただいた運営スタッフと巖刀会の皆様方の多大なご支援に深く感謝申し上げます。本地方会で抽出された問題点と課題について改善できるように、乳癌診療の取り組みにつなげていきたいと思っています。

最後に誠に残念なお知らせとなります。岩手医科大学名誉教授である佐々木純先生が2019年4月1日にご逝去されました。純先生は、岩手医科大学外科学第1講座助教授、歯学部外科教授を歴任され、40年間にわたり外科学講座における甲状腺疾患の診療と研究にご尽力

いただきました。故人の遺志により岩手医科大学白寿会にご献体されましたが、10月20日には、故人を偲びながら皆様の心に残るお別れ会が行われました。本会の準備中に純先生らしさが伝わるエッセイを見つけましたので、掲載します。

「移植臓器提供者が足りません。また脳死者の意志がはっきりとしないから臓器提供ができないこともありますし、レスピレータがはずせなくて困ることもあります。この問題を解決するには、われわれ医者が率先して範を示さなければなりません。私は20年前から遺言を書いています。レスピレータはつけるな、心臓マッサージも不要。死んだらすぐに眼球はアイバンクに、腎臓は腎バンクに送って移植してもらえ。その他、使える臓器は何でも使え。最も使ってもらいたいのは脳である。この脳を移植すれば、私の高邁なる精神が、後世に受け継がれるであろう。その上で、部品は少なくなっているであろうが、残りは岩手医大で病理解剖と系統解剖に使え。戒名は何でもよい、法事に呼ぶ人は兄弟、子どもほか数名と指定してあります。辞世の句も用意してあります。季語により四句あり、死ねばオートマティックに決まります。例えば“われ遂に 悪運尽きたり 秋暮れる”のごとくです。ところが、口の悪い女房が、この遺言を批判して曰く。その脳味噌だけは傍迷惑だから、使わないほうがいいわよ。それに、あなたは勝手にあちこちほっつき歩いているから、例えば八幡平で遭難して腐乱死体で発見されたり、宮古湾で鯨に食われて半分になってしまった死体なんて、役に立たないわよと。ですから、何とか量の上で死ななければなりません。それから、前記のような辞世の句でうまく成仏できるのでしょうか。心配です。」(日本医事新報 2007;4358:88より引用)。

純先生は、白寿会に登録されており、みずからの体を提供することによって今後も医学教育に参加し、学識と人格とともに優れた医師・歯科医師を養成するための礎となり、医療を通じて次の世代の人達のために役立とうと旅立たれました。尊敬の念に堪えません。

外科学講座の先輩の意思を引き継ぎ、教室員が将来色々な領域・地域において外科学の発展に貢献・活躍できるよう後進と後任の育成を今後も目指していきたいと思っています。皆様の一層のご指導・鞭撻をお願いいたします。巻頭言の挨拶とさせていただきます。



岩手医科大学医学部外科学講座
准教授

医局長 **新田 浩幸**

Hiroyuki Nitta, M.D., Ph.D.
Associate Professor

教室の1年

2019年は教室にとっても自分にとっても節目の1年だったように思います。医局長として3年目の最後の年となり、病院移転という大きな事業がありました。医局長として特別何かをしたわけではありませんが、何とも言えないストレスがかかっていたように思います。現在は医局内の雰囲気も落ち着き、当たり前の日常になったことを実感しております。しかし、内丸メディカルセンターと矢巾新病院の両立を求められておりますので、限られた医師数の中で岩手県内外の関連施設への診療応援をこれまでと同様に行うことが難しくなるのではとの危惧もあります。そのため、外科学講座として医局員を何とか増やしていくことはもちろんなのですが、病院全体での対応も必要と思います。2019年は臨床研修を終えて新しく仲間となった8名が頑張ってくれました。2020年は4名の研修終了者が帰局しますが、岩手県の医師不足という医療事情を考えると頼もしい限りであり、今後も継続して入局してもらえよう魅力ある講座作りに貢献できればと思います。

肝胆膵チームの診療に関しては、移転に伴うことと思いますが前年と比較して手術件数はやや減少しました。年が明けてからは手術数も戻ってきておりますが、戻すのではなく増やしていくには何が必要かを考え、これからの診療にあたっていこうと考えています。このような中で、本年度も若手医師に対しては、日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医、日本内視鏡外科学会の技術認定医を取得できるよう多く

r o y u k i N i t t a

M.D., Ph.D. Associate Professor

の手術を経験してもらいました。結果はまだでていませんが高度技能専門医には1名申請しておりますし、今年度は肝臓領域の技術認定にも申請できればと考えています。2020年4月から膵臓に対するロボット手術が保険適応となりました。肝胆膵チームにはライセンス取得者が3名いますので、この領域においても導入していきたいと考えております。これまでと同様、腹腔鏡手術（ロボット含む）から肝移植までを積極的に行っている施設として、技術的選択肢の多い肝胆膵外科医を多数輩出できるようスタッフとともに頑張っていきたいと思います。

昨年の教室年報で、2019年は病院移転、ラグビーワールドカップと、不安と期待の大きい1年になりそうです、と書かせて頂きました。まさにその通りの年になり、幼少期からラグビーが身近にあった釜石出身者としては嬉しい限りでした。2020年はオリンピックの年と書きたかったのですが、新型コロナウイルス感染症によりそれどころではありません。2020年がどのような年になるかは全く予想もできませんが、我々のできることをしっかりと行い、何かを発信し続ける講座でありたいと考えております。

教室の今年1年



岩手医科大学医学部外科学講座
准教授

大塚 幸喜

Koki Otsuka, M.D., Ph.D.
Associate Professor

今年一年、特にこの半年を振り返って

矢巾新病院に移転し、半年が経過しました。新病院の現状について、一個人として、そして医局員（准教授）の立場から報告したいと思います。

個人として

- ・通勤に関しては、当初相当の混雑により40～50分の時間を予想し、様々なルートを探索していましたが、朝6時50分に自宅を出発し、素直に4号線を通れば約20分で到着できます。しかし、これまで自転車で5分、徒歩10分だった27年間を考えると生活は一変しました。大きな変化として、車生活になったためかこの半年だけで10数年ぶりに体重が増えましたので、数週間前から病院内では極力エレベーターを使用しない生活に変えました。
- ・朝食に関しては、時間を有効に使いたいこともあって、現在は愛妻弁当を持参し医局で食べております。私だけでなく、妻の日常も一変しているようです。昼食に関しては、これまでの「出前」がいろんな意味で困難な状況になりましたので、病院内の7店舗が出店しているフードコート「トクタヴェール」やコンビニ「ローソン」に出向いて弁当やカップ…を購入して食べているという状況です。さらに病院周囲に外食できるようなお店が無く（遠く）、さらに車通勤ということもあり、夕食は自宅で食べる機会が増えたような気がします。朝だけでなく夜も、家族の生活が一変しているようです。有給休暇5日を有効に使って、家族サービスにも励みたいと思います。

K o k i O t s u k a

M.D., Ph.D. Associate Professor

医局員（准教授）として

- ・医局は西棟5階にあり、病棟や手術室のイメージとは逆に、決して広いスペースとは言えない環境です。二人で足を突き合わせて一晩を明かすような内丸医局時代の大きなソファも置けず、さらに准教授と講師には個室は無くパーテーションで区切られたスペース、助教以下は机だけのスペースという状況です。医局員同士の距離が近くなったという利点はあるかもしれませんが、プライバシー、特に若い先生たちのはけ口が無くなったことは（上司の悪口一つ言えない状況）、外科医局で27年経験した私としては少し心配しています。
- ・診療面に関しては、ハード面は病棟、手術室の一部屋一部屋が広く、さらに9階の外科病棟や4階の手術室からも岩手山が眺望でき、気持ちよく仕事ができる環境です。外来に関しては、外科診察室としてはやや狭いスペースですが、患者さんとの距離が近いというメリットもあるかな…？と。外来のソフト面は、移転後から同門の先生や内科の先生に大変ご迷惑をおかけしております内丸と矢巾での2か所での診療に関しては、医局内でもさらにわかりやすい情報を先生方に提供して、何より患者さんにご迷惑をかけないように努力してまいりたいと思いますので、今後とも患者さんのご紹介をお願いいたします。
- ・私が今一番心配している点は、学生との距離が遠くなっていることです。内丸では、医局の隣のカンファレンスルームに学生が待機し、手術や回診でも一声かければ一緒に行動できる環境にありましたが、現在は学生待機室が医局と離れ、全てタイムスケジュールに沿って行動するようになっているため、予定外になることが多い外科診療の環境では、外科の魅力を十分に伝えにくい環境になっています。ただでさえここ数年、臨床実習において手術実習時間が制限されてきておりましたので、今まで以上に医局員各個人が危機感をもって学生に接し、外科の魅力を伝えるべく教育の重要性を自覚してもらいたいと思います。

以上、移転後の現状について、同門の先生方にお伝えしたいことをとりとめなく書きましたが、移転してまだ半年です。これから、良い点はさらにアピールし、改善すべき点は医局内でコンセンサスを図り、大学に進言していきたいと思います。

1993年（平成5年）に外科（第一外科）に入局し早や27年が過ぎようとしています。気が付くと医局内には、上司は教授のみとなってしまいました。そして、自宅よりも確実に長く生活していた内丸の岩手医科大学附属病院とお別れし、私自身大きな分岐点に立ったと思っておりますが、今ある53歳の体力・技術・精神力の範囲で、これまで以上の情熱と知識を持って診療・教育・研究に励みたいと思います。

繰り返しになりますが、外科の魅力をさらに多くの学生、そして全国の若い外科医に伝え一人でも多くの同士を増やし、岩手医科大学外科を院内、県内、そして全国にアピールしていきたいと思いますので、今後ともどうかご指導よろしくお願いいたします。



岩手医科大学医学部外科学講座
特任准教授

岩谷 岳

Takeshi Iwaya, M.D., Ph.D.
Associate Professor

特任准教授と医局長を拝命して

2019年4月に特任准教授を、そして今年の1月より医局長を拝命いたしました。

私は平成元年に岩手医科大学に入学し、実家の埼玉よりはじめて岩手を訪れ学生生活をスタートさせました。今の学生には想像もできないような自由な学生生活を満喫し、平成7年に旧第一外科学講座に入局し医師としての人生が始まりました。大学や関連病院では外科臨床を、大学院時代からは旧病理学第二講座で研究のいろはから教えていただき、これまで学内外の多くの先生方に指導していただいてきました。これまで外科学講座准教授、医局長をつとめられた歴代の先生方の顔を思い浮かべ、その仕事ぶりを振り返りますと、果たして私でつとまるのか心配ばかりしております。どうぞ皆さま今後とも温かいご指導をよろしくお願いいたします。

さて2019年は「平成」という時代が終わり、「令和」という新しい時代の幕開けとなりました。今、医師になったばかりの頃の平成を振り返ってみると医療も大きく変わってきたのだと実感します。入局後すぐに食道癌グループに配属となりましたが、食道癌手術では大きな開胸創でも第2、第3助手の位置からは中の操作がなかなか詳細には見られず、先輩方の顔色を見ながら術野の状況を予想していたものでした。術後はICUに張り付いて人工呼吸器をいじり、モニターやドレーンと1中日にらめっこをし、ポケットベルが鳴り続ける毎日でした。近年では食道切除もほとんどが

k e s h i l w a y a

M.D., Ph.D. Associate Professor

胸腔鏡で行われ、誰でも胸腔内の精密操作が見られるようになりました。術後も人工呼吸器が着くことはほとんどなく、翌日には歩行開始し10日ほどで退院できるようになりました。また、研究面でも以前は1つの遺伝子の一部の領域を調べるのも骨がおれる作業でしたが、近年の遺伝子解析技術の進歩により、現在では個々の症例の全遺伝子や全ゲノムも短期間で解析できるようになりました。昨年、がん患者の遺伝子パネル検査が保険収載され、これまで治療法がなかった患者への遺伝子変異状況に応じた個別化医療も一部の病院で行われるようになり、岩手医大でもがんゲノム室が設置され、私もエキスパートパネル委員の一人としての立場をいただきました。このようにこの20年で大きな変化がもたらされましたが、手術ができない進行癌の患者や術後再発し早期に亡くなる患者も依然として多数おりますし、ゲノム医療も遺伝子検査をしても実際の治療にたどりつく患者は1割程度、さらに治療効果が得られる患者はその半分と決して満足できるものではありません。これからの20年、30年で医療にはさらなる変革がおとずれることと思いますが、現在の医局の若い先生たちが活躍していけるよう指導し、よい環境を作っていくことができると考えております。

2019年の岩手医大の最も大きな出来事として附属病院の移転がありました。各部署・部門におけるたくさんの会議や移動のシミュレーションを経て、9月21日全入院患者を事故なく無事矢巾新病院に移送し、新病院での診療がスタートしました。また、前後して医局の引っ越し、大量のサンプルが保存されたフリーザーの移送、研究室の移転と続き、引っ越しが完全に終了したのは10月半ばを過ぎておりました。この病院移転という大きな出来事を経験して、2つのことにあらためて気づきました。どんなに予想やシミュレーションを行っても想定外のことは次々と起こってきますし、なぜ移転前にこれが問題になることが予想できなかったのだろうかということが多々生じております。また移転に際し自分の机、部屋、医局、研究室などから大量の廃棄物が出ました。長い間たくさんの不要なものに囲まれながら仕事をしていたことに少し驚きました。後で必要になるかもしれないと捨てられないものがたまり、そのせいで物を探す時間が増え仕事の効率を落としていたのでしょう。診療や研究でも想像力をもって先を予測していればスムーズに事が進みますし、不要なものを除いていくことで重要な点がより明らかになりゴールまでを短くできるのでしょう。仕事のできる人というのは、概して机もパソコンのデスクトップも綺麗に整理されています。自分のこれからにもこれらを教訓として生かしていければと思います。

最後になりますが、また来年の教室年報でいいご報告ができるようにこの1年ががんばっていきたいと思います。今後ともご指導のほど何卒よろしくお願いいたします。



岩手医科大学医学部
救急・災害・総合医学講座総合診療医学分野
教授

内丸メディカルセンター病院長

下沖 収

Osamu Shimooki, M.D., Ph.D.
Professor

内丸メディカルセンター病院長就任して

巖刀会の諸先生方におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、令和元年9月21日に開設しました岩手医科大学附属内丸メディカルセンター（内丸MC）のセンター長を拝命いたしました。この紙面をお借りしましてご挨拶申し上げます。まずもって、昨年9月の附属病院の矢巾移転に際しまして、諸先生方には多大なるご協力を賜りましたことに改めまして心より御礼申し上げます。内丸MCは、明治30年（1897）4月に私立岩手病院として開院して以来120有余年の歴史ある内丸の地で、旧附属病院施設を活用しながら、新たな医療施設として誕生したものです。起ち上げから軌道に乗るまで、さらには発展への道のりを考えますと、その責任の重さに身の引き締まる思いでございます。

内丸MCは31標榜科による外来と短期滞在手術や経過観察入院を行うための入院ベッド50床の施設としてスタートしました。救急診療は、平日の17時～22時と限定的ではありますが、「応急診療外来」として主に1次救急の患者さんを中心に対応しております。加えて、総合的に診るプライマリ・ケアの充実を図り、地域の医療への貢献とともに、地域医療の教育・研究の拠点となる施設を目指すことが、大学が内丸に本施設を残した意義の一つと認識しております。開院から5ヶ月が経過しましたが、まだまだ早急に解決すべき課題や継続的かつ精力的に取り組むべき課題が山積している状況です。①病院としての組織体制の整備、②セクショナリズムの排除とガバナンス

m u S h i m o o k i

M.D., Ph.D. Professor

スの確立、③矢巾新附属病院との機能配分、④患者サービスの向上、⑤良好な地域連携の推進、⑥医師、メディカルスタッフの働きやすい環境整備、⑦外来患者数の確保、⑧病床利用率の向上、⑨応急診療外来の認知度向上、⑩（古い）施設の維持管理、⑪医師の働き方改革への対応などなど、いずれも一筋縄では解決が難しく皆様のご理解とご協力が必要なものばかりです。

さて、我が国は世界に類をみない速さで超高齢社会に突入しました。それに伴い医療に対するニーズの変化、社会保障費の増大、医療資源の偏在などの大きな課題に直面しております。医療提供体制の変革が求められ、キュアとケア、細分化と総合化、機能特化と地域連携、高度先進医療とプライマリ・ケアは、何れも重要な二本の柱として、医療機能の役割分担と同時に、多職種・多方面にわたる連携強化が求められております。矢巾新附属病院では「特定機能病院」として高度専門医療の充実を目指し、一方の内丸メディカルセンターでは「新附属病院の外来」としての機能に加え、「地域医療の拠点施設」としての役割が求められるものと考えております。新附属病院と内丸メディカルセンターが密接な連携のもと、このような時代の要請にお応えする新しい医療提供・教育・研究の形を目指す、大学病院としては未だ例のない体制の構築が期待されております。

当センターが各方面のご期待にお応えできる施設になりますよう、私自身も微力ながら全力で職責を果たす所存でございます。外科学講座の先生方、巖刀会の諸先生には、内丸MCの運営につきまして、これまで以上のご協力とご支援を賜りますようお願い申しあげまして、就任のご挨拶とさせていただきます。



専攻医
高橋 真人
〔平成29年卒〕

専攻医
伊藤 浩平
〔平成29年卒〕

助教
松尾 鉄平
〔平成17年卒〕

助教
小松 英明
〔平成16年卒〕

助教
遠藤 史隆
〔平成18年卒〕

助教
馬場 誠朗
〔平成17年卒〕

秘書
宗像 春菜

秘書
佐藤 育子

秘書
中新井田 沙希

大学院生
二階 春香
〔平成29年卒〕

専攻医
川上 亜紀子
〔平成29年卒〕

講師
木村 聡元
〔平成14年卒〕

講師
秋山 有史
〔平成11年卒〕

特任准教授
岩谷 岳
〔平成7年卒〕

准教授
新田 浩幸
〔平成5年卒〕

医療安全学講座
教授
肥田 圭介
〔平成元年卒〕



助教(任)
安藤 太郎
〔平成24年卒〕

助教
石田 和茂
〔平成17年卒〕

大学院生
藤澤 良介
〔平成29年卒〕

助教
片桐 弘勝
〔平成16年卒〕

助教
小林 めぐみ
〔平成19年卒〕

大学院生
佐々木 教之
〔平成29年卒〕

助教
菅野 将史
〔平成16年卒〕

助教
梅邑 晃
〔平成17年卒〕

大学院生
高清水 清治
〔平成22年卒〕

教授
佐々木 章
〔昭和63年卒〕

緩和医療学科教授
木村 祐輔
〔平成6年卒〕

准教授
大塚 辛喜
〔平成5年卒〕

講師
高原 武志
〔平成12年卒〕

特任講師
長谷川 康
〔平成14年卒〕

病棟風景



チーム紹介

上部消化管チーム

下部消化管チーム

肝胆膵（内分泌代謝外科）チーム

乳腺チーム

小児外科チーム

リサーチチーム《分子治療研究室》

高度救命救急センター

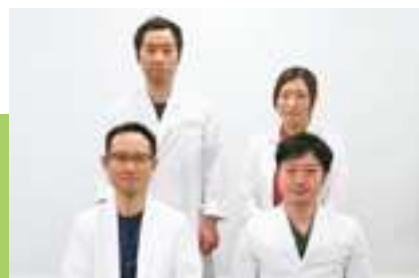
《救急・災害・総合医学講座 救急医学分野》

上部消化管チーム

STAFF: 秋山有史、馬場誠朗、遠藤史隆、二階春香

専門外来

木曜
8時30分～17時
(矢巾新病院)



上部消化管チームでは、食道癌・胃癌を中心に、食道・胃疾患の治療を担当しています。毎週木曜日の専門外来では、新患者さんの診察をはじめ、治療後のフォローアップや化学療法を担当しております。外来化学療法室や放射線科と連携し、集学的治療を行っております。手術予定患者様には入退院サポートセンターの多職種が介入し、治療の安全性や周術期医療の質の向上に努めております。矢巾新病院での入院は化学療法と手術治療を中心に、早期癌から高度進行癌まで当科が中心となり消化器・肝臓内科や放射線科と連携して治療にあたっております。手術に際しては、定型的な手術に対しては「より低侵襲な手術」の追求を心掛けております。大学病院特有の困難症例や高度進行癌に対する高難度手術においては、根治を目指してこれまでの経験や専門性を発揮して対応しております。2019年には食道癌に対して胸腔鏡下手術に加えてロボット支援下食道切除術を開始し、胃癌に対しては腹腔鏡下手術に加えてロボット支援下胃切除術を再開いたしました。それぞれの患者さんに適した治療をともに考え、化学療法、放射線療法、手術を組み合わせ集学的治療を行うことにより治療成績の向上を目指しております。胃癌と食道癌は日本臨床腫瘍グループ（JCOG）に所属し、多施設共同臨床研究を通じて本邦の標準治療の開発に携わっております。治療にはいつでもご相談をお受けいたしておりますので、是非お気軽にご連絡下さい。食道癌に対する胸腔鏡手術（ロボット支援手術含む）の割合は83.3%、胃癌に対する腹腔鏡手術（ロボット支援手術含む）の割合は70.4%でした。

2019年のニュース

- 3月▶ 同門の寺島先生が主宰された胃癌学会@沼津に参加
- 4月▶ ロボット支援下胸腔鏡下食道切除術を導入
- 8月▶ ロボット支援下腹腔鏡下胃切除術を再開
 - ▶ 第48回 WCS (世界外科学会議) @クラクフに秋山と遠藤が参加
- 11月▶ 第9回みちのくLAGセミナー開催

2019年 診療・研究状況報告

● 上部チーム入院数：521名 (化学療法 352名)

● 上部チーム手術数：145名

● 食道癌新規入院数：91名

● 食道癌手術：18名

(胸腔鏡下・ロボット支援食道切除術:15例)

疾患	術式	症例数
食道癌	ロボット支援胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術	10例
	胸腔鏡下食道切除術	5例
	左開胸開腹食道切除術	2例
	経裂孔の下部食道切除術	1例
他疾患	緊急手術、遊離空腸等	37例

《年次手術数推移》

	2017年	2018年	2019年
食道癌	29	24	18
胸腔鏡下	25	10	5
ロボット支援下			10

● 新規胃疾患入院数：118名

● 胃疾患手術数：90名

疾患	術式	症例数
胃癌	開腹胃切除術	23例
	左開胸開腹食道切除術	1例
	腹腔鏡下胃切除術	52例
	ロボット支援下胃切除術	5例
GIST	切除術	1例
その他	審査腹腔鏡、バイパス等	8例

《年次手術数推移》

	2017年	2018年	2019年
胃癌	100	93	89
GIST	4	10	1
計(悪性腫瘍切除数)	104	103	90

●2019年研究報告

《教室内》

- ・「T4食道癌に対する導入DCF療法後の胸腔鏡下食道切除術の安全性」*Asian J Endosc Surg*, 2019
- ・「腹腔鏡下噴門側胃切除術後のSide Overlap法による再建」手術、2019
- ・切除不能・再発食道癌に対するbiweekly-DCF療法の安全性評価(データ集積中)
- ・食道癌化学療法後遺残腫瘍の遺伝子プロファイリング(症例集積中)
- ・血漿中遊離変異DNA定量による食道癌モニタリングシステムの開発(解析中)
- ・食道癌治療抵抗性とNFE2L2遺伝子変異に関する検討(解析中)
- ・食道癌肉腫の成分別網羅的遺伝子解析(解析中)
- ・消化器癌の予後に関連するnon-coding RNA FTXに関する検討(解析中)
- ・高齢者胃癌患者の食欲不振に対する補中益気湯の有効性および安全性に関する検討(株ツムラとの共同臨床試験、追跡中)
- ・血漿中遊離変異DNA定量による胃癌モニタリングによる転移・再発の検証(症例集積中)

《臨床試験》

- ・JCOG1109「臨床病期 IB/II/III 食道癌(T4を除く)に対する術前CF療法/術前DCF療法/術前CF-RT療法の第III相比較試験」症例追跡中
- ・JCOG1213「消化管・肝胆膵原発の切除不能・再発神経内分泌癌(NEC)を対象としたエトポシド/シスプラチン(EP)療法とイリノテカン/シスプラチン(IP)療法のランダム化比較試験」症例登録中
- ・JCOG1301C「高度リンパ節転移を有するHER2陽性胃・食道胃接合部腺癌に対する術前trastuzumab併用化学療法の意義に関するランダム化第II相試験」症例登録中
- ・JCOG1314「切除不能または再発食道癌に対するCF(シスプラチン+5-FU)療法とbDCF(biweeklyドセタキセル+CF)療法のランダム化第III相比較試験」症例登録中
- ・JCOG1409「臨床病期 I/II/III 食道癌(T4を除く)に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第III相試験」症例登録中
- ・JCOG1507「病理学的Stage II/IIIで“vulnerable”な80歳以上の高齢者胃癌に対する開始量を減量したS-1術後補助化学療法に関するランダム化比較第III相試験」症例登録中
- ・JCOG1509「局所進行胃癌における術後補助化学療法に対する周術期化学療法の優越性を検証することを目的としたランダム化比較第III相試験」症例登録中
- ・JCOG1510「切除不能局所進行胸部食道扁平上皮癌に対する根治的放射線療法と導入Docetaxel+CDDP+5-FU

療法後のConversion Surgeryを比較するランダム化第III相試験」症例登録中

- ・JCOG1704「高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対する術前Docetaxel + Oxaliplatin + S-1の第II相試験」症例登録中
- ・JCOG1711「漿膜下浸潤及び漿膜浸潤を伴う進行胃癌を対象とした大網切除に対する大網温存の非劣性を検証するランダム化比較第III相試験」症例登録中
- ・JLSSG0901「進行胃癌に対する腹腔鏡下手術と開腹手術の安全性と根治性に関するランダム化II/III相比較試験」症例登録終了、追跡中

《治験》

- ・切除不能進行・再発胃癌患者を対象としたTAS-102/ラムシルマブ併用療法の臨床第II相試験：症例登録中
- ・胃がんに対する術後補助化学療法における多施設共同二重盲検無作為化試験(小野薬品工業株式会社)：追跡中
- ・切除不能な進行又は再発胃がんに対する多施設共同無作為化試験(小野薬品工業株式会社)：追跡中
- ・HER2発現の進行胃腺癌又は胃食道接合部腺癌の患者を対象としたDS-8201aの多施設共同非盲検第II相試験(第一三共株式会社)：追跡中
- ・胃腺癌及び食道胃接合部腺癌患者を対象とした術前・術後補助療法としてMK-3475及び化学療法(XP又はFP)とプラセボ及び化学療法(XP又はFP)を比較する二重盲検無作為化第III相試験(MSD株式会社)：追跡中

《科研費獲得》

- ・「血漿中遊離変異DNA定量による食道癌モニタリングシステムの開発」文部科学省科学研究費 基盤研究C(研究代表者 岩谷岳)
- ・「消化器癌の予後に関連するnon-coding RNA FTXに関する検討」文部科学省科学研究費 基盤研究C(研究代表者 秋山有史)
- ・「高度肥満症に対する肥満外科手術の骨格筋インスリン抵抗性改善のメカニズム」文部科学省科学研究費 基盤研究C(研究代表者 馬場誠朗)
- ・「Circulating tumor DNA検査の臨床導入における課題の克服」文部科学省科学研究費 基盤研究C(研究代表者 遠藤史隆)

●今後の研究課題

- ・切除不能進行食道癌症例に対するSalvage手術、conversion手術の増加
- ・食道切除術におけるさらなる低侵襲化の探求
- ・分子生物学的手法を用いた食道癌新規診断・治療法の開発
- ・高度進行胃癌症例に対する腹腔鏡下胃切除の有用性の検証
- ・腹腔鏡下胃癌手術技術認定医の育成
- ・胃癌化学療法に関する基礎的研究の推進

下部消化管チーム

STAFF:大塚幸喜、木村聡元、松尾鉄平、藤井仁志、
高清水清治、中村侑哉 ストーマ外来(WOCN):
千葉励子、高橋咲子、小笠原久美子

付属病院（矢巾）
術後外来:月曜8時30分～16時
新患外来:火曜8時30分～12時
外来化学療法:
水曜・金曜8時30分～12時
内丸メディカル
新患外来:月曜8時30分～12時



1997年から大腸癌に対する腹腔鏡手術をはじめ、2019年12月までに2422例となりました。ここ数年の特徴としては、局所進行直腸癌症例に対し、術前化学療法を行い腹腔鏡手術による腹腔鏡の拡大視効果を最大限に生かした根治性、そして機能温存手術を積極的に行っております。さらに、腹腔鏡手術の低侵襲性を生かし、高齢者や全身状態不良な患者さんに対して、麻酔科とタッグを組んで積極的に行っております。

また、2018年4月に国内で保険適応となったロボット支援下直腸癌手術を同年5月から木村聡元講師を中心に行っており、2019年12月までに30例経験しました。さらなる、根治性、低侵襲性を患者さんに提供できると確信しております。

切除不能・再発大腸癌に対しては、全国標準外来化学療法を患者様の立場になってわかりやすく説明し行っております。また、化学療法治療中に切除可能になった場合には積極的に手術を行っております。

ストーマ外来は当院の千葉励子、高橋咲子、小笠原久美子WOCナース（皮膚・排泄ケア認定看護師）3名でストーマ教育を行っており、精神面からもフォローさせていただいております。

潰瘍性大腸炎やCrohn病などの炎症性腸疾患症例に対しても、患者さんのQOLを重視した腹腔鏡下手術を積極的に行っております。

教育面に関しては、若手外科医に対する腹腔鏡手術の指導を積極的に行っており、2019年までに10名（初回合格率80%）の内視鏡外科技術認定医合格者（大腸分野）を輩出してきました。また全国各地からの国内留学者（9名）や手術見学者（170施設）に対しても指導を行っております。

2019年のニュース

- 5月▶松尾鉄平、八重樫瑞典が日本内視鏡技術認定医試験合格

2019年 診療・研究状況報告

●手術数(全麻): 287例

※そのうち大腸癌手術(切除)は197例(再発手術5例含む)

《内訳》

疾患	術式	症例数
結腸癌(119例)	開腹	12例
	腹腔鏡	107例
直腸癌(73例)	開腹	5例
	腹腔鏡	44例
	ロボット支援下	19例
	経肛門	5例
大腸癌再発(5例)		5例
Crohn病(1例)	開腹 / 腹腔鏡	0例 / 1例
潰瘍性大腸炎(0例)	開腹 / 腹腔鏡下大腸全摘	0例 / 0例
他(ストーマ造設・閉鎖、良性手術、他科手術応援など)		89例 (うち婦人科17例)

《大腸癌の年次手術数推移》

	2017年	2018年	2019年
結腸癌全手術数	130	108	119
直腸癌全手術数	104	83	73
計	234	191	192
腹腔鏡下大腸癌手術 (ロボット手術含む)	213	170	170

●2019年研究報告

《教室内》

- ・「肥満大腸癌患者に対する術前減量の安全性と有効性の検証」: 腹腔鏡手術予定の肥満大腸癌患者を対象に、手術難易度の軽減化と周術期合併症を予防するために、計画的な術前減量による栄養学的安全性を明らかにすることを目的とする。現在症例集積中。(高清水清治)
- ・「進行直腸癌に対する術前治療における至適手術時期の検証」: 術前治療を行った進行直腸癌症例を対象に、全身状態の評価並びに腫瘍学的評価を行い、有効かつ安全に手術を行える至適時期の検討。現在症例集積中。(中村侑哉)
- ・「自律神経温存手術を目的とした術中神経組織可視化の試み」: 術中にリアルタイムで神経を発色することにより標識し、手術操作による神経損傷を回避できる新たな手段と技術の開発。現在臨床応用への準備中。(有吉佑)

- ・「直腸癌に対する腹腔鏡手術の難易度評価」：直腸癌術後の短期・長期成績に影響を及ぼす危険因子を、術前画像を用いて解析。岩手医学会雑誌に掲載。（畑中智貴）
- ・「Laparoscopic low anterior resection with two planned stapler fires」直腸癌に対する計画的2回切離の手技と結果を報告。Journal of the Society of Laparoendoscopic Surgeons (JSLS)に掲載。（大塚幸喜）
- ・「Early renal dysfunction after temporary ileostomy construction」：直腸癌症例の一時的回腸人工肛門造設術と閉鎖術後の腎機能を経時的に評価。Surgery Todayに掲載。（八重樫瑞典）

《他施設共同》

- ・JCOG1801「直腸癌局所再発に対する術前化学放射線療法の意義に関するランダム化比較第III 相試験」：症例集積中
- ・JCOG1107試験「治癒切除不能進行大腸癌の原発巣切除における腹腔鏡下手術の有用性に関するランダム化比較第III相試験(ENCORE Trial)」：症例集積中
- ・腹腔鏡下大腸切除研究会「StageII, III直腸癌に対するTMEとCRM評価に関する研究」：症例集積中

●今後の研究課題

▶臨床面

- ・ロボット支援下直腸癌手術の定型化と適応拡大

▶教育面

- ・内視鏡外科学会技術認定医のさらなる育成
- ・腹腔鏡下大腸手術の県内外への啓蒙と技術指導

▶研究面

- ・海外学会発表、研究成果の論文化
- ・科研費取得
- ・大学院生への研究・学位指導

肝胆膵（内分泌代謝外科）チーム

STAFF: 佐々木章、新田浩幸、高原武志、
長谷川康、片桐弘勝、菅野将史、
梅邑 晃

メ
ディ
カル
セン
ター

矢
巾

水曜/8時30分～12時30分(片桐助教)
木曜/8時30分～12時30分
(新田准教授、長谷川特任講師)
14時～16時30分(新田准教授)
金曜/8時30分～12時30分(菅野助教)
水曜/8時30分～12時30分(片桐助教)
金曜/8時30分～12時30分
(高原講師、長谷川特任講師)
14時～16時30分(高原講師)



肝胆膵系悪性・良性疾患に対する拡大手術、内視鏡手術、化学療法、肝移植（生体・脳死）など幅広い治療選択肢をもつて、患者様に最も適した治療は何かを考え診療にあたっております。特に、肝疾患に対する腹腔鏡下手術は本邦で最も症例数の多い施設の一つであり、患者にメリットの大きい手術であると確信をもって診療にあたっております。また、日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医や日本内視鏡外科学会の技術認定を取得するため、若手外科医の執刀機会が多いことも特徴の一つです。2016年4月からは腹腔鏡下膵頭十二指腸切除も保険収載されたことより、腹腔鏡下膵切除も積極的に行っております。

肝移植医療は2007年より病院全体の協力のもと積極的に行っており、生体・脳死合わせて100例を超えました。生体肝移植ドナー手術も可能な限り腹腔鏡下で行っていることから、患者の満足度も高いものとなっております。2011年9月に脳死肝移植施設として認定されました。

胆道癌や膵癌に対しては術前および術後補助化学療法など、集学的治療により治療成績を向上させるべく取り組んでおります。このことより長期成績も向上しております。

2019年 診療・研究状況報告

●手術数：213例

●腹腔鏡下手術の割合

肝切除（肝門部胆管癌、胆嚢癌を除く）78%、膵切除 18%

●2019年手術症例

《疾患別》

▶悪性

肝細胞癌	34例
転移性肝癌	34例
肝内胆管癌	3例
胆管癌	20例 (肝門部 7例、肝外 13例)
胆嚢癌	3例
乳頭部癌	2例
膵癌（IPMC含む）	24例

▶良性

生体肝移植ドナー、pNET、IPMNなど	49例
----------------------	-----

▶その他

脾腫瘍など	45例
-------	-----

《術式別》

脳死肝移植	2例
生体肝移植	8例
肝切除	87例
PpPD	26例
膵体尾部切除	13例
膵全摘	1例
胆管切除	2例
胆石、胆嚢良性疾患手術	19例
バイパス（胆管、消化管）	7例
脾摘	1例
肝嚢胞天蓋切除	5例
非切除	1例
その他	41例

《年次推移》

	2017	2018	2019
肝細胞癌	38	33	34

肝内胆管癌	6	4	3
転移性肝癌	34	30	34
胆管癌	25	30	20
胆嚢癌	14	5	3
乳頭部癌	3	8	2
膵癌	30	38	24
脳死肝移植	0	4	2
生体肝移植	14	10	8

●2019年研究報告

▶腹腔鏡下肝切除術

・腹腔鏡下肝切除術の保険適応が2016年に拡大されたが、拡大された術式に対する安全性を検討し報告した。また、新規術式であるため安全な普及が重要と考え、ハイボリュームセンターである当院で難易度予測モデルを構築し報告した。

・肝細胞癌、転移性肝癌に対して再肝切除術を行うことは比較的多い。そこで、再肝切除例における腹腔鏡下肝切除の有用性を検討し報告した。

・患者の高齢化が進んでいる中で、80歳以上の超高齢患者に対する腹腔鏡下肝切除術の安全性について検討し報告した。

▶腹腔鏡下ドナー肝切除術

・腹腔鏡下ドナー肝切除術は新しい術式である。当院では腹腔鏡補助下から導入し、完全腹腔鏡に移行した。その成績を検討し報告した。

・腹腔鏡下ドナー肝切除術は胆道造影の手技が煩雑である。その問題を解決する手段としてICG蛍光イメージングを用いた方法を考案し報告した。

・腹腔鏡下手術の動作制限を克服するために、グリソン一括処理法および肝実質切離後に動脈を確保する手術手技を確立し報告した。

▶肝移植

・当院では2007年から生体肝移植を、2012年から脳死肝移植を導入し、合計130例超を経験した。当院での肝移植の現況について検討し報告した。

▶腹腔鏡下肝切除術における糖質コルチコイド投与の有効性に関する第3相試験

・腹腔鏡下肝切除術で肝流入血遮断をした際に糖質コルチコイドを投与するかしないかで術後成績に差が出るのか検討した。術後2病日で血清総ビリルビン値の低下およびプロトロンビン時間の延長抑制効果を認めた。合併症に関しては有意差を認めなかった。これらの結果を報告した。

内分泌代謝外科

専門外来 木曜 8時30分～12時

臨床では、内分泌代謝疾患（高度肥満症、副腎、甲状腺）、一般外科・消化器外科疾患（脾臓、ヘルニア）に対する内視鏡外科を担当しています。研究では、2型糖尿病、非アルコール性脂肪性肝炎、睡眠時無呼吸症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果と改善機序の解明が主体となりました。当チームにおける全手術に対する腹腔鏡下手術の割合は97%で、特にreduced port surgeryを中心とした手術が増加しています。

2019年のニュース

- 3月 ▶ 第16回日本乳癌学会東北地方会を仙台で開催(佐々木章)
- 7月 ▶ 環太平洋外科系学会理事に就任(佐々木章)
- 7月 ▶ Royal College of Surgeons of Thailandにおけるjoint session 日本代表に選出(梅邑 晃)
- 12月 ▶ 特定非営利活動法人ヒューマンセンター21 若手研究者育成の為の研究助成(梅邑 晃)
- 12月 ▶ 巖刀会 学術賞(梅邑 晃)

2019年 診療・研究状況報告

●入院数：103例

●手術数：65例

《内訳》

疾患	術式	症例数
高度肥満症	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	6例
胃粘膜下腫瘍	2孔式腹腔鏡下胃部分切除術 腹腔鏡・内視鏡合同手術	2例 1例
副腎疾患	2孔式腹腔鏡下副腎摘出術	4例
甲状腺疾患	内視鏡下甲状腺全摘術 内視鏡下甲状腺片葉切除術	3例 3例
脾臓良性疾患・脾腫瘍	腹腔鏡下脾臓摘出術	1例
鼠径ヘルニア	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	41例
腹壁癒痕ヘルニア	腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア手術	2例
その他	頸部切開甲状腺全摘術 大腿腫瘍切除術	1例 1例

《年次手術数推移》

	2017年	2018年	2019年
高度肥満症	7	6	6
副腎疾患	10	3	4
甲状腺疾患	10	5	6

●2019年研究報告

《教室内》

- ・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における口腔内・腸内細菌叢の変化：データ解析中
- ・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における異所性脂肪量減少と代謝変化：データ解析中

・肥満閉塞性睡眠時無呼吸に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果：データ解析中

・非アルコール性脂肪性肝炎に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果：データ解析中

《全国規模》

▶獲得研究費

- ・食欲中枢異常による難治性高度肥満症の実態調査(平成28～30年度科研費 難治性疾患等政策研究事業)：終了(Ann Gastroenterol Surg 2019;3:638-647)
- ・高度肥満者の内臓脂肪組織における調節機構破綻のメカニズムの解明(平成30～令和2年度科研費 基盤研究C)：検体集積中
- ・高度肥満症に対する肥満外科手術の骨格筋インスリン抵抗性改善のメカニズム(令和1～3年度科研費 基盤研究C)：症例集積中
- ・高度肥満症患者におけるメタボロミクス・リポドミクス解析(令和1年度 岩手県地域医療研究事業)：症例集積中
- ・高度肥満症に合併した非アルコール性脂肪性肝炎に対するメタボリックサージェリーの効果とその改善機序(令和1年度 EA ファーマ株式会社奨学寄附金研究)：データ解析中
- ・肥満非アルコール性脂肪性肝炎に対する肥満外科手術後の肝線維化改善機序(令和1年度 小野薬品奨学寄附金研究)：データ解析中
- ・高度肥満症患者におけるメタボロミクス・リポドミクス解析(令和1年度 大鵬薬品奨学寄附金研究)：症例集積中

乳腺チーム

STAFF: 小松英明、石田和茂、川岸涼子・松井雄介・
天野 総(関連病院出向中)、佐藤麻生(大学院生)

矢巾専門外来
火・水曜 8時30分～17時(再来のみ)
プレステケア外来(矢巾)
火曜 15時～16時(要予約制)
内丸専門外来
木曜 8時30分～12時(新患、紹介のみ)



乳腺グループは現在、小松、石田の二名の常勤スタッフと、若手医師のローテーター1名による3名体制で診療に当たっております。また、関連病院の先生方の御高配を頂き、研修日として松井先生、佐藤先生には外来業務を各1日ずつ、また天野先生には手術研修にいらして頂いております。引き続き、後進の指導に力を入れていく所存です。

現在の我々の診療についてですが、新患は内丸メディカルセンターで診察を行い、矢巾新病院で手術、薬物療法を行っております。

2019年のトピックスとしては、まずは第16回日本乳癌学会東北地方会を佐々木教授を会長として主催させて頂いたことにあります。同門の先生方の多大なる御協力、御支援によりまして、過去最高の参加者を記録し、盛会のうちに終える事ができました。ここに改めまして厚く御礼申し上げます。

そして、もう一つとしては、臨床遺伝学科、産婦人科学講座、形成外科学講座、病理診断学講座との御協力の下、東北地方初となるJOHBOC(日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構)認定の「遺伝性乳癌卵巣癌総合診療基幹施設」ととなりました。今後ますますニーズの高まるHBOCにおいて、東北地方での診療をリードするべく、各科との連携をさらに強化してまいります。

他施設との向流としましては、今年も引き続き、順天堂大学乳腺科の斉藤光江教授の御高配のもと、順天堂大学、順天堂大学浦安病院、順天堂大学静岡病院、鳥取大学とICTをつないで症例検討会を行っております。

研究面ではJCOG、JBCRG、CSPORといった日本を代表する臨床試験グループ、また米国NCI傘下の臨床試験グループであるNRG(NSABP、RTOG、GOG)Oncologyにも参加し、グローバルなエビデンスの確立にも貢献しております。開発治験にも積極的に参加し、患者さんに最新、最良の医療を提供するよう、日々精進しております。同門の先生方には一層の御支援、御指導、御鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。

2019年のニュース

- 3月 ▶ 第16回日本乳癌学会東北地方会主催(会長 佐々木章教授)
発表(小松、石田、橋本)
- 6月 ▶ 日本家族性腫瘍学会 ポスター発表(小松)
- 6月 ▶ MASCC2019(at San Francisco) ポスター発表(小松)
- 7月 ▶ 第27回日本乳癌学会学術総会(新宿)にてポスター発表(小松、石田、橋本)
- 10月 ▶ 2019いわてピンクリボンフェスタ講演会&トークセッション「正しく知りたい!乳がんのこと」講演(小松)

2019年 診療・研究状況報告

● 総手術数: 122例

《内訳》

疾患	術式	症例数
原発性乳癌	乳房部分切除術	43例
	胸筋温存乳房切除術	65例
	胸筋温存乳房切除術 + 組織拡張器留置	4例
	乳頭乳輪温存乳腺全摘術 + 組織拡張器留置	4例
計		116例
その他(良性、追加切除等)		10例
合計		126例

● 2019年研究報告

《全国規模》

- ・ Cinderella研究会: 手術可能乳癌患者を対象としたフ
ローズングローブ、弾性ストッキングのnab-paclitaxel
による末梢神経障害予防効果の検討(Phase II、SPOT
trial)
- ・ 日本臨床腫瘍研究グループ: JCOG1017(PRIM-BC)「薬
物療法非抵抗性Stage IV乳癌に対する原発巣の意義
(原発巣切除なしvsあり)に関するランダム化比較試
験」

- ・日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1204(INSPIRE)「再発高リスク乳癌患者の標準的フォローアップとインテンシブフォローの比較第III相試験」
 - ・日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1505(LORETTA trial)「エストロゲン受容体陽性・低リスク非浸潤性乳癌に対する非切除＋内分泌療法の有用性に関する単群検証的試験」
 - ・日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1607(HERB TEA study)「高齢者HER2陽性進行乳癌に対するT-DM1療法とペルツズマブ＋トラスツズマブ＋ドセタキセル療法のランダム化比較第III相試験」
 - ・日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1806(AMATERAS-BC)「薬物療法により臨床的完全奏効がえられたHR陰性HER2陽性原発乳癌に対する非切除療法の有用性に関する単群検証的私見」
 - ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳癌臨床研究支援事業(CSPOR)「レトロゾールによる術前内分泌療法が奏効した閉経後乳がん患者に対する術後化学内分泌療法と内分泌単独療法のランダム化比較試験(N-SAS BC 06)」
 - ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳癌臨床研究支援事業(CSPOR)「HER2陽性の高齢者原発性乳がんに対する術後補助療法におけるトラスツズマブ単剤と化学療法併用に関するランダム化比較試験(N-SAS BC 07)」
 - ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group)：JBCRG-C05(B-SHARE)「HER2陰性の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたベバシズマブとパクリタキセルの併用療法の有用性を検討する観察研究」
 - ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group)：JBCRG-M04(BOOSTER)「ホルモン陽性HER2進行再発乳癌に対する、ホルモン療法による維持療法を利用したベバシズマブ＋パクリタキセル療法の治療最適化研究－多施設共同無作為化比較第III相臨床試験」
 - ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group)：JBCRG-20(Neo-Peaks)医師主導治験「HER2陽性乳癌におけるペルツズマブとトラスツズマブエムタンシンを用いた術前療法の検討(ランダム化第II相試験)」
 - ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group)：JBCRG-M05(PRECIOUS)「HER2陽性の進行・再発乳癌に対するペルツズマブ再投与の有用性を検証する第III総臨床研究－ペルツズマブ再投与試験－」
 - ・OlympiA試験「十分な局所性治療及び術前補助療法又は術後補助療法を終了した高リスク生殖細胞系BRCA1/2変異陽性HER2陰性原発乳癌患者に対する術後補助療法としてのオラパリブの有効性と安全性を評価する無作為化二重盲検並行群間比較プラセボ対照多施設共同第III相試験」
 - ・「HER2陽性の進行性／再発性の局所進行乳癌又はT-DM1とペルツズマブのプラセボ(ペルツズマブに対し盲検)の併用の有効性及び安全性をトラスツズマブとタキサン系薬剤の併用と比較する国際他使節共同第III相ランダム化3群比較試験(MARIANNE試験)」
 - ・「手術可能なHER2陽性原発性乳癌における術後補助療法としての化学療法＋トラスツズマブ＋プラセボと化学療法＋トラスツズマブ＋ペルツズマブの2群比較第III相ランダム化試験(APHINITY試験)」
 - ・NRG Oncology：NSABP B-51/RTOG 1304「ネオアジュバント化学療法前の腋窩リンパ節陽性がネオアジュバント化学療法後に病理学的陰性に転じた患者を対象として、乳房切除後胸壁及び所属リンパ節の外部放射線治療、並びに腫瘍切除後所属リンパ節放射線治療を評価する第III相無作為化臨床試験」
- 今後の研究課題
- ・マウス脳転移好発細胞株からの転移関連遺伝子の同定
 - ・転移再発乳癌の化学療法における高密度ctDNAモニタリングによる逐次評価
 - ・新たな乳腺外科医育成

小児外科チーム

STAFF：小林めぐみ、早野 恵(大学院生)、平井みさ子、矢内俊裕

一般小児外科外来
水曜午前・午後
※新患は基本的に午前診療となります。
専門外来
小児ストーマ、スキンケア外来
第3水曜午後
気道疾患外来(平井みさ子先生)
最終水曜午後



4月より、肝胆膵・小児外科合同チームとして診療を行っております。肝胆膵チームと共に診療やカンファランスを行うことで、小児肝移植や小児肝腫瘍等に対する治療だけでなく新生児疾患や急患対応も共有しマンパワー不足を補っております。また、成人外科他グループとも必要に応じて連携をとり、より専門性の高い治療を行えるよう努めております。

移転後より小児外科外来は、矢内附属病院の一階小児科外来と同様の場所で行っております。小児科と併診している患者さんも多いため、以前に比べて移動等の負担がなく、主治医との連携もとりやすいことから好評を得ております。マンパワー不足のため、原則診療は水曜日に集約させて頂いております。都合のつかない患者様や小児科以外の他科併診患者様などにつきましてはできるだけ対応させていただきます。

小児ストーマ・スキンケア外来：従来通りWOCナースと協力しながら人工肛門や膀胱皮膚瘻などをもつ患者様、排便障害や消化管術後患者様に必要に応じてスキンケアや洗腸による排便コントロールの指導を行っております。

気道外来：小児外科分野で特に気道疾患や重症心身障害者様の治療等で御高名な平井みさ子先生が月に一度外来診療をしております。気管支鏡検査も随時行っており、必要に応じて入院検査や手術も行っております。

さらに、茨城県立こども病院の矢内俊裕先生にも診療応援を頂いております。小児外科全般は勿論のこと、小児泌尿器疾患や鏡視下手術についてもご相談の上、直接手術指導を頂いております。

2019年のニュース

- 1月▶平井みさ子先生(茨城福祉医療センター)が非常勤医師で診療応援開始
- 7月▶矢内俊裕先生(茨城県立こども病院)が非常勤医師で診療応援開始

2019年 診療・研究状況報告

●入院数：約183例

●手術数：166例(うち内視鏡手術 件)

《内訳》 重複あり

疾患	症例数(例)
新生児	11
悪性腫瘍(生検含む)	5
鼠径ヘルニア類縁疾患	43
消化器・肝胆膵疾患	42
呼吸器/泌尿器疾患	22/28

《年次手術数推移》

	2017年	2018年	2019年
新生児	20	14	11
非新生児	232	191	155
計	252	205	166

●2019年研究報告

- ・JNBSG 日本神経芽腫研究グループ 高リスク神経芽腫臨床試験
- ・JPLT3 日本小児肝癌スタディグループ
- ・JWiTS3 日本ウィルムス腫瘍スタディグループ
- ・JCCG 日本小児がん研究グループ

リサーチチーム《分子治療研究室》

STAFF：岩谷 岳、藤澤良介
佐々木教之、小泉優香（医歯薬総合研究所医療開発部門）

研究進捗会
月曜18:30～
（医療開発部門と合同）
抄読会
木曜18:30～
（医療開発部門と合同）



外科研究室では現在、医歯薬総合研究所医療開発研究部門の西塚哲教授と共同でがんゲノム解析や血液検体からの癌の病勢診断（リキッドバイオプシー）に関する研究を中心に行っております。当科独自の腫瘍細胞由来DNA（ctDNA）のモニタリング法の有用性について食道癌、大腸癌、胃癌で検証しております。本年10月から大学院生の藤澤先生が研究室常駐となり精力的に研究を行っています。佐々木教之先生は医療開発部門を主科目に変更し、現在学内の悪性腫瘍をあつかう22診療科が参加し臓器横断的にctDNAのモニタリングを行う研究の中心メンバーとなり活躍しております。今後メンバーの増加とともに研究の幅を広げていく予定です。関連病院へ出張中の先生方もスカイプで研究進捗会・抄読会に参加し、研修日や休日に研究室で実験を進めている先生もおります。学外の先生でも興味のある方はいつでもお声かけください。

2019年のニュース

- 4月 ▶ 八重樫瑞典先生、佐々木教之先生、西塚哲先生、岩谷、アメリカ癌学会（ニューオリンズ）にて発表。
- 6月 ▶ 岩谷、第73回食道学会（福岡）にて発表
（パネルディスカッション：食道癌に対するゲノム医療の可能性と方向性）
- 7月 ▶ 3年生研究室配属（3名）研究開始
- 9月 ▶ 岩谷、第78回日本癌学会（京都）にて発表（シンポジウム：Liquid biopsyの現状と将来展望）。
- 10月 ▶ 藤澤先生、研究室常駐に。
▶ 矢巾キャンパス西研究棟1Fへ研究室移転
- 12月 ▶ 3年生研究室配属：「大腸がん患者の症例特異的変異を用いた腫瘍細胞由来血中遊離DNA解析」に関し研究発表
▶ 佐々木教之先生、消化器外科専門医試験合格

2019年 診療・研究状況報告

●2019年研究報告

- ・ 血漿中遊離変異DNA定量による食道癌モニタリングシステムの開発（岩谷）
- ・ 大腸癌・胃癌の原発巣 heterogeneity が ctDNA 診断に及ぼす影響（八重樫、佐々木教之、千葉）
- ・ Circulating tumor DNA を用いた乳癌術前化学療法の逐次的効果判定法の開発（川岸、藤澤）
- ・ 食道癌治療抵抗性と NFE2L2 遺伝子変異に関する検討（佐々木教之、秋山）
- ・ 肝芽腫発生に関わる遺伝子異常の解析（有末）
- ・ 食道癌肉腫の成分別網羅的遺伝子解析（佐々木教之）
- ・ 胃癌・食道腺癌における ctDNA を用いた高感度診断システムの開発（千葉）
- ・ ctDNA を用いた大腸癌術後サーベイランス法の開発（大塚）

・ ctDNA 判定を用いた進行大腸癌の化学療法効果判定（木村）

・ 大腸癌の予後に関連する non-coding RNA FTX に関する検討（秋山）

●今後の研究課題

各臓器グループで進行中のリキッドバイオプシー研究は症例登録開始から4年が経過し、早期再発・増悪予測、正確な治療効果判定、無再発状態の確認などで臨床的有用性を発揮する可能性を見出し、現在論文投稿の最終段階に入りました。また「がんゲノム医療」、「Precision Medicine」がいよいよ本格的に臨床導入されはじめており、今後リサーチグループの役割が重要になってくると思われます。患者に何が重要かを常に意識し各臨床グループと協力しながら研究をすすめていきたいと思ひます。

高度救命救急センター 《救急・災害・総合医学講座》 《救急医学分野》

STAFF：小鹿雅博・石田 馨・佐藤寿穂・棚橋洋太

専門外来

24時間体制



専門外来：高度救命救急センターは院内各講座からスタッフが派遣されている複合科であり、各科医師との連携が重要です。外科学講座はじめ同門の先生方の多大なご協力に深く御礼申し上げます。我々は外科チームですが、あらゆる救急疾患、重症疾患、急性血液浄化等の窓口とも考えております。適切な専門医と連絡を取りますので、24時間いつでもどのような病態でもご相談ください。岩手医科大学代表電話（019-651-5111）から救急センター事務経由で呼び出すように命じてください。

2019年当グループにおける全手術に対する腹腔鏡手術を第一選択とした割合は43%でした。

2019年 診療・研究状況報告

●入院数：175例

●手術数：105例

《内訳》

疾患（内因性）	術式	症例数(例)
上部消化管穿孔	腹腔鏡下手術	5
絞扼性腸閉塞	腹腔鏡下手術：開腹	5：6
虫垂炎	腹腔鏡下手術	7
下部消化管穿孔	腹腔鏡下手術：開腹	1：11
急性虚血性疾患	腹腔鏡下手術：開腹	1：1
嵌頓ヘルニア	開腹	1
その他	腹腔鏡下手術：開腹	1：37

疾患（外因性）	術式	症例数(例)
管腔臓器損傷	開腹	9
その他	開腹	1

	症例
気管切開術	9
大動脈遮断術	1

《Management》

	症例
Non operative management（外因）	33
Open abdominal management（外因：内因）	11：4

●2019年研究報告

《グループ内》

- ・ Open abdominal management の検討（継続）
- ・ 絞扼性腸閉塞に対する治療と管理（継続）
- ・ 虫垂炎の治療選択と管理（継続）
- ・ 培養検査と感染マーカーの整合性と関連性についての検証（新規）

外科学講座

高橋 真人



出身大学：岩手医科大学 大学卒業年：2017年

出身地：岩手県花巻市 座右の銘：陰徳陽報

岩手医科大学外科に入った理由：

私は、学生時代は神経内科を志していました。しかし、初期臨床研修中に、幅広い領域にわたって治療することのできる外科の先生方の対応力やフットワークの軽さをかっこいいと感じ、憧れを抱きました。外科の先生方の仕事への熱意・姿勢に感銘を受け、また外科手術後に退院されていく患者さん達のすっきりした顔を見て、これからも外科に携わっていきたいと感じ、入局を決意しました。

未熟者ではありますが、外科学講座の一員として恥ずかしくないよう精進していきます。ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

外科学講座

川上 亜紀子



出身大学：岩手医科大学 大学卒業年：2017年

出身地：岡山県 座右の銘：全力投球

岩手医科大学外科に入った理由：

学生時代の臨床実習時にスコピストや閉創をさせて頂く機会があり、とても楽しかったことを覚えています。いろいろな手術を見させていただく中で、自分もこのようにきれいな手術をできるようになりたいと思うようになり、入局させていただきました。研修が始まり、身につけなければならない知識や手技が多いことを痛感し、日々努力して参りたいと思います。よろしくお願い致します。

外科学講座

中屋 流石



出身大学：岩手医科大学 大学卒業年：2016年

出身地：岩手県宮古市 座右の銘：one for all , all for one

岩手医科大学外科に入った理由：

私が医師を目指した理由が手術によって1人でも多くの患者さんを救いたいというものでした。子供のころからサッカーやラグビーなどチームとしてまとまりをもつものが好きで岩手医大の外科学講座は“チーム”が最も色濃く出ていると学生のころから感じておりました。岩手医大の外科は上部消化管をはじめ小児、救急まで多くの分野を網羅しており自分の努力次第でより多くの手術、治療を経験できることも魅力的だと思いました。

医師としてまだまだ未熟ものではありますが早くチームの一員となれるように日々精進してまいりますのでよろしくお願い致します。

◆入院患者分類

疾 患	例 数
顔面・頸部	14
甲状腺・上皮小体	10
	悪性 0
乳 腺	1
	悪性 148
食 道	3
	悪性 199
胃・十二指腸	13
	悪性 260
大腸・肛門	58
	悪性 268
肝・胆・膵・脾	175
	悪性 242
イレウス	39
虫垂炎	15
ヘルニア・腹壁・腹膜	96
副 腎	3
病的肥満	59
その他	93
入院者合計	1,696

◆手術件数

	件 数
全麻数	918
局麻数	69
その他	7
全手術数	994

◆関連病院手術件数

	全手術 数	全身麻酔 手術数	急患 手術数	腹腔鏡 手術数	甲状腺 腺癌	乳癌	肺癌	食道癌	胃癌	胆膵癌	肝癌	大腸癌
函館五稜郭病院	1146	1137	155	596	3	174	0	16	95	43	42	246
盛岡市立病院	692	625	91	488	2	4	0	0	31	16	8	133
盛岡赤十字病院	647	601	90	399	3	33	2	1	34	11	9	116
能代厚生医療センター	506	450	92	352	3	15	0	0	34	9	11	85
県立宮古病院	441	355	67	204	2	25	0	0	22	3	0	114
八戸赤十字病院	430	381	44	115	5	36	0	0	33	6	4	106
県立久慈病院	425	337	59	166	5	23	0	0	18	12	0	53
県立二戸病院	402	341	64	166	4	28	0	0	15	5	5	83
県立釜石病院	268	206	23	83	1	7	0	0	13	0	0	51
かつの厚生病院	230	185	10	135	2	5	0	0	11	3	0	39
北上済生会病院	225	141	8	108	1	0	0	0	12	2	0	32
県立江刺病院	184	61	1	34	2	2	0	0	1	0	0	19
県立千厩病院	181	153	31	91	0	19	0	0	5	0	1	12

◆関連病院化学療法件数

	全化学 療法数	入院化学 療法数	外来化学 療法数	甲状腺 腺癌	乳癌	肺癌	食道癌	胃癌	胆膵癌	肝癌	大腸癌	その他
函館五稜郭病院	524	192	332	0	90	0	34	103	114	0	181	2
盛岡市立病院	180	0	180	0	25	0	0	21	26	0	108	0
盛岡赤十字病院	175	14	161	0	26	0	6	42	19	1	81	0
能代厚生医療センター	168	35	133	0	85	0	0	34	2	0	46	1
県立宮古病院	122	30	92	0	24	0	7	12	2	0	77	0
八戸赤十字病院	205	1	204	0	56	0	4	34	10	0	99	0
県立久慈病院	118	41	87	0	27	0	6	20	15	0	50	0
県立二戸病院	232	5	227	0	138	0	4	18	11	0	61	0
県立釜石病院	107	15	92	1	23	1	4	13	8	0	42	0
かつの厚生病院	57	54	3	0	7	0	1	4	6	0	38	1
北上済生会病院	31	9	22	0	12	0	0	4	0	0	15	0
県立江刺病院	66	8	58	0	0	0	0	4	1	0	6	2
県立千厩病院	27	3	24	0	19	0	0	5	0	1	12	2

◆関連病院発表業績件数

	英 文	和 文	国際学会	全国学会	全国研究会	地方会
函館五稜郭病院	0	1	0	9	0	2
盛岡市立病院	1	5	1	12	1	1
盛岡赤十字病院	0	5	0	5	3	4
能代厚生医療センター	0	0	0	2	1	1
県立宮古病院	0	0	0	2	0	3
八戸赤十字病院	0	0	0	2	0	2
県立久慈病院	1	1	3	16	0	4
県立二戸病院	0	0	0	4	0	6
県立釜石病院	0	0	0	9	0	4
かつの厚生病院	0	0	0	3	0	3
北上済生会病院	0	0	0	0	0	0
県立江刺病院	0	0	0	0	0	1
県立千厩病院	0	0	0	0	0	2

◆ 外科専門医制度修練指定施設・関連施設

指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2020. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2020. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2020. 12
指定	盛岡市立病院	～ 2021. 12
指定	岩手県立中部病院	～ 2020. 12
指定	岩手県立宮古病院	～ 2022. 12
指定	岩手県立二戸病院	～ 2020. 12
指定	岩手県立久慈病院	～ 2020. 12

指定関連区分	施設名	
指定	岩手県立釜石病院	～ 2021. 12
指定	能代厚生医療センター	～ 2022. 12
関連	八戸赤十字病院	～ 2020. 12
関連	かづの厚生病院	～ 2020. 12
関連	岩手県立千厩病院	～ 2020. 12
関連	岩手県立江刺病院	～ 2020. 12
関連	内丸病院	～ 2020. 12

◆ 日本消化器外科学会専門医制度認定施設

指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2021
指定	函館五稜郭病院	～ 2020
指定	盛岡赤十字病院	～ 2021
指定	岩手県立久慈病院	～ 2021

指定関連区分	施設名	
指定	岩手県立中部病院	～ 2021
指定	盛岡市立病院	～ 2021
指定	岩手県立宮古病院	～ 2020

内視鏡医学研究振興財団 内視鏡医学研究医海外派遣助成を受賞して

梅邑 晃

この度、内視鏡医学研究振興財団より内視鏡医学研究医海外派遣助成を賜りましたので御報告させていただきます。同財団は昭和56年に内視鏡医学の発展と海外交流を目的として設立され、これまで国内外の内視鏡医学の発展に大きく貢献してきました。今回、内視鏡医学研究医海外派遣助成を頂き、タイ王国のチェンマイで開催されましたアジア内視鏡外科学会（2019年11月21～23日）において、当科における完全腹腔鏡下生体肝移植ドナー手術の定型化についてビデオ発表をさせていただきました。本学会の会頭はSuthep Udomsawaengsup教授で、日本内視鏡外科学会や減量肥満外科領域でも交流の深い先生でありアットホームでありながら活発な議論の場となりました。後輩の安藤太郎先生と木村拓先生も口演で立派に発表することができ、佐々木教授にも発表を御覧頂くことができました。アジアの学会はpartnershipよりfriendshipを重んじる傾向があり、臆せず海外の研究者とdiscussionすることで人的ネットワークが

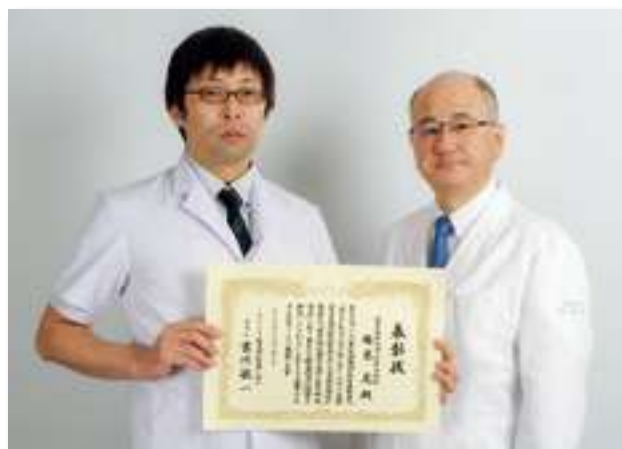


容易に構築できます。これを機会に、さらに教室での国際学会発表のチャンスを生かせる後輩ができるよう微力ながら尽力して参ります。今回の発表にあたり、御指導を頂きました肝胆膵グループの先生方に心から御礼申し上げます。

特定非営利活動法人 ヒューマンセンター21 若手研究者の為の研究助成を受賞して

梅邑 晃

この度、特定非営利活動法人ヒューマンセンター21による若手研究者の為の研究助成を受賞致しましたので御報告致します。同法人は、素材のもつ機能性と代替療法に関する研究から人々の健康と平和な生活に寄与することを目的として設立された財団であります。2019年度はフォーミュラ食を用いた肥満症や糖尿病治療に関する研究について募集があり、当科で高度肥満症患者に対して施行している腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の術後栄養管理としてのフォーミュラ食が2型糖尿病の改善や非アルコール性脂肪性肝炎の組織学的変化にどのような影響を及ぼすかについて研究計画を立案しました。特に、膵臓と肝臓は門脈で連続した臓器連関を成しており、病態の変化も密接に関連しています。肝組織の免疫染色や患者血清における標的分子の定量により、病態解明の一助となるよう助成金を活用する所



存です。最後に、研究助成を申請するにあたり御指導頂きました佐々木教授に改めまして御礼を申し上げます。

第16回日本乳癌学会東北地方会 会長あいさつ

佐々木 章

第16回日本乳癌学会東北地方会を2019年3月2日（土）に仙台市の仙台国際センターで開催させていただくことを大変嬉しく光栄に存じます。

今回のテーマは、「東北地方における乳腺診療の現状と課題」といたしました。最終的な演題数は81題（公募演題66題・上級指定演題15題）、モーニング・ランチョン・イブニング・ブースセミナーなどの共催講演数は12題となりました。多くの演題応募と共催企画をいただきました皆様に、厚くお礼申し上げます。シンポジウムでは、今回のテーマ「東北地方における乳腺診療の現状と課題」について議論していただき、抽出された問題点と課題の振り返りを行い、東北地方における乳癌診療の取り組みにつなげます。プログラムでは、教育講演「乳がん検診におけるマンモグラフィと超音波検査の総合判定」、教育セミナー、

メディカルスタッフセミナー「がん患者に対するアドバンス・ケア・プランニングの実践～より良い終末期医療のために」を企画しましたので、活発で有意義な議論を期待します。モーニング・ランチョン・イブニング・ブースセミナーでは、最新の話題を提供していただきます。また、若手の参加を促すべく研修医を対象とした若手セッション（初期研修医部門、後期研修医・専攻医部門）を設けました。それぞれの部門において、優秀演題は表彰を行ないますので、懇親会には是非ご出席下さい。

今回の開催が会員にとっていつまでも心に残る、そして実り多い地方会となりますよう、心からのホスピタリティを準備いたしますので、多数のご参加をよろしくお願い申し上げます。仙台で皆様にお会いできることを楽しみにしております。



第16回日本乳癌学会東北地方会印象記

小松 英明

第16回日本乳癌学会東北地方会を、2019年3月2日に仙台市の仙台国際センターで開催させていただきました。本地方会では、過去最高の343名のご参加をいただき、盛会のうちに無事に終了いたしましたことは、皆様方のご協力とご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

今回のテーマとしては、「東北地方における乳腺診療の現状と課題」を取り上げました。全国的に乳腺専門医が不足している中、特に東北地方は専門医数が少なく、各県においても専門医がカバーをする地域が非常に広いという状況にあります。この結果、各県庁所在地以外の施設においては、一般外科医・消化器外科医が乳腺診療を担っているのが現状です。今回我々は、乳腺専門医の常勤医が配置されていない、年間10症例以上の乳腺手術を実施している東北6県の28施設にアンケート調査を行いました。パネルディスカッションでは、アンケート結果をいただいた東北6県の先生方、また、診療応援などの派遣元となる施設の代表として、東北大学の石田孝宣教授、福島県立医科大学の大竹徹教授にパネリストとしてご登壇いただきました。各施設での乳腺診療の問題点、課題や要望などについて忌憚のないご意見とご討論をいただきました。教育セミナーでは、診断部門を岩手県立中央病院の宇佐美伸先生、治療部門を小松が担当させていただきました。若手医師3名と共にマンモグラフィの読影・診断、また治療については最近の話題として、ホルモン陽性乳癌の再発治療、HER2陽性乳癌の初期薬物療法を取り上げました。教育講演では、岩手県立中央病院の大貫幸二先生に「乳がん

検診におけるマンモグラフィと超音波検査の総合判定」について、ご講演をいただきました。現在乳がん検診におきましては、マンモグラフィと超音波検査を併用する場合には総合判定を行うことが推奨されておりますが、その際の重要なポイントなどを非常に分かりやすく解説いただきました。メディカルスタッフセミナーでは、「がん患者に対するアドバンス・ケア・プランニングの実践～より良い終末期医療のために」と題しまして、座長の岩手医科大学緩和医療学科教授の木村祐輔先生、平賀総合病院乳癌認定看護師の武石優子先生の進行により、緩和医療、医療安全、実際の現場の医師・看護師の立場からご討論をいただきました。ACPの必要性は徐々に高まっておりますが、本セミナーも他職種に渡って非常に多く参加を頂き、改めてチーム医療での取り組みの重要性を感じることができました。今回初の試みとして、初期研修医部門、後期研修医・専攻医部門の最優秀演題賞を企画し、非常に多くの若手医師に応募いただきました。最優秀演題賞を受賞した2名の先生には、今後のご活躍を期待しております。

今回、初めて学会運営の事務局担当を務めさせていただきました。プログラム作成にご協力いただいた、岩手県立中央病院乳腺・内分泌外科、岩手医科大学外科学講座、岩手医科大学附属病院メディカルスタッフの皆様へ深く感謝申し上げます。日本乳癌学会東北地方会、また日本乳癌学会の益々のご発展を祈念いたしまして、ご報告とさせていただきます。

巖刀会学術賞を受賞して

梅邑 晃

令和元年度の巖刀会学術賞を受賞し、大変光栄に存じます。思い返せば、佐々木章教授に直接連絡をさせて頂きまして当時医師5年目であった小生が伝統ある岩手医科大学外科学講座に入局させて頂くこととなりました。当時、佐々木章教授から「大学人であるために臨床・研究・教育の全てを両立せよ」と御指導を頂き、出向先で御指導頂いた須藤隆之先生にも「医者とは学者であるから学問を究めることが肝要である」とお言葉を頂きました。今回の受賞論文は、「Comparison of Single-Incision Laparoscopic Cholecystectomy versus Needlescopic Cholecystectomy: A Single Institutional Randomized Clinical Trial」



(Dig Surg 2019 ; 36 : 53-8)

であり、正しく佐々木章教授と須藤隆之先生の御指導のもとで完遂した単孔式腹腔鏡下

胆嚢摘出術と細径鉗子を用いた腹腔鏡下胆嚢摘出術の前向きランダム化比較試験に関する論文であります。本研究では、患者の術後創部痛が細径鉗子を用いた腹腔鏡下胆嚢摘出術で有意に低いことが示され、臍内に創を埋没する単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術と比較しても整容面でも有意差がなく細径鉗子を用いた腹腔鏡下胆嚢摘出術の有用性が示されました。腹腔鏡手術とロボット手術の狭間でやや立場を失いかねないreduced port surgeryですが、熟達した内視鏡外科医によるreduced port surgeryは今後も消化器外科にとって必須のアプローチ法であり、さらなる高難度手術での臨床研究を遂行している最中であります。今後も引き続き、佐々木章教授をはじめとした教員の方、巖刀会の諸先輩方の御指導・御鞭撻を頂きながら、初心を忘れずに臨床・研究・教育の全てに注力する所存です。この度は、誠にありがとうございました。



Abstract

Background: Both single-incision laparoscopic cholecystectomy (SILC) and needlescopic cholecystectomy (NSC) are superior to conventional laparoscopic cholecystectomy in terms of cosmetic outcome and incisional pain. We conducted a prospective, randomized clinical trial to evaluate the surgical outcome, postoperative pain, and cosmetic outcome for SILC and NSC procedures.

Methods: In this trial, 105 patients were enrolled (52 in the SILC group; 53 in the NSC group). A visual analogue scale (VAS) was used to evaluate the cosmetic outcome and incisional pain for patients. Logistic regression analyses were used to evaluate the operative difficulty that was present for both procedures.

Results: There were no significant differences in patient characteristics or surgical outcomes, including operative time and blood loss. The mean VAS scores for cosmetic satisfaction were similar in both groups. There were significant differences in the mean VAS scores for incisional pain on postoperative day 1 ($p = 0.009$), and analgesics were required within 12 h of surgery ($p = 0.007$). Obesity (body mass index ≥ 25 kg/m²) was the only significant influential factor for operating time over 100 min ($p = 0.031$).

Conclusion: NSC is superior to SILC in terms of short-term incisional pain. Experienced laparoscopic surgeons can perform both SILC and NSC without an increase in operative time.

© 2018 S. Karger AG, Basel.



本年9月21日に矢巾新病院・内丸メディカルセンターが開院しました。矢巾新病院は県内唯一の特定機能病院で入院・治療を中心とした高度治療機能病院として、内丸メディカルセンターは迅速な検査、診断を行う高度外来機能病院として、相互に連携して運用していくことになります。本稿では、両病院の概要や特徴について紹介します。

■ 矢巾新病院



矢巾新病院は「患者さんにやさしい病院」をコンセプトに、病床数1,000床、手術室20室を備える国内最大級規模の病院として建設されました。病状の急変にも即座に対応できるよう「医師・医療人は患者さんのそばに」を理念に掲げ、医局を病棟に配置。外来では患者さんに負担をかけない動線にも配慮しています。最新鋭の医療機器をはじめ高度救命救急センター、ドクターヘリポートの他、大規模災害などで外部からのエネルギー供給が途絶えても1週間は電力を供給できるエネルギーセンターも備えています。

◆ 基本情報

- ・病床数：1,000床（一般：932床、精神：68床）／手術室：20室

■ 主な医療機関指定

- ・特定機能病院
- ・高度救命救急センター
- ・災害拠点病院
- ・総合周産期母子医療センター
- ・都道府県がん診療連携拠点病院
- ・臨床研修指定病院等

■ 特定入院料病棟

- ・救命救急入院料病棟
- ・脳卒中ケアユニット
- ・特定集中治療室
- ・ハイケアユニット
- ・母体・胎児集中治療室
- ・精神科急性期治療病棟
- ・新生児集中治療室
- ・新生児治療回復室
- ・小児入院医療管理料病棟
- ・児童・思春期精神科病棟
- ・回復期リハビリテーション病棟
- ・緩和ケア病棟

◆ 外来診療科

血液腫瘍内科、臨床腫瘍科、小児外科、呼吸器外科、心臓血管外科、形成外科、美容外科、頭頸部外科、小児科、児童精神科、産婦人科、放射線治療科、放射線診断科、精神神経科、救急科、病理診断科、緩和ケア科、リハビリテーション科
※上記以外の診療科も、がん化学療法関係の診療を行います。

◆ 外来診療について

岩手医科大学附属病院			
受付時間		診療時間	
平 日	8:30～11:00 13:00～16:00	平 日	8:30～17:00 (新患の方は診療科によって診療時間が異なります。詳しくは各診療科へお問い合わせください。)
第1・4土曜日	8:30～11:00 (受付時間以外においでの方は総合案内、または各診療科の受付にお申し出ください。)	第1・4土曜日	8:30～12:30

- 完全予約制の病院となりますので、受診の際は紹介状が必要となります。紹介状がない場合、選定療養費5,000円(税別)がかかります。
- 常時(24時間365日)1次・2次・3次救急全てに対応します。

◆ 様々な病院機能について

脳卒中ケアユニット (SCU)

急性期の脳血管障害(脳梗塞・脳出血・くも膜下出血など)の患者さんを受け入れる専用の病床です。脳卒中の専門知識を持つ経験豊富な医師、看護師、リハビリテーション技師らの専門チームにより、脳卒中の発症早期から 24 時間体制で集中的に治療を行います。



ハイケアユニット (HCU)

診療科を問わず重症度が高く、高度な治療や看護ケア・処置が必要な患者さんや全身麻酔下の大手術後で術後管理が必要な患者さんを受け入れる病床です。



高度救命救急センター

広範囲熱傷や四肢切断、急性中毒等の特殊疾病患者に対する救急医療を提供します。また、ドクターヘリのヘリポートと高度救命救急センターは最短距離で結ばれ、手術室までの専用エレベーターも完備しており、時間のロスなく高度治療が可能です。



特定集中治療室

循環器統合集中治療室 (CICU)、一般集中治療室 (GICU)、小児集中治療室 (PICU)

一般集中治療室・小児集中治療室に加え、循環器系疾患に特化した循環器統合集中治療室を備え、手術後に高度な状態管理を要する、あるいは重篤な症状を呈する患者さん等の高度かつ集中的な治療を行います。



総合周産期母子医療センター

母体・胎児集中治療室 (MFICU)

母体や胎児に合併症を有するハイリスク妊娠や、流産の可能性の高い妊婦に対応する治療室です。救急車から直接搬入し、母体救命や高度な母体・胎児医療を行うことができます。



総合周産期母子医療センター

新生児集中治療室 (NICU)、新生児治療回復室 (GCU)

新生児集中治療室 (NICU) は極低出生体重児や仮死新生児、重症心疾患、外科疾患など、集中治療が必要な患者さんを対象とした治療室です。NICU で治療を受け、低出生体重から脱した新生児や状態が安定してきた新生児は、新生児治療回復室 (GCU) や小児病棟に移動して引き続きケアを受ける場合もあります。



回復期リハビリテーション病棟

脳卒中または骨折などの病気で急性期を脱しても、まだ医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者さんを対象とした病棟です。多くの専門職種がチームを組んで集中的なリハビリテーションを実施します。



緩和ケア病棟

緩和ケアを専門的に提供する病棟です。この病棟は、一般病棟や在宅ケアでは対応困難な心身の苦痛がある患者さんへの対応や、人生の最期の時期を穏やかに迎えることを目的としています。



精神科急性期病棟

急性期の精神疾患に関するケアを行います。患者さんの状態に合わせて、多職種連携により急性期の症状の把握や対処、コンサルテーション、リエゾン精神医療を提供し、地域連携によるコミュニティケアへの導入を行います。



子どものこころ病棟

児童・思春期精神科病棟

3歳から16歳未満の子どもの、こころや行動の問題全般を対象として診療する病棟です。ご家族や学校・地域のかかりつけ医の先生方と連携を取りながら問題解決のための診療を行います。



患者サポートセンター

患者サービスの向上および地域医療連携の更なる推進を図るため、矢巾新病院1階に患者サポートセンターを設置しました。患者さんの相談窓口を一元化するとともに、地域の他医療施設が紹介しやすい仕組みを構築します。



エネルギーセンター

矢巾新病院で使用する電源および冷暖房などの熱源を供給するほか、隣接するドクターヘリ基地や岩手県立療育センター、盛岡となん支援学校に対して電源を供給します。大規模災害発生時や外部エネルギー供給が途絶した場合でも、エネルギーを1週間は供給できるよう計画。また、有事の際に近隣住民の避難所として提供する防災協定を矢巾町と締結しています。



◆ 特徴的な医療設備について

放射線治療機器



がんに対しピンポイントに照射する定位放射線治療や強度変調放射線治療（IMRT）、画像誘導放射線治療（IGRT）などの高精度治療を短時間、かつ高精度に行うことができます。



ハイブリッド手術室

血管撮影装置を手術室に設置することにより、画像下治療（IVR）と外科的手術を組み合わせ、大動脈ステントグラフトや経カテーテル大動脈弁置換術など低侵襲で高度な治療ができます。

CT装置



高速撮影および低被ばく撮影が可能となります。息止めができない患者さんや、動きやすい小児でも鮮明な画像が得られ、特に心臓CTに威力を発揮します。矢巾新病院には本学が企業と共同研究して生まれた高性能CT装置が整備されています。

ハイブリッドCT

手術支援を考えた大開口径の設計で様々な生命維持装置をつけた状態での撮影が可能になります。また外部冷却方式を採用しクリーンな手術室を実現します。



特集

附属病院移転に伴う入院患者搬送の実施について

9月21日に附属病院移転に伴う入院患者さんの一斉搬送が行われました。当日は盛岡市内丸の前附属病院から矢巾新病院までの約10kmの搬送を自衛隊、警察、消防、医療機関等にご協力いただき、無事に計画を遂行することができました。本稿では入院患者搬送当日の様子について紹介します。

■ 実施概要

附属病院移転に伴う入院患者搬送は、搬送スタッフ1,200名、搬送車両53台により行われました。当日は114名の入院患者さんを重症度別に分類し、安全を第一に実施されました。搬送は8時開始、15時58分に最後の入院患者さんが矢巾新病院の病棟に到着し、入院患者一斉搬送は無事終了となりました。

■ 実施日時 令和元年9月21日(土) 8時搬送開始、15時58分搬送終了

■ 搬送ルート ①国道4号(救急車、自衛隊車両)
②国道46号(介護車両、マイクロバス)

内丸から矢巾の搬送ルート



■ 搬送患者数	114名	- 救急車両搬送 83名 (内、重症系患者 57名) - 自衛隊車両搬送 8名 - 介護車両搬送 9名 - マイクロバス搬送 14名
■ 搬送スタッフ数	1,200名	- 医師、歯科医師 200名 - 看護師 350名 - その他職員 450名 - 自衛隊、消防、警察 150名 - 関係医療機関等 50名
■ 搬送車両台数	53台	- 救急車両 36台 - 自衛隊車両 6台 - 介護車両 9台 - マイクロバス 2台 ※一番多い車両で最大4往復。 ※内丸・矢巾間の搬送距離：約10km
■ 協力機関	自衛隊	陸上自衛隊岩手駐屯地第9特科連隊本部、陸上自衛隊第9師団司令部第4部
	消防	盛岡地区広域消防組合消防本部、花巻市消防本部
	警察	岩手県警察本部、岩手県盛岡東警察署、岩手県紫波警察署
	関係医療機関	青森県立中央病院、日本赤十字社 盛岡赤十字病院、医療法人日新堂 八角病院、医療法人仁医会 都南病院、医療法人友愛会 盛岡友愛病院、医療法人松誠会 滝沢中央病院、医療法人巖心会 柝内病院、医療法人巖心会 柝内第二病院、医療法人恵仁会 三愛病院、医療法人共生会 松園第二病院、医療法人愛和会 盛岡南病院、特定医療法人 盛岡つなぎ温泉病院
	民間救急車	株式会社リーベン、民間救急東京

■ 当日の様子

当日は予行演習での想定人数より少ない患者数でしたが、重症患者さんも多く、難易度は高い搬送となりました。本番に向け2回の予行演習を行い、問題点を抽出し、改善を繰り返したことで、より安全でスムーズに搬送することができました。

◆ 前附属病院からの搬出



正面エントランスの車両プール



前附属病院内の搬送



担架（自衛隊）への乗せ換え



救急車用ストレッチャーで院外へ



救急車への収容



矢巾新病院へ出発

◆ 内丸－矢巾間の搬送



国道4号



町道中央1号

◆ 矢巾新病院への搬入



矢巾新病院に到着



患者さんを慎重に搬送する自衛隊員



院内用ストレッチャーへの乗せ換え



矢巾新病院搬送本部



矢巾新病院内の搬送



病棟へ到着

■ 患者搬送を終えて

小川理事長は「この病院は世界第一号機を含めて、様々な高度治療機器、診断機器を備えている。世界に出しても恥ずかしくない病院である。岩手・北東北の患者さんは安心してこの病院に来てもらいたい」と述べました。

また、小笠原病院長は「病棟で安らかに過ごしている患者さんを見て、非常に安心した。患者さんには新しい病院に移ることへの様々な不安があったと思うが、それを全く感じなかった。それは現場のスタッフがきちんと患者さんの不安を取り除いてくれたおかげだと思う。開院に向けて、とにかく県民の方々が安心して高度な医療を受けられるように努めていきたい」と述べました。



報道機関の質問に答える
小笠原病院長（左）と小川理事長（右）

岩手医大 新病院開院

患者114人無事搬送

矢巾24日から外来診療



矢巾市に移転開院した岩手医大新病院。大規模な入院患者の搬送も無事に終わった。21日

岩手医大（小川彰理事長）の新付属病院は21日、矢巾市町医大通に移転開院した。盛岡市内丸の旧病院から約10分離れた新病院まで、重症患者114人を乗せた約14人の入院患者を二台搬送。同大によると、患者が搬送した人はおらず無事だった。外来診療は、旧病院を法用し同時開院した内丸メディカルセンター（MC、50床）とともに24日から始まり、最先端の診療・救急を担う本県医療の拠点としてスタートを切る。

【関連記事あり】

患者は0歳の新生児から若くは医師や看護士が同行し88歳、医師、看護士、自衛隊、消防関係者ら約1200人が携わる大規模搬送で、救急車、自衛隊車両など約50台で国道4号、同6号をバスターン輸送した。搬送は午前8時に始まった。患者搬送が想定できた患者は県内外に転院させるなど事前の対応を進めたため、当初の見込みより約3時間早い午後3時50分ごろに終了。患者別に1台ずつに分類し、保育器や人工呼吸器を使用する最も重症な患者

高度な診療・医療機器や手術室などを導入し、高度救命救急センターや総合産科母子医療センター、緩和ケア病棟などを備える県内唯一の「指定機能病院」として中身を強化した。同大は1807（明治30）年の開学以来、本拠を置く内丸の施設老朽化を受け2002年、移転事業に本格着手。病院は17年3月暫工し、今年6月完成した。搬送終了後、小川理事長は「国民の協力、県内外の病院の協力により一人の患者も搬送もなかった。世界に誇れる病院だ」と述べ、小川副理事長は「安心して高度な医療を受けられる病院」と強調し

術室などを導入し、高度救命救急センターや総合産科母子医療センター、緩和ケア病棟などを備える県内唯一の「指定機能病院」として中身を強化した。

県内の病院移転に伴う患者搬送は1989年、盛岡市立病院が同市花巻町から

約3・5分離れた同市本宮へ68人を搬送。数日間かけて実施した例がある。

岩手日報 2019年9月22日掲載

国内留学レポート

茂木 はるか (JA 秋田厚生連 平鹿総合病院)

この度は岩手医科大学外科学講座において令和1年6月から8月までの3ヶ月間、国内留学という形で研修させていただきました。佐々木章教授、大塚幸喜先生をはじめ外科学講座の先生には大変お世話になりました。皆さんのご尽力のおかげで貴重な経験をさせていただき、この場をお借りして深く感謝を申し上げます。

私は秋田大学を平成28年に卒業し、現在、秋田県南横手市にある平鹿総合病院で勤務しています。横手は本来雪深い地域ですが、2月現在、積雪なくかまくら祭りの開催も危ぶまれているほどです。当院は秋田県南地域を担う中核病院として存在しており、年間で約500例ほどの外科手術を行っています。まだまだ消化管の領域においては開腹手術がメジャーで、腹腔鏡手術の件数は少なく、術者やスコピストの経験もほとんどありませんでした。4年目の後期研修医という立場になり、今後の自分の外科人生の選択肢の幅を広げたく、腹腔鏡手術の経験を積みたいと思い、質の高い手術を数多く学ぶことができる環境として岩手医科大学外科学講座をご紹介いただきました。まだまだ基礎も出来上がっていない後期研修医としての立場でしたが、多くの先生のご指導を賜り、3ヶ月間非常に充実した研修を行うことができ、今後さらに腹腔鏡下手術に関して学びたいと思う次第です。

3ヶ月間、大腸グループに属し、多くの大腸癌手術をスコピストとして経験させていただきました。大腸グループでの手術は執刀医、助手、スコピストが誰でも手術が同じように行えるように手術手順の定型化がなされています。それを学ぶ方法として、手術映像と音声が収録され



ている教育用ビデオで予習し、その後、実際の手術時には注意点や疑問点などの会話が行われ、手術後にビデオを見て復習するというものです。この日々の積み重ねを繰り返すことで、現在の素晴らしい体制が作り上げられているのだと感じ、私もこの3ヶ月間、真似て暇さえあれば手術動画を見ていました。

週3回の手術日は、高難易度の手術を直列2件で行うことが普通であることにまず驚きました。その手技は正確で無駄がなく、見ていて非常に楽しく、自分がスコピストとして参加していない時も、ほとんどの時間を手術室で過ごしました。また、大腸癌手術だけでなく、炎症性腸疾患の手術などを経験できたことは非常に興味深かったです。

また、国内留学の経験、スコピストとしての経験を題材に、内視鏡外科学会での発表もさせていただき、大変貴重な経験をさせていただきました。大塚先生をはじめ、スライド作成などからご指導してくださった松尾先生、手術時に指導してくださった大腸グループの先生方、ありがとうございました。

また、手術以外では、パーベキューに参加させていただいたり、医師会野球大会にも(まさかの)参加させていただいたり、3ヶ月という短い期間ではありましたが、チームの一員になれた気分で大変嬉しかったです。さんさ祭りに行ったり、たくさん飲み連れて行っていたり、岩手・盛岡での生活はとても充実したものとなりました。

今後、外科医として成長できるよう日々精進して行きたいと思います。再度機会がありましたら、成長した姿で、是非研修させていただきたいと思います。その時はよろしく願いいたします。ありがとうございました。



海外学会報告

第7回アジア肝胆膵会議(A-PHPBA)

齋藤 和好

2019年9月4日から7日まで韓国ソウルで開催された Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association (A-PHPBA) で、齋藤和好名誉教授がLegendary Surgeonsの一人として招待されました。立ち見がでるほどの満員の会場の中で、岩手医科大学での腹腔鏡肝切除の導入から生体肝移植ドナー手術への適応まで、それぞれの手術ビデオを提示し、論文業績も併せて発表されました。岩手医大外科の取り組みをわかりやすく、そして魅力的に発表され、拍手喝采にてその会が終了となりました。

(文責 高原)



Accumulated surgical skills on laparoscopic liver surgery and liver transplantation

We have positively applied minimal invasive approach to liver surgery and have been carrying out laparoscopic liver resection (LLR) at our institution since May 1997, and approximately 750 patients have undergone LLR by April 2019. At first, the laparoscopic peripheral wedge resection procedure was introduced, and the extent of resection was extended in a stepwise manner. And at 2002, we developed a laparoscopy-assist major liver resection in which the liver was mobilized laparoscopically and a parenchymal transection with a hanging technique through a small incision was made. The pure laparoscopic left lateral sectionectomy was the first sectionectomy adopted in April 2003. Right hemihepatectomy was the first major pure LLR introduced in September 2009.

Regarding the living donor liver transplantation, the open donor hepatectomy was introduced in January 2007. After acquiring several procedural skills in laparoscopy-assisted major hepatectomy for hepatic tumors, we applied this technique to donor hepatectomy and had been using laparoscopy-assisted donor hepatectomy (LADH) for the procurement of various graft types. From the second case on, we performed a LADH for the 40 consecutive cases. After performing a fairly large number of these advanced surgical techniques in both laparoscopy-assisted and pure laparoscopic major hepatectomies, we began performing pure laparoscopic donor hepatectomy (PLDH) in 2012. From then on, 34 live donors underwent PLDH.

In this session, we present our accumulated surgical skills on laparoscopic liver surgery and liver transplantation by using the original video clip.



Accumulated Surgical Skills in Laparoscopic Liver Surgery and Liver Transplantation

Kazuyoshi Saito¹

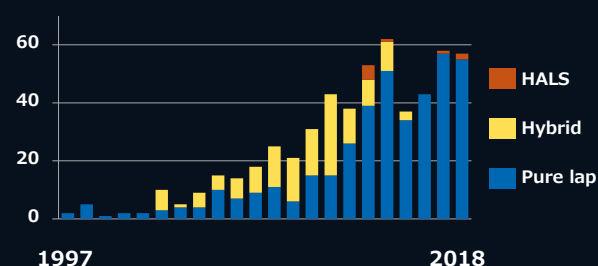
T. Takahara², Y. Hasegawa², H. Nitta², A. Sasaki²

1. Iwate Rehabilitation College

2. Iwate Medical University School of Medicine

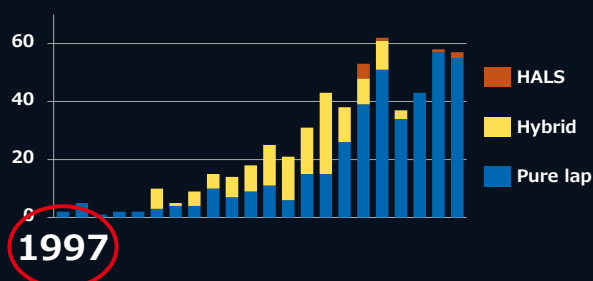
1

Laparoscopic liver resection at Iwate Medical University



2

Introduction of LLR



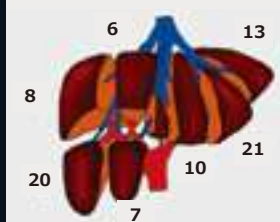
3

British Journal of Surgery 2009

Ten-year experience of totally laparoscopic liver resection in a single institution

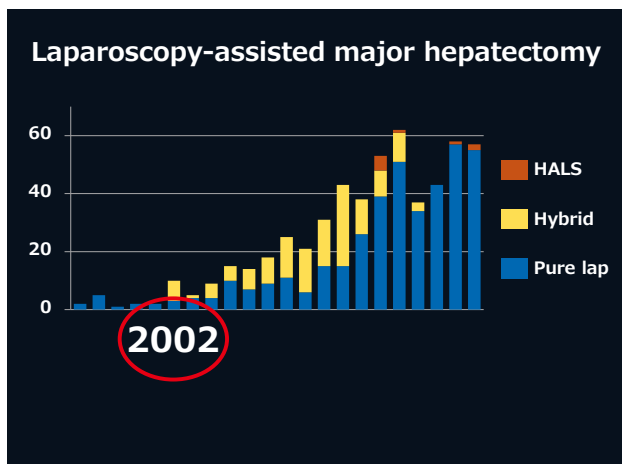
A. Sasaki, H. Nitta, K. Otsuka, T. Takahara, S. Nakazawa and G. Wakabayashi

Location of tumors

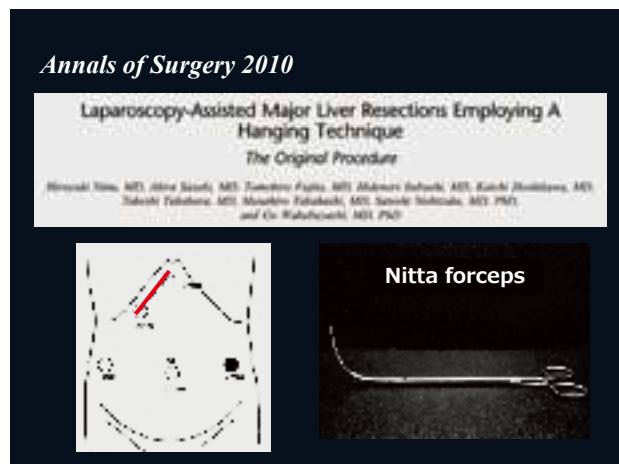


Op time 177 min
Blood loss 64 mL

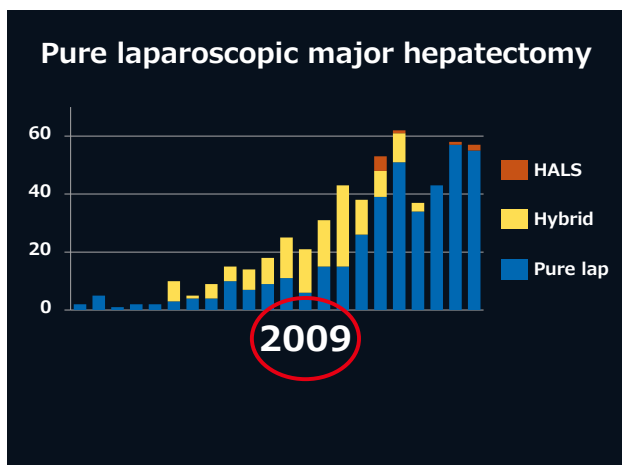
4



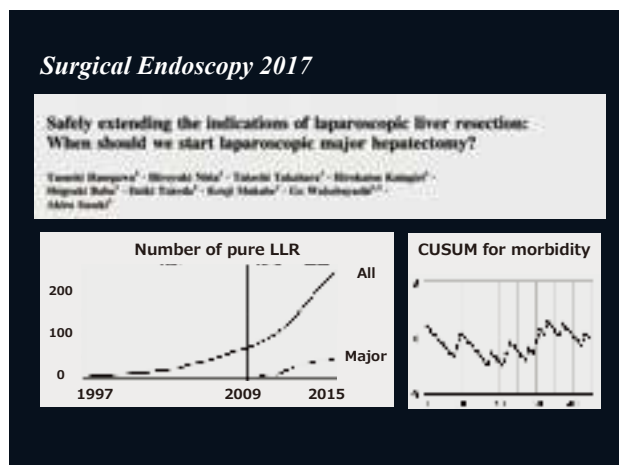
5



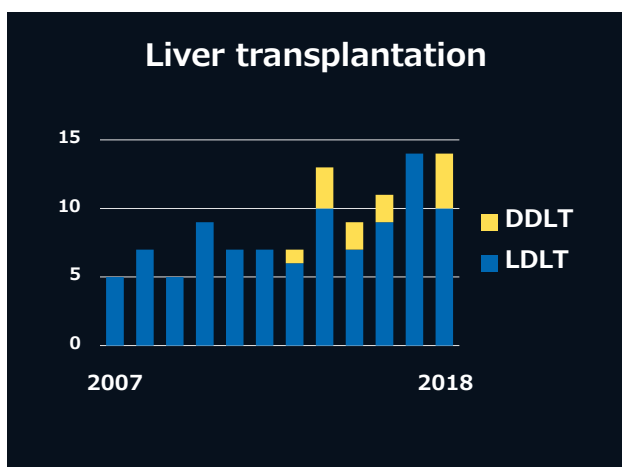
6



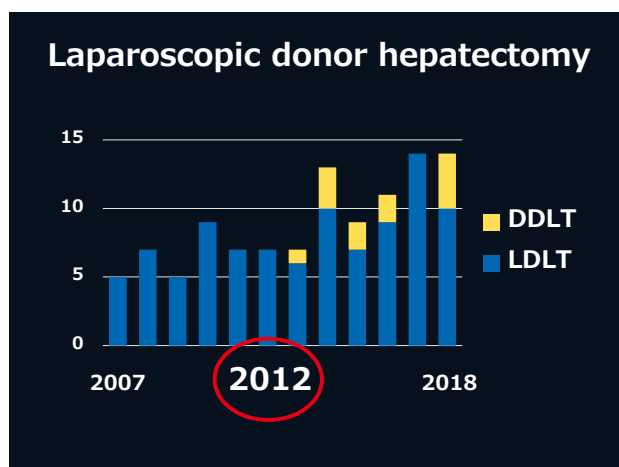
7



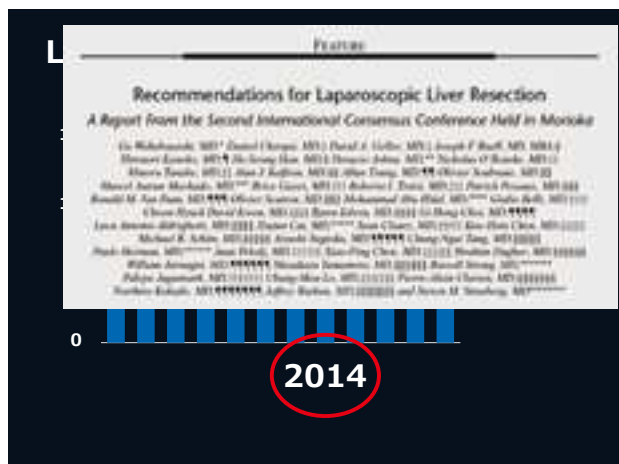
8



9



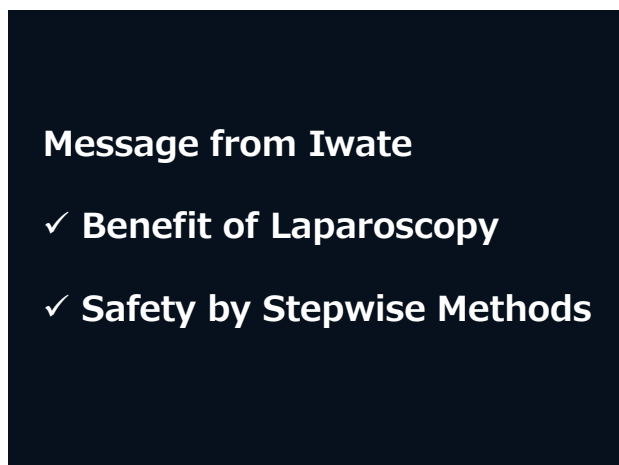
10



11



12



13



第35回環太平洋外科系学会日本支部学術大会 (PPSA-JC)

中村 侑哉 (医学部研究科博士課程 3年)

今回、The 35th congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapterに参加させていただきました。自分の結婚式はハワイで行っておりまして、今回が3回目の渡航でした。まさか、学会で再度訪れることになるとは考えておりませんでした。国内の学会発表はこれまで何度か行っておりましたが、英語での発表は、まず普段英語に触れる機会もほとんどないために非常に不安なものでした。いきなり英語ができるわけではないので、日ごろから英語学習に意識しておりましたが、なかなかうまくいかずにおりました。実際のところは発表練習を何度も繰り返して、考える質問を多くあげ、どんな質問にも対応できるようにそれに対する回答を徹底的に覚えてのぞみました。今年度の学会は例年と異なり、ポスター発表がなくすべてオーラルでの発表でした。練習、準備の甲斐もあって質問も用意していたものを少し言い換えたりなどで、何とか発表を終えることができました。他の発表者の方で非常に英語が上手な方も多くいらっやって感心いたしました。学会以外ではハワイを堪能させていただきました。買い物をしたり、ロミロミ、ステーキを食べたり、ダイヤモンドヘッドに登ったりと楽しく過ごすことができました。

今回は日本人のみで行われた海外発表ですが、来年度参加を予定しているThe Asia Pacific Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgeon of Asiaではアジア圏のさまざまな国の方が集まり、日本人英語よりさらにレベルアップした語学

力が必要とされると伺っております。改めて普段から英語に触れていることが大切と思いますが、限られた時間の中で日々の業務に加え学ぶのは困難なことと思います。

学会発表のための英語力ではなく、単に英語を習得したいというモチベーションが非常に大切と、この学会を通して考えました。

岩手県立久慈病院で3年目として勤務させていただいた中で参加させていただきました。また、学会には妻も同行させていただき、同業でもあり彼女にとっても非常に有意義な経験をさせていただきました。最後にこのような機会を与えていただいた佐々木教授、ご指導いただいた久慈病院の吉田院長、遠野先生、皆川先生、伊藤先生、八重樫先生、石岡先生、演題についてご助言いただいた高橋先生、引率いただいた長谷川先生他、先生方に感謝いたします。本当にありがとうございました。



有吉 佑 (医学部研究科博士課程 2年)

2019年2月18日～3月2日にHonolulu, Hawaiiで開催された第35回環太平洋外科系学会日本支部会に参加しましたので報告させていただきます。

学会ではoral presentationとして、「Laparoscopic surgery for right-sided colon cancer by intraperitoneal ileal dissection」という演題で発表しました。腹腔鏡下結腸右半切除において、腹腔内で回腸を切離することにより、良好な視野下で郭清が行えること、また、腹腔外への腸管挙上の際に腹壁の切開が最小限で済むことを、181例の同手術デ

ータより検討し、報告しました。

海外発表、また、英語での発表は初めてであり、事前に準備は行ったものの、自分の力不



足を痛感し、今後もなお一層の努力を心に誓いました。学会では消化器外科だけでなく、外科系の多くの医師が発表を行っており、これは貴重な経験で非常に勉強になりました。

今回の発表にとどまらず、今後も論文や学会発表などの

学術活動について積極的に行っていきたいと思っております。

最後になりましたが、今回このような貴重な機会を与えて頂き、佐々木教授をはじめ、大塚先生、教室の先生方に厚く感謝申し上げます。

早野 恵 (医学部研究科博士課程 2年)

今回、2019年2月28日から3月2日にかけてHonolulu, Hawaiiで開催されたThe 35th The Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter (第35回環太平洋外科系学会日本支部学術集会)に参加しましたのでご報告させていただきます。

この学会は当科では大学院1年生が初めての国際学会発表の場として参加することが多い学会で、日本人主体の学会ではありますが、様々な外科系の若手医師が国際学会発表を行います。私も初めての国際学会への参加であり、貴重な経験のできる機会と思い参加させていただきました。

今回は全ての発表がoralであり、「A case control study comparing reduced port and conventional laparoscopic Well's procedures for rectal prolapse treatment」という演題で発表しました。指導していただいた梅呂先生には、私の英語や知識の至らない点を含め、忙しい中で何度も原稿の読み合わせをしていただいたり、熱心に指導していただきました。また、質疑応答に関してもある程度の質問を想定し、回答を準備したうえで発表には臨みました。原稿を頭に入れておけば、それを発表すること自体は滞りなく終わりましたが、やはり質疑応答となると自身の英語力のなさからうまく回答をすることができなかったり、質問の意図をくみ取ることができずに終わってしまいました。また、他大学の先生への質問の際にも、自分の考えや質問を正しく伝えることも難しさを実感しました。自分の中では準備

をある程度したつもりではあったものの、自分の勉強不足を悔やむばかりでした。他大学の先生方のレベルの高い発表を聞いてみると、学年や年齢に関係なく英語やプレゼンテーションの能力を磨く必要があると感じました。

現地ではwelcome partyやfarewell partyにも参加させていただき、岩手医大と縁のある先生方とも交流させていただきました。また、初めてのHawaiiということで、おいしい食事や観光もわずかながら楽しませていただき、海外の雰囲気を味わってきました。英語圏でnativeな英語に触れる機会にもなり、学会中だけでなく滞在時間がとても有意義で貴重な経験となりました。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えていただき、ご指導いただきました佐々木教授、長谷川先生、梅呂先生をはじめとする教室の先生方に心より御礼申し上げます。



屋成 信吾 (医学部研究科博士課程 2年)

今回、平成31年2月28日から3月2日にHyatt Regency Waikiki Beach Resort & Spa (Honolulu, Hawaii)で行われましたThe 35rd Congress of the Pan-pacific Surgical Association Japan Chapter (PPSA-JC)に参加させていただきました。

「Penile metastasis in a patient with rectal carcinoma: a case report」という演題で発表させていただきました。初めて英語での海外発表ということで事前準備の抄録作成、スライド作成、発表原稿作成など多くの戸惑いがあり、指導医の先生に多大な迷惑をかけながら、何とか進めました。

予演会での発表練習のため朝会に参加した際に自分の発表練習が不十分すぎることを痛感し、1週間後に再度機会を頂き、発表練習をさせて頂きました。予演会での発表練習以降はそれ以前よりも何度も発表原稿を読み込み、質疑応答に関しても考え得る想定質問に対する解答を準備して発表に臨みました。

口演発表の発表自体は練習通りに進みましたが、質疑応答では質問者の先生の意図がくみ取れず質問者の先生が意図していない返答をしてしまう場面もありました。自分の英語力の無さ、経験不足を痛感しました。

本学会には、他大学の外科系医師が多数参加しており、他大学の医師たちの発表を聞いて、英語力やプレゼンテーションスキルの素晴らしさなど大変勉強になりました。また、自分もそのように発表するために研鑽を積んでいかなければと思う機会となりました。

学会以外では観光も楽しませて頂きました。本学会に帯同して下さった長谷川先生がみんなを食事に連れて行っ

てくださったりと、一緒に発表した先生方とハワイの街を歩きながら夕食を相談して食べに行ったり、楽しいひと時を過ごせました。

最後になりますが、こうした貴重な機会を与えて頂いた、佐々木章教授をはじめ、諸先生方に心よりお礼申し上げます。



高橋 智子 (医学部研究科博士課程 2年)

今回、平成31年2月28日(木)～3月2日(土) Hyatt Regency Waikiki Beach Resort and Spa (ホノルル、ハワイ) で開催されました、The 34th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter (第35回環太平洋外科系学会日本支部会) に参加させていただきました。私は平成31年に初期臨床研修をスタートすると同時に、本学外科学講座に入局、大学院にも入学させていただき、今回は大学院1年生としての参加となりました。本学会は若手外科医の英語での学会発表の登竜門として過去の諸先輩方も参加されており、海外学会での発表経験がなかった私にとっても良い挑戦の機会になると考え、先輩方の後を追うように参加を決めるに至りました。

当日は、[Desmoid tumor with familial adenomatous polyposis successfully treated by chemotherapy: a case report] という演題で、現地の正装であるアロハドレスに身を包み、口演での症例報告をさせていただきました。抄録準備からスライド、発表原稿の作成、発表練習、想定質問への対応まで指導医の先生方に手厚くご指導いただいたおかげで、自信を持って発表に臨むことができました。質疑応答では、日本語と同じパフォーマンスで回答するにはもっと語彙力が必要であることを痛感いたしました。また、他施設の若手医師たちの発表や活発なディスカッションを

見て良い刺激となりました。学会最終日にはFarewell Partyにも参加させていただき、同年代の医師達や学会を主催して下さった先生方と交流を深めることができたのも貴重な思い出となっています。

空き時間には同行した先輩方や同期とともにハワイ観光や美味しい食事を楽しみました。みんなで早起きをしてDiamond Headに登って見た日の出と美しいホノルルの景色は今でも忘れられません。

医師1年目という早い時期からこのような海外学会への参加機会を得られたことは本当に貴重な経験となり、今後の海外学会参加への意欲に繋がりました。そのために、このモチベーションを維持しながらこれか



らも継続的に医学や英語の学習に励んでいきたいと決意を新たにしております。今回このような機会を与えてくださ

り、熱心にご指導くださった佐々木章教授をはじめとする外科学講座の諸先生方に心より感謝申し上げます。

小泉 優香（医学部研究科博士課程 2年）

今回、平成31年2月28日から3月2日に、Hyatt Regency Waikiki（Honolulu, Hawaii）で行われました The 35th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter（第35回環太平洋外科系学会日本支部学術集会）に参加させていただきましたのでご報告させていただきます。

演題は「Cervical tuberculous lymphadenopathy: two case reports」で口頭発表をさせていただきました。

抄録作成から発表までの過程で最初の難関はスライド作りでした。指導医の石岡先生にはお忙しい中、何度も何度もスライドを添削していただき、なんとか間に合わせることができました。次に苦労したのは質疑応答です。緊張すると、言葉が耳に届かなくなってしまうのでなるべく平常心で発表に臨むように心がけました。

本番ではやはり緊張しましたが簡単な質問には答えることができました。しかし、専門用語が混在する会話は理解できないことの方が多く、自分の英語の能力不足を痛感しました。次回、またこのような機会に恵まれた際には自分が伝えたいことを質疑応答で答えられるように普段から英

語論文を多く読んだり、積極的に英語で話したりするなど努力していきたいと思っています。

学会以外では先輩方とアメリカンサイズのステーキやハンバーガーを食べたり、サーフィンに挑戦したりと楽しいひと時を過ごすことができました。諸事情により Diamond Head 登山ができなかったのは心残りです。

最後になりますが、このような機会を与えていただき、多大なるご指導をいただきました佐々木章教授をはじめ、諸先生方に心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



医療過疎地域支え栄光

住友生命福祉文化財団・19年度奨励賞

遠藤院長(葛巻病院)が受賞

葛巻町の国保葛巻病院の遠藤秀彦院長(67)＝同町葛巻出身＝は、第13回地域医療貢献奨励賞(住友生命福祉文化財団主催)に選出された。高齢化や医師不足など、医療に恵まれない過疎地域を長年支え続け、地域医療の充実に貢献したことが評価された。遠藤院長は医師を確保するため後進の育成にも尽力しており「後輩にも誇りをもって仕事をしてもらいたい」と願いを込める。

同賞は、地域医療に多大な貢献をしている医師を顕彰するもので、2019年度は全国各地から6人が選出。県内では18年度の済生会岩手病院の柴野良博院長に続き2年連続の受賞となった。

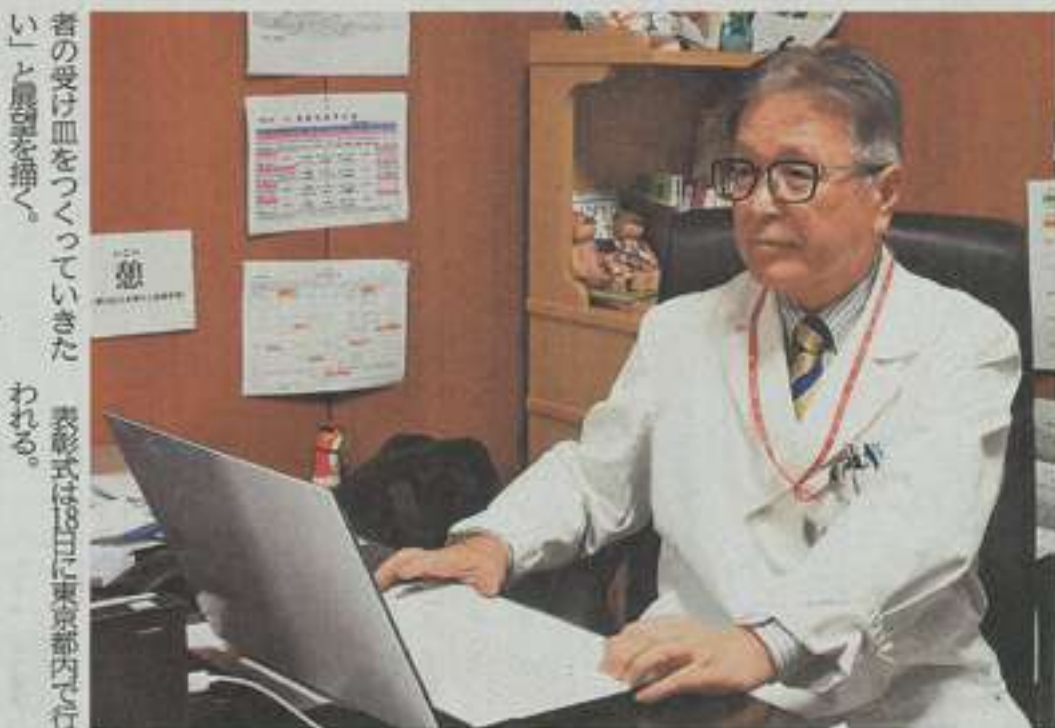
遠藤院長は葛巻中から盛岡一高を経て、栃木県の自治医大を

古里で包括ケアに注力

卒業。1978年の県立宮古病院を皮切りに40年間の県立病院勤務のうち、36年間にわたって沿岸部や過疎地域など医療環境が厳しい地域で勤務を続けた。11年の東日本大震災発生時は県立釜石病院で院長として陣頭指揮。近隣の病院が被災し、診療不能に陥る中、要請のあった救急患者の受け入れに尽力するなど、災害拠点病院としての役割を果たした。

18年からは古里の国保葛巻病院に勤務。同病院に地域包括ケア病棟を導入するなど、高齢者が住み慣れた地域で生活が続けられることができる地域包括ケアシステムの確立に力を注いでいる。

遠藤院長は「自分よりも過疎地域で頑張っている医師はたくさんいる。人口減少が進んでも地域から患者はいなくならない。行政や地域と連携し、高齢



本年度の地域医療貢献奨励賞を受賞した国保葛巻病院の遠藤秀彦院長

者の受け皿をつくっていきたく、表彰式は18日に東京都内で行われる。」と展望を描く。

医師の仕事に興味を深める

久慈中で出前講座

久慈

久慈市栄町の久慈中（菊

地理校長、生徒419人

の2年生133人は12日、

同校で医師の出前講座を

受けた。生徒たちは医療の

仕事を学び、将来のキャリア

について考えを深めた。

県北広域振興局の医療人



「日々アンテナを張って謙虚に学ぶ姿勢が大切」と語る小泉優香臨床研修医

材育成事業の一環。県立久慈病院の小泉優香臨床研修医（26）が、医師の仕事や学生時代に学んだことを紹介

した。「医学は日々進歩しており、常にアンテナを張って謙虚に学ぶ姿勢が大切」と話し、生徒たちに「新しいことに挑戦し、何事も全力で取り組んで」とエールを送った。

新山胡桃さんは「朝も夜中も忙しく大変な仕事で、すごいと思った」と驚き、佐々木陽琉さんは「人のために頑張っていて、医療の仕事に興味を持った」と意識を新たにした。

同振興局は2010年度から出前講座を行っており、本年度は久慈地域の中学校10校で実施している。

February

2

大塚幸喜准教授・新田浩幸准教授 昇任祝賀会 (2019.2.27. 駒龍)



March

3

日本乳癌学会 東北地方会 (2019.3.2. 仙台国際センター)



March

3

水野大准教授 送別会 (2019.3.27. 盛岡グランドホテル)



岩谷岳特任准教授・木村聡元講師・長谷川康特任講師 昇任祝賀会
(2019.4.24. 喜の字)

April

4



June

6

巖刀会（同門会）総会（2019.6.1. 盛岡グランドホテル）



June

6

巖刀会ゴルフ大会 (2019.6.2. 安比高原ゴルフクラブ)



北上川ゴムボート川下り大会 (2019.7.28)

July

7



スーポリ打ち上げ (2019.7.31)

July

7



August

8

医師会野球大会 (2019.8.25)



September

9

引越 (2019.9.21.)



佐々木純先生 お別れ会 (2019.10.20. 盛岡グランドホテル)

October 10



December

12

巖刀会 忘年会 (2019.12.7. 盛岡グランドホテル)



December 12

医局 大忘年会 (2019.12.27. 盛岡グランドホテル)



Iwate Prefectural Ninohe Hospital

岩手県立二戸病院

新春の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。
令和最初の関連病院便りとして、岩手県立二戸病院よりご報告申し上げます。

平成31年（令和元年）度の診療体制ですが、私 川村が4月から副院長心得から副院長になり、中屋 勉先生、松井雄介先生、瀬川武紀先生（県立江刺病院から4月より着任）の4人体制となりました。長年勤められた川崎雄一郎先生が、今年3月で二戸病院を退職し、二戸市堀野に開業されました。

また、外来診療応援には、毎週月曜日：遠藤史隆先生、毎週木曜日：山田裕彦先生（高度救命救急センター准教授）、毎週金曜日：新田浩幸准教授・医局長、第3月曜日：小松英明先生、第1火曜日（小児外科）：小林めぐみ先生にお手伝い頂いております。そして緩和ケアの診療応援には、毎週金曜日に緩和ケア科教授の木村祐輔先生に来て頂いております。さらに手術応援として11月より隔週木曜日に岩手医大救急・災害・総合医学講座教授の下沖 収先生にもお手伝い頂いております。

昨年は非常に無念な事がありました。令和元年11月4日、中屋 勉先生が肺癌で旅立たれました。53歳という若さでした。詳しくは、追悼文で述べさせていただきます。中屋先生の後任には、盛岡赤十字病院から石橋正久先生が来てくれて、4人体制を維持できました。佐々木章教授、新田浩幸准教授には、人事に関して多大なるご配慮をいただき、感謝申し上げます。

2019年（1月～12月）の全手術数は402件（前年度348）、全身麻酔手術数341件（290）、急患手術数64件（88）、腹腔鏡下手術数166件（122）と前年度より全手術数で54件増加致しました。

麻酔は、常勤の中村敏克先生が病氣療養のため3月で退

職され、4月より関西医科大学滝井病院麻酔科教授の村尾浩平先生が着任しました。被災地の復興に貢献したいという強いモチベーションで岩手に来て頂き、当院に来て頂きました。金曜日、休日は岩手医大麻酔科の応援を頂いておりますが、麻酔科不在時は自家麻酔（主に松井先生）で対応しております。

当病院の医療圏は、二戸市のほか、一戸町、軽米町、九戸村、旧浄法寺町（二戸市に合併）があり、一つの単位として「カシオペア連邦」と呼ばれています。この他、八幡平市、葛巻町、青森県の三戸町、田子町までを含む広い地域（人口10万人強）から患者様をご紹介頂いております。これらすべての地域の病院では外科手術を行っていないため、当外科は岩手県北の拠点として重大な役割を担っており、大きな責任を感じております。

令和元年は、夏までは病院の収益は順調に伸びていましたが、秋ごろから急激な減収となっております。カシオペア連邦の人口減少に歯止めがかからず、外来患者数や病床利用率の改善が得られないため、当院でも令和2年1月より包括ケア病棟（50床）を新設しました。まだ、スタートしたばかりですが、地元の患者さまの急性期及び回復期の医療を充実させることにより、外来・入院患者数を増やし、地元住民への医療サービスを充実させたいと考えています。

令和元年9月、岩手医大が矢巾に移転しました。二戸市からは更に遠くなり、二戸病院の地元市民に対する役割が更に大きくなったと感じます。なるべく二戸圏域で医療を完結すべく、医療サービスを充実させ、地域住民が安心して医療を受けられる環境を作らないといけません。

今後も岩手医大外科の医局員の皆様のご協力を頂きながら、二戸地区の外科診療に真摯に取り組み、地域医療に貢献したいと考えています。



中屋 勉 先生の追悼文

中屋先生は、昭和40年生まれで岩手県宮古市の出身です。宮古高校を卒業後、岩手医科大学に入学し、卒業後、平成7年に岩手医大第一外科（現在の外科）に入局されました。平成11年、学位を取得されております。

岩手医科大学附属花巻温泉病院や県立大船渡病院などで研鑽された後、平成21年に地元の県立宮古病院勤務となりました。平成23年3月11日、東日本大震災に遇い、同病院で救急医療科長だったこともあり、懸命な救護活動を行ったと聞いております。地元での震災はさぞ辛い経験だったと思います。

その後、盛岡赤十字病院、県立釜石病院を経て、3年前の平成29年4月より当院勤務となっております。当院では、当初消化器外科長でしたが、平成30年には災害医療科長を兼任されました。

高校、大学（岩手医大）と私と同じラグビー部に所属しておりました。フォワード（フッカー、RWC2019の堀江選手）だったと思いますが、ねちっこくひたむきなプレーをする、素質を持ったプレーヤーでした。医師になってからは、ラグビーをしていたことはむしろ伏せていた感じでしたがラグビーそのものには興味があった様に思います。先日行われたラグビーワールドカップ2019では、日本のベスト8進出など少しは観戦できたのでしょうか？

車に興味があり、特に外車に詳しく、車の話しをするときは実に楽しそうでした。自らも、日産のスカイラインや、アウディのSUVを持ち、後輩と今話題の車の話しなどをよくしていました。

また、日本や世界の地図が好きで、特に地名に詳しくかったです。将来行きたいところを探したり、行けなくてもその地の特徴などを調べて、仮想旅行を楽しんでいたのでしょうか？

臨床に対しては、真面目で患者さんに寄り添った対応が印象的でした。手術は、早く職人技にあふれたテクニックを持っていました。うまく、早い職人さんというイメージでした。

今年の春頃から咳が続いているなど思い、病院受診を勧



めましたが、風邪ですよといって診てもらっていなかったようです。本人も気になったのでしょうか。6月中旬に呼吸器内科を受診しCTで肺門に大きな腫瘤を認め、6月下旬に肺癌疑いで精査するという報告を受けました。岩手医大で生検をし、肺癌と判明しました。肺癌の病名を告知され、予後が厳しい事を本人と奥様に伝えられました。

今後、病名や治療（化学療法）のことなどを本人から知らされ、大きなショックを受けました。病名（組織型）からタチの悪い疾患であることはすぐわかったので、本人には治療に専念するよう話しました。

仕事仲間にも病気のことが知れ渡ってから、中屋先生に千羽鶴と応援メッセージを作ろうということになり、外科病棟の看護師さんを中心に作成に取りかかりました。みんなの早く治ってほしいという願いから、約1週間程度であつという間にできあがりました。千羽鶴を渡すとき、中屋先生は一瞬不可解な笑顔を見せた後、感謝の涙を浮かべていたと聞きました。

しかし、治療が始まって、副作用で脱毛が顕著となり、（自分だったら人前に出て行くのに躊躇する状態だったのに）、中屋先生は治療の合間に病院に出勤してきて、外来などをこなしてくれました。家にいても、落ち込むだけだからと言って、気丈に仕事をしていました。自分だったら、家族と一緒にいる時間を大切にしようとする時期に、中屋先生は患者さんのことを優先して考えていたのです。

残念ながら化学療法が奏功せず、家族と相談してBSCを選択されました。元看護師だった奥様も献身的に看護され、自宅での療養を続けられました。家族での温泉旅行もされたようです。次第に状態が悪化し、11月4日未明、旅立たれました。CTで病気が判明してから、わずか4ヶ月、53歳という若さでした。

中屋勉先生のご冥福をお祈り致します。中屋先生の無念を心に刻み、今後の医療に精進したいと思います。

2020/1/14 岩手県立二戸病院外科 川村英伸

Iwate Prefectural Karumai Hospital

岩手県立軽米病院

新年あけましておめでとうございます。

医局の皆様におかれましては令和2年となり、矢巾への病院移転も無事終了し、心機一転頑張っておられると思います。

また、いつも当院の応援を頂き、誠に有り難うございます。みなさんに来て頂き、医師不足の当院としては大変助かっています（安藤先生、石田先生、伊藤先生、梅村先生、片桐先生、川上先生、木村先生、清水先生、高橋先生、中村先生、松藤井先生、松尾先生、茂木先生、屋成先生ら）。

昨年の出来事としては、平成9年から続いた二戸病院への手術応援ができなくなりました。というのも、病院では感染防止対策加算や栄養サポートチーム加算など、各種加算を算定しているのですが、その施設基準に「専任の常勤医師」が必要という記載があり、週1回午後二戸病院へ応援していると「常勤と見なさない」という厚生局からのお達しがあったためです。そこを無視しますと、病院収益を返還せねばなくなり、それゆえNCD登録もままならなくなりましたので、外科・消化器外科の指導医・専門医は次回以降維持できなくなりました。まあ最近目は悪くなり、手術から離れていますし、整形的な仕事や病院の役職業務がメインなので、これも医師人生の一つのターニングポイントだと思ってやっていく所存です。

また、厚労省からは公立病院などのうち、全国424病院について「再編統合について特に議論が必要」という分析が発表され、そのうちカシオペア地域では軽米と一戸の2病院がノミネートされています。寝耳に水であったため厚労省の説明会を聴きに行きましたが、2年前のデータでこれらを選抜したようです。もちろん、この最近の病床稼働率に危機感がありましたので、厚労省から言われるまでもなく「地域包括ケア病床の開始、入院病床削減など」多数の改革を行っておりますので、堂々としてようと思っています。いずれにしても地域に「なくてはならない病院」を目指していれば、自ずと残っていけるものと考えています。

最近では、県立病院の医師たちからも「9つの医療圏を維持することはもう難しい、基幹病院こそ合併して（例えば二戸と久慈、磐井と胆沢など）医師を集約し、地域病院は慢性期に特化すべきではないか？」といった意見が出るようになってきています。これは医療者だけで決められるはずもなく、高度な政治マターですので、今後どういう風に働きかけていくか、難しい判断になっていくでしょう。

現況について長々とお話ししてまいりましたが、今後ともご指導ご鞭撻賜りますよう、よろしくお願いいたします。

（文責：葛西敏史）



今年一番医局に人がいた時です。左から、中央病院放射線科藤田先生（1ヶ月交代）、消化器内科漆久保先生（4～9月まで・自治医大）、葛西、学生二人、横島院長、魚谷先生、小笠原参与

岩手県立久慈病院

令和元年度の外科スタッフは吉田徹院長のほか、遠野千尋、伊藤千絵、八重樫瑞典、畑中智貴、救急医学講座/皆川幸洋副救急センター長の6名でした。その他、2年次研修医、1年次研修医もローテーションをしてくれています。また、外科学講座医局からは小児外科を小林めぐみ先生に毎月1回の診療、また、佐々木章教授、肥田圭介教授、大塚幸喜特任准教授、新田浩幸特任准教授、高原武志講師にも手術応援を頂き、最先端の手術術式を学ぶことができます。今後ともご指導をよろしくお願いいたします。

2019年の手術件数は425件（2018：426件、以下カッコ内は前年件数）で、全身麻酔手術件数は337件（313）、鏡視下手術は166件（103）でした。癌の手術においては多い順に大腸癌が53件（53）、胃癌が18件（15）、乳癌が23件（20）でした。緊急手術は59件（63）で、減少しました。久慈病院全体の手術件数は1443件（1581）でそのうち全身麻酔手術は544件（554）でした。外科の手術件数は全科手術総数の28%（27%）であり、全身麻酔手術においては57%（56%）が外科の手術です。

沿岸の基幹県立病院においては受診患者、入院患者が10

%弱の減少があり、当院もその傾向で、外科の手術件数は減少しています。しかし、久慈広域の救急車出動台数は年々増加しており、平成1年が1000台でしたが、平成30年は倍の2000台です。その85%が久慈病院に搬送されています。久慈地域では65歳以上の人口は減少することがなく、2045年まで1万人を維持する見込みであることが要因のひとつです。外科チームも手術のみならず、救急診療にもいそいでいます。今後も医局のご指導、サポートを頂きながら、医師のみならず、医療スタッフとも一丸で気を緩めることなく、地域外科医療に取り組みたいと考えます。

（文責：遠野千尋）



盛岡赤十字病院



今年の当院のトピックスは、長らく当院外科で勤務されていた青木毅一先生が3月末で外科を退任し当院の緩和ケア科へ異動されたことです。第一線でご活躍されていた青木

先生が抜けた穴は大きいですが、残ったメンバーでカバーしていきたいと思います。青木先生の今後のご活躍をお祈り申し上げます。

4月からは石橋正久先生、中村聖華先生、橋元麻生先生、が赴任し7人体制となりましたが、10月から石橋先生が二戸病院へ転勤となっております。

手術件数は、全麻件数601件と昨年より50件ほど減少しております。一方、鏡視下手術は391件と昨年より増加しており、鏡視下手術率は上昇しております。

フットワークを軽く、他科、コメディカル、事務との連携を深め、急患を断らず、期を失せず手術を検討、皆笑顔で院内を走り回っております。

今年在籍した常勤医

杉村好彦、大山健一、高橋正統、有末篤弘

石橋正久、中村聖華、橋元麻生

Morioka Municipal Hospital

盛岡市立病院

令和1年度は、須藤隆之、藤原久貴先生と平成31年4月より有吉佑先生が1年間の長期出張と短期出張で4月より6月まで屋成真吾先生、7月より9月まで高橋真人先生、10月は伊藤浩平先生、11月は川上亜紀子先生、12月から1月まで屋成真吾先生、2月は川上亜紀子先生、3月は高橋真人先生（予定）と初期研修終了後の3年目の先生に交代で勤務頂いており計4名で診療を行っております。

今年当院で最も嬉しい話題は、有吉先生が消化器外科専門医と癌治療認定医を現役W合格したことでした。来年度は、大学院3年生であり医局に戻って研究生活が始まります。テーマさえ決まれば順調に学位取得可能と思われます。

臨床では、令和1年の全身麻酔手術件数は625件で昨年と比べて順調に伸びております。腹腔鏡手術率は、78.1%（488/625件）と昨年の77.3%（440/569件）に比べて微増しております。昨年当科に導入した肥満手術は今年佐々木章教授の指導のもと2件行いました。日本肥満症治療学会の認定施設取得を目指して頑張っております。

学術活動は、英文論文1編、和文論文5編（原著2編）、国際学会発表1件、全国学会発表12件、全国研究会発表1件、地方会発表1件でありました。来年も当科で行なっている臨床試験結果を原著で掲載し、全国に当科の学術面もアピールしていきたいと思っております。現在当科で行っている



臨床試験は、ERAS、RPS、SSI、TAPP、ラパ胆の計5件であります。腹腔鏡手術を積極的に行い、日々多忙ではありますが、今後も当院に勤務頂く医師には、臨床のスキルアップはもちろんのこと、老若問わず活発な学術活動を継続して頂きたいと思っております。

昨年、当院の恒例行事となりましたキッズセミナーは、12回目となりました。今年も開催予定ですので、御子息様の参加希望あれば是非御連絡下さい。

令和2年度の臨床での目標は、保険収載となった胃癌、直腸癌に対するダビンチ手術の導入であります。当院は、今後も中規模病院の機動性の良さを生かした医療、岩手医大外科の支援病院としての使命を果たしていく所存でおります。紹介患者は、待機手術、緊急手術を問わず必ず直ぐに引き受けますのでお気軽にお電話いただければ幸いです。今後ご指導よろしくお願いいたします。

（文責：須藤隆之）

Iwate Prefectural Kamaishi Hospital

岩手県立釜石病院

平成31年度 岩手県立釜石病院の診療状況を報告させていただきます。

外科スタッフは、院長 坂下伸夫先生 副院長 石川徹先生、外科長 箱崎将規 救急医療科長 斎藤匠先生、外科医長 早野恵先生の常勤医中心で診療にあたりました。

外来診療は、一般診療は、2名体制で行い、専門外来は、毎週木曜日 甲状腺外来 小笠原聡先生、月1度の食道専門外来 岩谷岳先生、乳腺外来は県立中部病院から、診療応援をいただいております。

水曜日には県立大槌病院 院長 佐藤一先生に、診療、手術指導いただき医局の先生方にも、月、金の午後の手術応援



をいただいております。

週末の当直、救急対応も応援もいただき、若手常勤医が少なく中で大変助けられております。

また、専門疾患について、佐々木章教授をはじめ各グルー

プの先生方に手術指導や診療方針のアドバイス等ご教示いただき当院での治療につなげております。

癌化学療法、人工肛門管理、創傷処置、緩和ケア、嚥下障害、放射線治療など、認定看護師スタッフとの協力も必要不可欠で、みんなで日常診療にあたっております。

医療クラークさんたちにも、外来診察時の業務や診断書などさまざまな面で協力いただいております。

手術においては、268件施行し、うち全身麻酔は206件でした。緊急手術23件、鏡視下手術83件でした。大腸、胃、乳房、胆嚢、ヘルニア、甲状腺手術が疾患の中心となっております。

2019年は、ラグビーワールドカップ2019が開催され、当院でも後方支援病院としての役割を担いました。台風の影響で、残念ながら1試合中止となりましたが、病院としては観客の方々の体調不良等を中心に対応し、大きな事故もなく無事ワールドカップを終えることができました。

年々患者さんの高齢化が進み、併存疾患を抱えた患者さんも増え、手術件数としては減少傾向ですが、地域のニーズに答えられるように、スタッフ一同で診療に臨んでおります。

これからもよろしくお願いします。

(文責：箱崎将規)

Iwate Prefectural Miyako Hospital

岩手県立宮古病院

県立宮古病院外科と宮古地域の近況を報告します。

昨年は台風19号により、ここ宮古地域を含めた沿岸部でも甚大な被害がもたらされました。被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

今回もまず初めに復興道路に関して。令和2年度末には宮古盛岡横断道路が全て開通することです。順調に開通した場合、盛岡－宮古間が今までより30分は短縮されるそうです（頑張ればもっと短縮…?）。最近106号線を走っていると、移動の間に数カ所で道路脇にポッカリと新たなトンネルが口を開けています。突然トンネルが見えると結構びっくりしますし、夜だと間違っって突っ込みそうになります。事故なく予定通りに開通することを願います。

続きまして医師充足指数について（新たな指標をベースに都道府県や地域別の医師充足状況を数値化し、医師が十分充足されている上位16都府県を「医師多数都府県」、下位16県を少数県に位置付けた）。昨年2月の時点で最も医師が充足している東京は「329.0」で、最も不足している本県は「169.3」だったそうです。令和元年11月では新潟県に次いで医師少数県でしたが、その岩手県の中でも宮古が一番の少数区域だったようです。普段から医療圏の人口に比べて医者が少ない（当院の常勤医38名・うち研修医6名）とは思っていましたが、こまめでは驚きでした。



さて本題の関連病院だよりです。昨年も阿部薫、藤社勉先生（第1外科長兼緩和医療科長）、佐々木秀策先生（救急医療科長）、鳥居拓磨医師は引き続いての勤務でした。昨年の4月に石川徹先生が県立釜石病院副院長として転勤、釜石病院から石黒保直先生が第2外科長兼医療研修科長兼感染管理室長として赴任しています。多少は若返った感じがします。

令和元年の病院全体での全手術件数は1291件で前年より50例ほど増加していました。外科の全手術件数は441件で70例の増加、全身麻酔件数は355件で40例以上の増加でした。緊急手術件数は前年より6件の増加でしたので、予定手術件数の増加が目立ちました。癌の手術では大腸癌が40例ほど増加しており、宮古地域でもやはり大腸癌が増えているんだなあと感じました。昨年の腹腔鏡手術症例は前年より70件程度増加していました。

診療応援も前年同様に毎週火曜日午前外来を野田芳範先生、午後の手術指導に細井信之先生、火曜夜から水曜日午前外来は3ヶ月交代で医局の若い先生に、月一回の専門外来に小松英明先生をお願いしています。

研修医の指導や学生実習など、例年近隣の先生方には非常にお世話になっております。令和になっても地元へ根差した安心できる医療が提供できるように頑張ります。引き続いての医局の先生方のご指導・ご支援をお願いいたします。

(文責：阿部 薫)

Kitakami Saiseikai Hospital

北上済生会病院

巖刀会の先生方に於かれましては、益々御健勝の事とお慶び申し上げます。

北上済生会病院2019年度の報告を致します。

当科は2018年10月より常勤外科医師1名体制で運営する事となり、手術・外来応援を複数の施設より多数頂いております。

火曜日外来に圭陵会会長で在らせられる斎藤和好先生をはじめとして大学病院から木曜日の小松先生による乳腺外来、金曜日午後小林先生による小児外科外来（月1回：他毎週金曜日の外来診療応援）、木曜日の外来には大塚先生に診療応援を頂いています。月曜日の手術応援には医大小児外科の小林先生に水曜日の手術応援に医大緩和ケア科の鴻巣先生にお手伝い頂いており、金曜日は棚橋先生、伊藤先生、藤沢先生にお手伝い頂きました。また、千厩病院の塩井先生には隔週金曜日に、県立江刺病院の天野先生には手術応援のみならず 外来診療もお手伝い頂いています。昨年度は新田先生に膵臓癌症例を2例（膵体尾部切除&膵頭十二指腸切



※写真は築30年、今年でお役目を終える現病院の外観です。

除)、大塚先生にS状結腸癌他臓器浸潤例をご執刀頂きご指導を賜りました。本当に有難うございます。金曜日の病院当直に関しましては隔週で大学病院より派遣を頂き病院としても大変助かっています。

昨年度の全身麻酔手術数、腹腔鏡手術数は前年比1.6倍、2.5倍と大幅に増加しており、これも市内で開業される千田雅美先生、安部彦満先生はじめ御紹介くださる諸先生方のお陰です。この場をお借りして深謝申し上げます。

当院は2020年11月に新病院開院予定であり、今後も手術を含めた診療内容の充実を図るべく、頑張っていきたいと思っております。本年度も医局の先生方、関連病院の先生方からのご支援、ご協力を賜ります様 何卒宜しくお願い申し上げます。

（文責：細井信之）

Iwate Prefectural Senmaya Hospital

岩手県立千厩病院

2019年の岩手県立千厩病院の近況をご報告申し上げます。一番のトピックスは、当院で長らく副院長として勤務された小原眞先生が西和賀さわうち病院の病院長としてご栄転されたことでした。地域医療の精神を大切にされ、多くの重責を担う事になり御心労も多いかと拝察いたしますが、どうか健康に留意され更なるご活躍を願っております。また、2019年4月から、佐々木教之先生が岩手医科大学大学院で研究生活開始となっております。研究の最中の消化器外科専門医合格、おめでとうございます！

2019年4月からは、花巻温泉病院を閉院した塩井（平成13卒）と外科研修として岩手県立久慈病院に2年勤務した石岡（平成27卒）が加わり、塩井、伊瀬谷、石岡の3名の常勤体制で診療にあたっております。

2019年の当院の全手術件数は181件（昨年177件）、全身麻酔件数153件（昨年145件、5%増）、



腹腔鏡下手術件数は91件（昨年60件、51%増）でした。いずれも増加傾向で終えることができ、応援していただいた先生方には感謝申し上げます。

これまで当院では虫垂炎、胆石症、大腸癌、胃癌に対して腹腔鏡下手術を行っていましたが、2019年4月からは、鼠径・大腿・臍ヘルニア・腹壁癒着ヘルニア、胆管結石、遺残尿管、直腸脱にも腹腔鏡下手術を導入しております。また、昨年に引き続き乳腺外来を竹花乳腺クリニックの竹花教先生（乳腺専門医）にご担当いただきまして、乳癌手術件数が11例から19例に増加しました。また、ホームページを充実させ、医師会活動に参加してPRしたことから、一関市内だけではなく、気仙沼や花巻、水沢からも患者さんが受診しております。

岩手医科大学外科学講座からは、手術応援として佐々木章

教授に腹腔鏡下副腎切除術を、大塚幸喜准教授に腹腔鏡下直腸切除術を、新田浩幸准教授に肝切除術を執刀していただきました。また、外来手術診療では、大学からは西塚特任教授、若手の先生方、孝仁病院の西成尚人病院長、さわうち病院の小原眞院長、盛岡友愛

病院の松谷英樹先生に応援をいただいております。

2020年は鼠年であり繁栄の年と言われます。これまで皆様にご指導いただき蓄積した成果を、千厩病院での実績に繋げ

たいと思っています。急がば回れで頑張りますので、今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

(文責：塩井義裕)

Iwate Prefectural Esashi Hospital

岩手県立江刺病院



日頃より巖刀会の先生方には多くのご支援を賜り、この場を借りて深謝いたします。

当院の近況についてご報告いたします。昨年度までご尽力いただいた瀬川医師の異動に伴い、代わりに私 天野が微力ながら江刺の医療に携わる機会をいただき、川村院長との2名体制を維持させて頂いております。また、在宅診療の分野では菊池医師にご尽力いただき江刺地区の住人の方々により良い医療を提供できるよう日夜励んでおります。

当院は江刺地区唯一の入院可能な医療機関として高齢化の進む当地域に根差した医療を心がけておりますが、他の地域病院同様、医師不足が深刻な問題であるため当科は外科疾患以外にも整形外科や泌尿器科といった他の外科系診療に加え肺炎や心不全、糖尿病などの内科疾患、低栄養や褥瘡などの全身疾患、脳梗塞などの脳血管疾患と幅広い診療を行っております。さらにまた、認知症や廃用症候群、摂食障害を患っている患者さんも多く、老々介護などによりご家族の生活さえも危ぶまれるケースが少なくなく、その対応に日々苦慮しているところでもあります。このような状況ですので、当科では患者さんの退院後のサポートも含め入院時からACP（Advanced Care Planning）を実践できるよう一人の患者さんに多職種で強く連携をすることで、患者さんとその家族のサポートの充実を図っております。加えて毎週、全職種を集めた合同ミーティングを開き患者さんの病状だけではなく、病棟における普段の様子やリハビリの状況、栄養状態や内服薬の状況、退院支援の状況などの情報交換を行い、より患者さんやご家族の望む環境を提供できるように病院職員が一丸となって一人一人の患者さんをサポートしております。ICにおいても医師からの病状説明だけでなく看護師やソー

シャルワーカーなど多職種で行い、患者さんの退院後の支援も含めて患者さん自身やご家族も交えてACPを実践しております。当院の常勤医は7名しかおらず、また看護師ははじめスタッフも少数ではありますが、逆に少数だからこそ活発なコミュニケーションを図ることが容易でもあると捉えております。昨秋には当院念願の電子カルテの導入も行われ、より活発な情報交換を期待しているところです。

手術症例は昨年度と比較して件数は横ばいからやや微減でしたが、腹腔鏡手術が増加し、より低侵襲な治療を行えるようになったことで患者さん方からの喜びの声をいただくとともに、ますます日々の診療にやりがいを感じ励みとしている次第です。なによりも北上済生会病院の細井先生や岩手医大外科より手術応援に来て下さっている先生方の多大なご協力が得られているからであり、改めて諸先生方に深く感謝を申し上げます。

外来に関しては紫波診療センターから松尾先生、岩手医大からの肥田先生や中部病院からの伊藤院長にも多大なご支援をいただき、公共交通機関に乏しく通院にも苦勞する患者さんやその家族のニーズに合った医療を提供して頂いております。

今年度は地域の他の医療機関とも更なる連携を強化し、特に北上済生会病院の細井先生には毎週手術のご指導、また、地域の基幹病院である胆沢病院から麻酔科の応援や、他にも水沢病院、奥州病院といった各医療機関の先生方とも連携し、江刺地区に限らず胆江圏域全体の医療に当院も微力ながら貢献させて頂いております。更には、地元の歯科医院の先生方にもご協力いただき術前・化学療法前の歯科診療・口腔ケアの連携を図っている最中です。

以上諸先生方のご支援により、「急性期から回復期・慢性期、在宅そして看取りまで」という高齢化のすすむ地域社会に根差した医療を行うことができていること、この場を借りて感謝申し上げます。恐縮ながら今後も引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。（文責：天野 総）



Hakodate Goryoukaku Hospital

函館五稜郭病院

函館市は、大正時代には人口で日本第9位（最高で6位の説あり）、北日本最大の都市と言われていました。しかし近年では「恐怖の人口減少」と呼ばれる事態となり、街の様子もだいぶ寂しくなってきました。とはいえ、まだ北海道第3位の人口を擁しており、札幌と距離が離れていることもあって周辺市町村を含めるとそれなりの大きな医療人口があります。その中でも当院は「五病ブランド」と住民に言われているとおり、特になんぞにがん診療に関しては信頼が厚く、多くの患者が集まる病院であります……と言うと、胸を張って自慢しているように聞こえるかもしれませんが、そうでもありません。

函館五稜郭病院も開院当初は100床程度の慢性疾患主体の病院、というよりも結核一色の病院で（「今と違ってひどいオンボロ病院」「当時の建物は多くの人々に笑い話のように語られている」「時間が止まっていると言う印象」「函館で五指にも入らない格下のだらけた感じの病院」村井先生談、「当時のことは記すのも恥ずかしいような病院」「今なら直ちに閉鎖を命じられるような病院」笹島先生談）から、昭和40年代に総合病院の認可を得て急性期患者主体を対象とする一般病院へ、昭和51年には村井英夫先生が院長となり更に道南地区の中核病院へと質・量ともに拡大成長を遂げています。開設当時は内科のみでしたが昭和32年に外科開設、手術室1室からのスタートだったようです。その歴史の中で佐々木弘、村井英夫先生らをはじめとした岩手医科大学第一外科の諸先輩方の功績が非常に大きいと聞いております。外科の立ち上げと手術症例数の増加といったことだけでなく、組合の問題、職員確保、ボーナス支給や造業に伴う大借金、急性期特定病院への移行といった経営の面でも大変苦労を重ねられたとのこと。現在、当院は



札幌医科大学からの医師派遣が主体となっていますが、その中で外科が岩手医科大学からの派遣が継続出来ているのは外科の先輩方のご努力、奮闘のおかげであります。

さて、当院外科は高金明典副院長、小林慎診療部長、船渡治外科科長、米澤仁志主任医長、千葉丈広主任医長、河野剛、武田大樹、川岸涼子、佐藤慧、吉田瑛司の9人で外科診療にあたっています。この中で河野先生と吉田先生が、2019年度より札幌医科大学外科より派遣となり、更に2020年度はもう一人増員派遣となる予定です（その分、岩手医科大学からは一人減ですが）。元々、当院は札幌医科大学や北海道大学の他に岩手、金沢、東京などからの各大学出身者で構成され発展してきた経緯がありますので、違う医局出身者同士での今後の診療が良い方向に発展することを期待しています。

高金明先生は言うまでもなく我々の親分として活躍しておられますが、とうとう2月に還暦を迎えられました。函館五稜郭病院外科の隆盛は高金先生あっての事と思います。最近は胃癌の手術をしたいという吉田先生に指導なされています。今後当院に派遣なった先生方は遠慮せずに「マーゲンをやりたい」と申し出てみてください。

小林先生は食道および甲状腺の担当をしていただくほかには救急科診療部長も兼任しておられます。困ったときに、いつでも助けて頂いております。毎年、研修医を引き連れたアメリカ医療見学ツアーの引率隊長としても活躍しておられます（今年は佐藤、吉田も参加）。

船渡先生は外科長として「忙しい、大変だ」とこぼしていましたが（※傍目にはそう見えない）、いよいよ武田先生が抜けることになり肝胆脾を一人で受け持つことに。50歳を超えて難度の高い長時間手術をこなすのは想像するだけでも大変そうです。多少の息抜きは大目に見ないといけなようです（※程度による）。

私、米澤はこちらに赴任してもう6年が経過しようとしています。元々は大嫌いだった乳腺診療ですが、意外に性に合っていたようで、ずっと楽しく仕事をさせていただいています（ちなみに甲状腺も好きです）。「函館に行けばヨメさんが見つかるかもしれないさ！」と当時の肥田医局長に背中を押されての赴任でしたが、予言通りとなりました（先生は発言を忘れている様子です）。2019年3月に長男、間を置かず翌年2月には長女が生まれ、全く飲み歩くことが出来なくなりました。ストレスです。

千葉先生は当地・千葉医院の後継者として戻られた形になっていますが、奥様の小百合先生が千葉医院の院長として赴任、診療にあたっておられます。豊富な経験がおり

です。当院のMagen後継者として残って頂ければと期待しているのですが……。

河野先生は札幌医科大学を平成18年に卒業なされています。特に専門分野は決めていないオールラウンダーで、周囲の信頼も篤く、そして彼の手術は早くて綺麗だと評判です。あまり食に関して興味がないようで痩せており、「1日1食は1000kcalとるように頑張っている」とのことでした。なお、札幌医科大学スキー部OBとのことでした。

武田先生は肝胆膵の手術をほぼ任せられる他に、大腸や緊急など沢山の手術をこなし、外科で屈指の受け持ち患者数を誇っていました。まことに実直で信頼出来る南部男であります。当院で欲しい人材は外科医局でも欲しい訳ですし、奨学金のこともありますので帰局はやむなしですが、彼の抜けたあとがどうなるのか、正直に言って不安です。

川岸先生は地元の函館に戻られた形です。沢山手術まくって乳房再建をするぞ、の意気込みでしたがアラガン社の回収騒動でちょっと残念なことに。でも道南では唯一の女性の乳腺専門医であり、どんどん患者が増えています。わたくし米澤の乳腺診療の師匠でもあります。プライベートに関しては……殆ど把握してはおりませんが、ともすればセクハラと言われてしまいそうな昨今なので、言及はしないでおきます。

佐藤先生は大腸を担当しております。外科の中ではある意味commonな疾患とも言えますが、何ととっても症例自体が多く、なかには難しい症例や術後に難渋する症例もあり、やはり大腸を専門としている医師がいることで非常に助かっております。多数の患者を担当する傍ら、ジム通い

で筋肉増強に励んで居られます。また、結婚したいとのこと（本当にしたいのかな？）。

吉田先生は平成27年に札幌医科大学を卒業された若手です。本当に優秀かつ何事にも積極的で大変助かっております。ステキな若き青年外科医ですが、着任の年にご結婚なされました。奥様と飲み歩くのが楽しみとのことでした。

まとめです。どの地方都市も抱えている問題ですが、函館は人口減少が続き、高齢者人口でさえ減少するとみられています。昭和40年代の当院の相次ぐ造築で、厚生院同士の函館中央病院との運営一元化論も収束したとみられていましたが、またも合併吸収も考慮しなければならない状況です。手術件数を右肩上がり増加させて行くことは難しいかもしれませんが、それでも当院はいまだに圧倒的に豊富な症例数を誇り、各種チームが整っていて、非常に外科医として仕事しやすい環境です。私のような「もう外科を辞めようかな」と考えていた半端な人間でも（今もですが）それなりに外科医らしい仕事をさせて頂いておりますし、私的な面でも人生が変わりました。どの組織も優秀な人間は一握り、そうでない人間が大多数ですが、そういった方でも函館五稜郭病院で少しでも働くことで外科の楽しさを感じて頂けるのではないかと思います。そして、腐ってもハコダテ、一時に較べて寂れたとは言えまだまだ街としての魅力は豊富です。これから岩手の地域医療に従事なされる先生方も1～2年でもいいから函館五稜郭病院で働いてみてはいかがでしょうか。そして大学を卒業なされる方も研修医として当院に勤務してみてはいかがでしょうか。日々、歌うように暮らすことが出来るはずですよ。



Noshiro Kousei Medical Center

能代厚生医療センター

当院の2019年は全手術件数が506例、全身麻酔手術が450例、腹腔鏡手術は352例で腹部全身麻酔手術（397例）におけるその割合は、88.7%と高い水準を維持しております。緊急手術に関しても積極的に腹腔鏡手術をおこなっており、急性虫垂炎、絞扼性イレウス、ヘルニア陥頓に関しては全例腹腔鏡下に施行しております。

スタッフは加藤久仁之、西成悠、天野伶の3人体制で診療を行いました。天野先生の年間執刀件数は170例と非常に多くの症例を執刀していただきました。また日本外科学会の専門医試験にも合格し、成長著しく目を見張るものがあります。西成先生には進行大腸癌、早期胃癌に対する腹腔鏡手術をメインとし、大腸穿孔等の救急疾患に対する腹腔鏡手術も、確実かつ無駄のない動きで執刀していただき、行動隊長としての働きに全幅の信頼を置いております。肝胆膵症例は20例で新田先生、長谷川先生、片桐先生にお越しいただきました。秋田県内での対応が困難な症例を新田先生に執刀して頂き、いずれの患者様も現在元気に社会生活が送れております。

能代山本地域は肛門疾患を専門に診療する医療機関がなく、これまで患者様は治療を受けるために秋田市、もしくは



は遠く盛岡市まで通院されておりました。昨年加藤が日本大腸肛門病学会指導医、日本臨床肛門病学会技能認定医を取得し、当院でも内痔核に対する四段階注射法による硬化療法をはじめとし、難治性痔瘻（炎症性腸疾患に伴うものも含み）、直腸脱に対する腹腔鏡手術等、積極的に診療をおこなうことで、少しずつではありますが症例数は増加しております。また高齢者の多い地域のため、基礎疾患を有するハイリスクな患者も多く認めますが、総合病院であることのメリットを生かし、他科と協力しながら診療にあたっております。

遠方の関連病院ではありますが症例が豊富であり、若い先生方の修練をする場としては充実している施設と考えます。ハイリスクな症例に対しても積極的に診療を行う、攻めの姿勢を崩さずに今後も精進いたします。同門の先生方の御指導、御鞭撻の程、今後とも何卒よろしくお願い致します。

Hachinohe Japanese Red Cross Hospital

八戸赤十字病院

八戸赤十字病院外科の近況を報告いたします。

玉澤佳之、藤澤健太郎、御供真吾、野田宏伸、川島到真の5人という昨年と同じ体制で診療を行っております。また、これまでと同様に近隣の先生方と大学医局からの応援をいただきながら業務を行っています。南部町で開業されている川守田究先生、種市病院の荒谷宗充先生より手術応援を、大学医局からは菅野将史先生と片桐弘勝先生に外来および手術応援をいただいております。大学医局および応援いただいている先生方に感謝申し上げます。

2019年の全手術件数は430件であり、例年よりも若干減少しております。これは当院でのVRE（バンコマイシン耐性腸球菌）感染が多数検出されたことも影響していたかもしれません。しかしこれは当院のみではなく、八戸地域の複



数の施設で同様なことが起こっていることが分かりました。そのため、大学の感染対策部門からのアドバイスをいただきながら、徹底的に対策を行い、現在はほぼ終息に至ることができました。

当院は赤十字病院のため災害救護に積極的に参加するという義務があります。今年当院が地域災害拠点病院に指定されたことで、藤澤と野田が日本DMAT研修を受講し、

DMAT隊員の資格を得ました。するとその直後に台風19号による災害が発生しました。当院からの救護班として野田が甚大な被害のあった宮城県丸森町に災害救護に派遣され、丸森町保健医療調整本部での本部長として丸森町救護のまとめ役の責務を果たしてまいりました。

今年はスタッフの交代が無かったため、安定した体制で診療を行うことができたと考えております。外来診療・手

術・後輩の指導・研修医の指導等の日常業務のほかに、病院経営・化学療法・緩和チーム・NST・クリニカルパス・感染対策・災害救護等の活動についても外科スタッフが広く関わっており、外科チーム全体に近隣の地域医療を担うという責任感が出てきたことを実感しております。

本年も大学医局および同門の先生方のご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

Kazuno Kosei Hospital

かつの厚生病院

秋田県のかつの厚生病院です。2019年のスタッフですが、前年と変わらぬ小川雅彰、眞壁健二に加え後期研修医の菊地晃司が来てくれました！術前、手術、術後と大いに活躍してくれております。近年増々増加するケモ症例にも、しっかりと主治医の任を果たしてくれておりとても心強いです。大学医局のご高配に感謝致します。将来、東北の外科を背負って貰うべく、CVポートのほぼ全例、LCCにLACにと、ここ鹿角で出来るだけのトレーニングをしてもらっております。昼休みのちょっと空いた時間にも、イヤホンをつけて英語のレッスンに勤しむ彼を見るにつけ、もう若くない上二人も良い刺激を受けております。えっ、何？あ、イアフォーンズ、だそうです。

月曜日には橋元麻生先生、藤澤良介先生、伊藤浩平先生、中村侑哉先生、屋成信吾先生各位に応援いただき、木曜日には変わらず岩谷 岳講師に応援いただいております。いつも佐々木 章教授はじめ、大学医局諸先生には手術指導を賜り誠にありがとうございます。当院は残念ながら2018年度看護スタッフの減少により病床数を161床まで減らしました。昨年増加した手術件数は、一昨年のレベルに落ち着きました。地域で健診励行を呼びかけてはおりますが、ステージ3～4で受診される患者さまも多く、従いましてケモ症例が増加中です。今年も大学医局からの応援をいただきながら頑張りたいと思います。ご指導ご鞭撻をよろしくお願い致します。

鹿角と言えば熊害（ゆうがい）でちょっと有名になったことは、いささか不名誉な事ですが、昨年も数件のbear



写真の1枚はクリスマスマーケット in 小坂(近代クリスマス発祥の地)です。もう1枚はノルディックスキージャンプ女子の高梨沙羅選手も合宿する東北随一のスポーツ複合施設アルパスです。

attackがありました。病院に近い住宅地にある中学校の下校路の階段で中学生が遭遇した案件は、幸い極く軽傷で済みました。しかし、かなり大きなその熊がどうやって人知れず当該場所まで移動出来たのか。野生の証明です。

2019年もたくさんの患者様をご紹介いただきありがとうございました。今後も最善をつくし治療させていただきます。また、地域連携パスが稼働した際には、ぜひとも先生方のご協力をお願いいたします。

あ

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所			
あいざわクリニック	相 沢 俊 二	033-0022	青森県	三沢市	大字三沢字堀口164-298	
青森県立中央病院	吉 田 茂 昭	030-8553	青森県	青森市	東造道2-1-1	
青森市立浪岡病院	高 橋 敏 之	038-1311	青森県	青森市	浪岡大字浪岡字平野180	
青森労災病院	玉 澤 直 樹	031-0822	青森県	八戸市	白銀町字南ヶ丘1番地	
赤坂医院	赤 坂 隆 之	029-5505	岩手県	和賀郡西和賀町	湯本29地割66-4	
赤坂病院	赤 坂 俊 幸	020-0016	岩手県	盛岡市	名須川町29-2	
秋田厚生医療センター	遠 藤 和 彦	011-0948	秋田県	秋田市	飯島西袋1-1-1	
秋田市立秋田総合病院	伊 藤 誠 司	010-0933	秋田県	秋田市	川元松丘町4-30	
秋田赤十字病院	小 棚 木 均	010-1495	秋田県	秋田市	上北手猿田字苗代沢222-1	
秋田大学医学部附属病院	南 谷 佳 弘	010-8543	秋田県	秋田市	広面字蓮沼44-2	
秋浜内科クリニック	秋 濱 玄	028-4132	岩手県	盛岡市	玉山区洪民字駅103番地	
あさくらクリニック	朝 倉 慎 一	020-0822	岩手県	盛岡市	茶畑1-8-2	
小豆嶋胃腸科内科クリニック(盛岡市)	小豆嶋 正 和	020-0861	岩手県	盛岡市	仙北3-13-20	
安部医院	安 部 彦 満	024-0061	岩手県	北上市	大通り1-11-23	
あべ菜園内科クリニック	阿 部 弘 一	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園2丁目5番29号 菜園志和ビル2F	
あべ整形外科医院	阿 部 克 久	020-0611	岩手県	滝沢市	菓子1156-22	
あべ内科消化器科クリニック	阿 部 礼 司	020-0146	岩手県	盛岡市	長橋町17-45	
飯島医院	飯 島 信	020-0668	岩手県	滝沢市	鵜飼狐洞1-277	
池田外科・消化器内科医院	池 田 健一郎	020-0041	岩手県	盛岡市	境田町5-18	
一関病院	佐 藤 隆 次	021-0884	岩手県	一関市	大手町3-36	
猪苗代病院	猪苗代 盛 貞	988-0017	宮城県	気仙沼市	南町1丁目3-7	
猪股医院	猪 股 正 秋	015-0874	秋田県	由利本荘市	給人町6-2	
今井産婦人科内科クリニック	今 井 俊 彦	020-0877	岩手県	盛岡市	下ノ橋町1-5	
岩手医科大学附属病院(矢巾)	小笠原 邦 昭	028-3695	岩手県	紫波郡矢巾町	医大通二丁目1番1号	
岩手医大花巻温泉病院	一 戸 貞 文	025-0305	岩手県	花巻市	台第2地割85番1	
岩手県対がん協会いわて健康管理センター	狩 野 敦	020-0864	岩手県	盛岡市	西仙北1-17-18	
岩手県予防医学協会(含付属診療所)	田 巻 健 治	020-0834	岩手県	盛岡市	永井4-42	
岩手県立胆沢病院	勝 又 宇一郎	023-0864	岩手県	奥州市	水沢区龍ヶ馬場61	
岩手県立磐井病院	加 藤 博 孝	029-0192	岩手県	一関市	狐禅寺字大平17	
岩手県立江刺病院	川 村 秀 司	023-1103	岩手県	奥州市	江刺区西大通り5-23	
岩手県立大船渡病院	測 向 透	022-8512	岩手県	大船渡市	大船渡町字山馬越10-1	
岩手県立釜石病院	坂 下 伸 夫	026-8550	岩手県	釜石市	甲子町10-483-6	
岩手県立久慈病院	吉 田 徹	028-8040	岩手県	久慈市	旭町第10地割1番	
岩手県立千厩病院	宗 像 秀 樹	029-0803	岩手県	一関市	千厩町千厩字草井沢32-1	

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
岩手県立高田病院	田 畑 潔	029-2206	岩手県	陸前高田市	高田町字太田56番地(T512-2)
岩手県立中央病院	宮 田 剛	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-4-1
岩手県立中部病院	伊 藤 達 朗	024-8507	岩手県	北上市	村崎野17-10
岩手県立遠野病院	郷右近 祐 司	028-0541	岩手県	遠野市	松崎町白岩14-74
岩手県立二戸病院	佐 藤 昌 之	028-6193	岩手県	二戸市	堀野字大川原毛38-2
岩手県立宮古病院	村 上 晶 彦	027-0096	岩手県	宮古市	崎嶺ヶ崎1-11-26
岩見神経内科医院	岩 見 億 丈	027-0083	岩手県	宮古市	大通1-5-2
植田内科消化器科医院	植 田 修	020-0633	岩手県	滝沢市	穴口183-3
内丸病院	大 浪 優 二	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-12-7
内丸メディカルセンター	下 沖 収	020-8505	岩手県	盛岡市	内丸19-1
おおうち消化器内科クリニック	大 内 健	027-0077	岩手県	宮古市	館合町1-8
大澤脳神経・内科・歯科クリニック	大 澤 宏 之	020-0822	岩手県	盛岡市	茶畑2丁目8-3
大館市立総合病院	吉 原 秀 一	017-0885	秋田県	大館市	豊町3-1
大通胃腸科内科	鈴 木 恒 男	020-0022	岩手県	盛岡市	大通1-3-4
奥脳神経外科クリニック	奥 達 也	027-0074	岩手県	宮古市	保久田3-10
小原クリニック	小 原 紀 彰	025-0091	岩手県	花巻市	西大通り2-22-15
開運橋消化器内科クリニック	遠 藤 昌 樹	020-0022	岩手県	盛岡市	大通3丁目9-3
かげやまクリニック	景 山 鎮 一	021-0854	岩手県	一関市	西沢28-1
柏崎メディカルクリニック	長谷川 達 郎	031-0081	青森県	八戸市	柏崎3-7-18
かづの厚生病院	吉 田 雄 樹	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字向畑18
かとうファミリークリニック	加 藤 純 司	014-1201	秋田県	仙北市	田沢湖生保内字浮世坂74-1
かなざわ内科クリニック	金 澤 格	020-0125	岩手県	盛岡市	上堂1-18-24
金子整形外科医院	金 子 洋	028-3163	岩手県	花巻市	石鳥谷町八幡第3地割76-5
川久保病院	田 村 茂	020-0835	岩手県	盛岡市	津志田26-30-1
川守田医院	川守田 安 彦	028-3309	岩手県	紫波郡紫波町	日詰駅前1-8-2
北上済生会病院	一 戸 貞 文	024-8506	岩手県	北上市	花園町1-6-8
北九州市立医療センター	中 野 徹	802-0077	福岡県	北九州市	小倉北区馬借二丁目1番1号
木村内科医院	木 村 靖 和	014-0024	秋田県	大仙市	大曲中通町3-3
木村内科クリニック	木 村 秀 孝	020-0638	岩手県	滝沢市	土沢310-102
工藤内科ハートクリニック	工 藤 真 大	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通1-7-13
久保脳神経外科クリニック	久 保 達 彦	017-0891	秋田県	大館市	中城7-1
栗原クリニック	栗 原 英 夫	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-16-4
黒川産婦人科医院	黒 川 賀 重	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町2-51
くわた脳神経外科クリニック	桑 田 知 之	020-0857	岩手県	盛岡市	北飯岡1丁目2-68

か

さ

た

医療機関名	院長	郵便番号	住所		
敬愛荘		028-3621	岩手県	紫波郡矢巾町	大字広宮沢第1地割字南昌山2-181
気仙沼市立病院	横田 憲一	988-0052	宮城県	気仙沼市	字田中184
厚生仙台クリニック	山口 龍生	981-0933	宮城県	仙台市	青葉区柏木1丁目5-45
国保西根病院	滝山 郁雄	028-7112	岩手県	八幡平市	田頭22-79-1
国立がん研究センター中央病院	西田 俊朗	104-0045	東京都	中央区	築地5-1-1
国立がんセンター東病院	大津 敦	277-8577	千葉県	柏市	柏の葉6-5-1
国立病院機構盛岡病院	木村 啓二	020-0133	岩手県	盛岡市	青山1-25-1
小坂内科消化器科クリニック	小坂 崇	020-0834	岩手県	盛岡市	永井19-258-1
小松内科医院	小松 修	039-1201	青森県	三戸郡階上町	大字道仏字天当平1-189
菜園循環器内科医院	肥田 敏比古	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園1-4-7
済生会岩泉病院	柴野 良博	027-0501	岩手県	下閉伊郡岩泉町	岩泉字中家19-1
坂の上野田村太志クリニック	田村 太志	024-0021	岩手県	北上市	上野町4丁目2-15
ささきクリニック	佐々木 盛光	025-0053	岩手県	花巻市	中北万丁目836
佐藤たもつ歯科医院	佐藤 保	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮一丁目24番3号
澤田内科医院	澤田 哲伸	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-6-11
三愛病院	山内 文俊	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘1-29-15
三愛病院附属矢巾クリニック	藤島 幹彦	028-3601	岩手県	紫波郡矢巾町	高田11-25-2
JR東京総合病院	高戸 毅	151-8528	東京都	渋谷区	代々木二丁目1番3号
雫石大森クリニック	大森 浩明	020-0541	岩手県	岩手郡雫石町	千刈田79-2
雫石診療所	千葉 俊明	020-0542	岩手県	岩手郡雫石町	万田渡74-1
市立角館総合病院	伊藤 良正	014-0394	秋田県	仙北市	角館町上野18
市立田沢湖病院	佐々木 英人	014-1201	秋田県	仙北市	田沢湖生保内字浮世坂17-1
市立横手病院	丹羽 誠	013-8602	秋田県	横手市	根岸町5-31
しんたろうクリニック	菊池 信太郎	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮1丁目9-1
すがさわ外科・内科クリニック	菅澤 治彦	025-0312	岩手県	花巻市	二枚橋6-440-1
鈴木こう門科クリニック	鈴木 俊輔	020-0016	岩手県	盛岡市	名須川町16-14
鈴木整形外科	鈴木 正弘	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮字石仏20-1
鈴木内科医院	鈴木 知己	020-0872	岩手県	盛岡市	八幡町2-17
スワンクリニック	小笠原 和人	039-0105	青森県	三戸郡南部町	大字沖田面千刈37-1
仙台オープン病院	土屋 誉	983-0824	宮城県	仙台市	宮城野区鶴ヶ谷5-22-1
総合花巻病院	後藤 勝也	025-0075	岩手県	花巻市	花城町4-28
総合水沢病院	菊池 淳	023-0053	岩手県	奥州市	水沢区大手町3-1
高橋医院	高橋 秀禎	031-0031	青森県	八戸市	番町40
高橋内科胃腸科クリニック	高橋 真	020-0611	岩手県	滝沢市	菓子1186-14

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所		
孝仁病院	西 成 尚 人	020-0052	岩手県	盛岡市	中太田泉田28
高宮消化器科内科医院	高 宮 秀 式	028-3603	岩手県	紫波郡矢巾町	大字西徳田2-106-3
滝沢中央病院	山 内 広 平	020-0668	岩手県	滝沢市	鶴飼笹森42番地2
たぐち脳神経外科クリニック	田 口 壮 一	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1丁目4-19
たにむらクリニック	谷 村 武 宏	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮小坂小瀬13-2
種市外科	種 市 襄	031-0802	青森県	八戸市	大字新井田外久保1-24
ちばクリニック	千 葉 直 樹	020-0021	岩手県	盛岡市	中央通3-1-10
千葉県がんセンター	山 口 武 人	260-8717	千葉県	千葉市	中央区仁戸名町666-2
ちびき病院	広 原 鍾 一	039-2682	青森県	上北郡東北町	字石坂32-4
坪水クリニック	坪 水 義 夫	150-0036	東京都	渋谷区	南平台町1-9南平台宝来ビル3F
手稲溪仁会病院	成 田 吉 明	006-8555	北海道	札幌市	手稲区前田1条12丁目1番40号
東京慈恵会医科大学葛飾医療センター	吉 田 和 彦	125-8506	東京都	葛飾区	青戸6-41-2
東京リウマチ・ペインクリニック	岡 寛	104-0031	東京都	中央区	京橋1-1-6 越前屋ビル2階
東北公済病院	岡 村 州 博	980-0803	宮城県	仙台市	青葉区国分町二丁目3番11号
東北中央病院	田 中 靖 久	990-0064	山形県	山形市	和合町3-2-5
遠山病院	千 葉 知	020-0877	岩手県	盛岡市	下ノ橋町6-14
栃内病院	白 石 秀 夫	020-0878	岩手県	盛岡市	肴町2-28
とみさわ甲状腺・乳腺のクリニック盛岡	富 澤 勇 貴	020-0022	岩手県	盛岡市	大通1-1-16岩手教育会館1F
なおしま医院	直 島 淳 太	028-3441	岩手県	紫波郡紫波町	上平沢字川原田33-5
ながぬま内科	堀 江 泰 介	011-0946	秋田県	秋田市	土崎港中央6丁目2-24
なかの消化器内科クリニック	中 野 修	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字下中島81-2
中村医院	沖 恵	020-0066	岩手県	盛岡市	上田3-4-38
成田内科胃腸科医院	成 田 知 史	028-3614	岩手県	紫波郡矢巾町	大字又兵工新田第8地割101番地
西松園内科医院	齊 藤 恵 子	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園三丁目22番1号
二宮内科クリニック	二 宮 一 見	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町2-47
乳腺外科いしだ外科胃腸科クリニック	石 田 茂登男	020-0834	岩手県	盛岡市	盛岡駅前通14-9ヒラトヤビル3F
野呂外科泌尿器科医院	野 呂 一 夫	023-0052	岩手県	奥州市	水沢区搦手丁24-6
はちのへ99クリニック	内 海 謙	031-0004	青森県	八戸市	南類家5丁目1-8
八戸市立市民病院	今 明 秀	031-8555	青森県	八戸市	大字田向毘沙門平1
八戸赤十字病院	紺 野 広	039-1104	青森県	八戸市	大字田面木字中明戸2
原田内科脳神経機能クリニック	原 田 達 男	020-0004	岩手県	盛岡市	山岸3-2-1
東八幡平病院	及 川 忠 人	028-7303	岩手県	八幡平市	柏台2-8-2
肥田胃腸科内科医院	肥 田 秀 彦	020-0122	岩手県	盛岡市	みたけ4-11-46
平館クリニック	土 谷 正 彦	028-7405	岩手県	八幡平市	平館第11地割-10-10

は

ま

や

わ

医療機関名	院長	郵便番号	住 所			
平野医院	平 野 繁	020-0132	岩手県	盛岡市	西青山2-18-60	
弘前大学医学部附属病院	福 田 眞 作	036-8563	青森県	弘前市	本町53	
ひろし外科肛門科	吉 田 博	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園1丁目3番10号	
福島労災病院	渡 辺 毅	973-8403	福島県	いわき市	内郷綴町沼尻3	
藤島内科医院	藤 島 敏 智	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町4-18	
藤巻胃腸科内科クリニック	藤 巻 英 二	025-0016	岩手県	花巻市	高木15-16-1	
ふるだて加藤肛門外科クリニック	加 藤 典 博	028-3303	岩手県	紫波郡紫波町	高水寺字古屋敷87-1	
プレスト齊藤外科クリニック	齊 藤 純 一	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮6丁目17-6	
本田胃腸内外科科	本 田 健 一	023-0816	岩手県	奥州市	水沢区西町4番21号	
松園第二病院	石 川 洋 子	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園3-22-3	
みたけ消化器内科医院	肥 田 秀 彦	020-0122	岩手県	盛岡市	みたけ4-11-46	
三井病院	秦 怜 志	350-0066	埼玉県	川越市	連雀町19-3	
南東北がん陽子線治療センター	菊 池 泰 裕	963-8563	福島県	郡山市	八山田7丁目172	
三本柳かんのクリニック	菅 野 公 徳	020-0831	岩手県	盛岡市	三本柳23-10-5	
みやもと内科クリニック	宮 本 康 弘	020-0143	岩手県	盛岡市	上厨川字杉原101-4	
未来の風せいわ病院	田 嶋 宣 行	020-0401	岩手県	盛岡市	手代森9-70-1	
メディカルコート八戸西病院	高 橋 通 宏	039-1103	青森県	八戸市	長苗代字中坪77	
もりあい内科クリニック	盛 合 理	029-0803	岩手県	一関市	千厩町千厩字前田96-9	
もりおか胃腸科内科クリニック	佐 藤 邦 夫	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通2-3-2	
もりおか往診ホームケアクリニック	木 村 幸 博	020-0857	岩手県	盛岡市	北飯岡3-20-3	
盛岡観山荘病院	小 泉 幸 子	020-0114	岩手県	盛岡市	高松4-20-40	
盛岡北心療クリニック	吉 田 智 之	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘3丁目29-2	
盛岡市立病院	加 藤 章 信	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5丁目15-1	
盛岡赤十字病院	松 田 壮 正	020-8560	岩手県	盛岡市	三本柳6-1-1	
盛岡友愛病院	佐々木 達 哉	020-0834	岩手県	盛岡市	永井12-10	
森眼科クリニック	森 敏 郎	020-0034	岩手県	盛岡市	駅前通10-22	
八角医院	高 橋 克 郎	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木101-2	
八角病院	八 角 有 紀	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木70-190	
やまだ胃腸内科クリニック	山 田 宏 之	020-0838	岩手県	盛岡市	津志田中央2-18-31	
山田クリニック	山 田 行 夫	020-0021	岩手県	盛岡市	中央通1-13-8	
ゆとりが丘クリニック	高 橋 邦 尚	020-0638	岩手県	滝沢市	土沢541	
吉田消化器科内科	吉 田 俊 巳	020-0832	岩手県	盛岡市	東見前8-20-16	
吉田整形外科・リウマチ科クリニック	吉 田 昌 明	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1丁目9番28号岩井ビル2階	
わたなべおしりのクリニック	渡 邊 正 敏	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5-1-3	

獲得研究費

科学研究費助成事業

1. 2017-2019 基盤研究 (C)
「腺管分離法を用いた SNP array による胆道癌のゲノムコピー数解析」
研究代表者：塩井 義裕
2. 2017-2019 基盤研究 (C)
「血漿中遊離変異 DNA 定量による食道癌モニタリングシステムの開発」
研究代表者：岩谷 岳
3. 2017-2019 基盤研究 (C)
「大腸癌の予後に関連する non-coding RNA FTX に関する検討」
研究代表者：秋山 有史
4. 2017-2019 基盤研究 (C)
「Muse 細胞を用いた大量肝切除後補助療法へ向けた基盤構築」
研究代表者：片桐 弘勝 研究分担者：西塚 哲
5. 2017-2019 基盤研究 (C)
「大量肝切除後の幹細胞補充療法」
研究代表者：高原 武志 研究分担者：佐々木 章
6. 2018-2020 基盤研究 (C)
「脳転移指向性乳癌細胞株および乳癌原発組織を用いた脳転移予測バイオマーカーの探索」
研究代表者：石田 和茂 研究分担者：佐々木 章, 岩谷 岳, 小松 英明
7. 2018-2019 若手研究
「消化管癌の ctDNA による長期間モニタリングシステムの構築」
研究代表者：佐藤 慧
8. 2018-2020 基盤研究 (C)
「高度肥満者の内臓脂肪組織における調節機構破綻のメカニズムの解明」
研究代表者：石垣 泰 研究分担者：佐々木 章
9. 2019-2021 基盤研究 (C)
「Helicobacter pylori 免疫応答が胃癌術後補助化学療法に及ぼす影響」
研究代表者：肥田 圭介 研究分担者：西塚 哲
10. 2019-2021 基盤研究 (C)
「Circulating tumor DNA 検査の臨床導入における課題点の克服」
研究代表者：遠藤 史隆 研究分担者：秋山 有史, 西塚 哲, 岩谷 岳
11. 2019-2021 基盤研究 (C)
「高度肥満症に対する肥満外科手術の骨格筋インスリン抵抗性改善のメカニズム」
研究代表者：馬場 誠朗 研究分担者：佐々木 章

日本学術振興会

1. 平成 30 ～ 31 年度
藤田記念医学研究振興基金助成
「大腸癌 ctDNA に原発巣 heterogeneity が及ぼす影響」
研究代表者：八重樫 瑞典

その他

1. 第一三共株式会社研究助成
「食道扁平上皮癌患者における Liquid biopsy に関する研究」
研究代表者：岩谷 岳
2. エーザイ株式会社
「転移・再発乳癌における血中遊離 DNA 中の変異遺伝子診断法の確立」
研究代表者：小松 英明
3. 日本化薬株式会社研究助成
「食道扁平上皮癌における腫瘍および血中の TERT promoter 変異の高精度検出」
研究代表者：秋山 有史
4. バイエル薬品アカデミックサポート
「大量肝切除における Muse 細胞の役割とその臨床応用」
研究代表者：高原 武志

英文論文

1. Yaegashi M, Otsuka K, Kimura T, Matsuo T, Fujii H, Sato K, Takashimizu K, Hatanaka T, Yoshida T, Tono C, Sasaki A. Early renal dysfunction after temporary ileostomy construction. **Surg Today**, 2019 Dec 21. doi: 10.1007/s00595-019-01938-y. [Epub ahead of print]
2. Takahashi M. Solo Surgery With VIKY: Safe, Simple, and Low-Cost Robotic Surgery. **Handbook of Robotic and Image-Guided Surgery 1st Edition**, 2019 ; 1 : 79-88.
3. Otsuka K, Kimura T, Matsuo T, Fujii H, Yaegashi M, Sato K, Kondo S, Sasaki A. Laparoscopic Low Anterior Resection with Two Planned Stapler Fires. **JSLS**, 2019 Jan-Mar ; 23(1) : e2018.00112
4. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Katagiri H, Kanno S, Sasaki A. Pure laparoscopic living donor hepatectomy using the Glissonean pedicle approach (with video). **Surgical endoscopy**, 2019 ; 33(8).
5. Akiyama Y, Iwaya T, Endo F, Nikai H, Baba S, Chiba T, Kimura T, Takahara T, Otsuka K, Nitta H, Mizuno M, Kimura Y, Koeda K, Sasaki A. Safety of thoracoscopic esophagectomy after induction chemotherapy for locally advanced unresectable esophageal squamous cell carcinoma. **Asian journal of endoscopic surgery**, 2019. [Epub ahead of print]
6. Umemura A, Suto T, Nakamura S, Fujiwara H, Endo F, Nitta H, Takahara T, Sasaki A. Comparison of Single-Incision Laparoscopic Cholecystectomy versus Needlescopic Cholecystectomy: A Single Institutional Randomized Clinical Trial. **Digestive surgery**, 2019 ; 36(1) : 53-58.
7. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Akiyama Y, Iwaya T, Otsuka K, Sasaki A. Glucocorticoid use and ischemia-reperfusion injury in laparoscopic liver resection: Randomized controlled trial. **Ann Gastroenterol Surg**. 2019 Nov 19 ; 4(1) : 76-83. doi: 10.1002/ags3.12298. eCollection 2020 Jan.
8. Saiki A, Yamaguchi T, Tanaka S, Sasaki A, Naitoh T, Seto Y, Matsubara H, Yokote K, Okazumi S, Ugi S, Yamamoto H, Ohta M, Ishigaki Y, Kasama K, Seki Y, Irie J, Kusakabe T, Tsujino M, Shimizu H, Shirai K, Onozaki A, Kitahara A, Hayashi K, Miyazaki Y, Masaki T, Nagayama D, Yamamura S, Tatsuno I; Japanese Survey of Morbid and Treatment-Resistant Obesity Group (J-SMART Group). Background characteristics and postoperative outcomes of insufficient weight loss after laparoscopic sleeve gastrectomy in Japanese patients. **Ann Gastroenterol Surg**. 2019 Aug 26 ; 3(6) : 638-647. doi: 10.1002/ags3.12285. eCollection 2019 Nov.
9. Sato A, Fujita Y, Otsuka K, Sasaki A, Suzuki H, Matsumoto T, Sugai T. Differential expression of microRNAs in colorectal cancer: Different patterns between isolated cancer gland and stromal cells. **Pathol Int**. 2020 Jan ; 70(1) : 21-30. doi: 10.1111/pin.12872. Epub 2019 Nov 21.
10. Umemura A, Suto T, Fujiwara H, Ikeda K, Nakamura S, Hayano M, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Sasaki A. Cardiopulmonary Impairments Caused by a Large Hiatal Hernia with Organoaxial Gastric Volvulus Showing Upside-Down Stomach: A Case Report. **Am J Case Rep**. 2019 Oct 18 ; 20 : 1530-1535. doi: 10.12659/AJCR.918191.
11. Ishida K, Osakabe M, Eizuka M, Tai S, Sugimoto R, Fujita Y, Katagiri H, Takahara T, Uesugi N, Nitta H, Sasaki A, Sugai T. The expression of gastrointestinal differentiation markers in extrahepatic cholangiocarcinoma: clinicopathological significance based on tumor location. **Hum Pathol**. 2019 Oct ; 92 : 91-100. doi: 10.1016/j.humpath.2019.08.002. Epub 2019 Aug 8.
12. Ishida K, Yamashita R, Osakabe M, Uesugi N, Yamada N, Nitta H, Fujishima F, Motoi F, Suzuki H, Shimamura H, Noda Y, Sawai T, Unno M, Sasano H, Sasaki A, Sugai T. Expression of Epithelial-Mesenchymal Transition Proteins in Pancreatic Anaplastic (Undifferentiated) Carcinoma. **Pancreas**. 2019 Jan ; 48(1) : 36-42. doi: 10.1097/MPA.0000000000001199.
13. Umemura A, Ishida K, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Makabe K, Sugai T, Sasaki A. An extremely rare case who underwent total remnant pancreatectomy due to recurrent pancreatic metastasis of intraductal tubulopapillary neoplasm. **Clin J Gastroenterol**. 2019 Apr ; 12(2) : 153-159. doi: 10.1007/s12328-018-0913-x. Epub 2018 Oct 4.
14. Umemura A, Suto T, Fujiwara H, Nakamura S, Endo F, Sasaki A. Retrospective case-matched study between reduced port laparoscopic rectopexy and Conventional laparoscopic rectopexy for rectal prolapse. **J Minim Access Surg**. 2019 Oct-Dec ; 15(4) : 316-319. doi: 10.4103/jmas.JMAS_100_18.
15. Umemura A, Suto T, Nakamura S, Fujiwara H, Endo F, Nitta H, Takahara T, Sasaki A. Intraoperative Analgesic Regimen and Cholecystectomy: A Closer Look. **Dig Surg**. 2019 ; 36(3) : 267. doi: 10.1159/000489828. Epub 2018 May 23. No abstract available.

和文論文

1. 小林 めぐみ, 水野 大, 石田 和之, 菅井 有, 佐々木 章. 肺転移を伴う切除不能型肝芽腫に対し、生体肝移植を含む集学的治療で救命し得た 1 幼児例. **岩手医誌**, 2019; 71(1): 21-27.
2. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 八重樫 瑞典, 佐々木 章. 下部消化管領域 腹腔鏡下横行結腸切除術における助手・スコピストの役割. **手術**, 2019; 73(5): 703-712.
3. 木村 聡元, 大塚 幸喜. 術式別 これだけは押さえない! 膜にまつわるキー場面 下部消化管外科の 3 場面. **オペナーシング**, 2019; 34(7): 353-354.
4. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 近藤 優, 八重樫 瑞典, 高清水 清治, 佐々木 章. 腹腔鏡下直腸癌手術の周術期における診断と対応 縫合不全対策. **日外会誌**, 2019; 120(3): 353-354.
5. 大塚 幸喜, 佐々木 章. 腹腔鏡下結腸右半切除. **新 Digestive Surgery NOW 下部消化管癌に対する標準手術**, 2019; 2-23.
6. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 高清水 清治, 佐々木 章. 腹腔鏡下結腸右半切除術 超音波凝固切開装置主体の立場から. **手術**, 2019; 73(11): 1537-45.
7. 小林 めぐみ, 長谷川 康, 木村 聡元, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 特別企画 (1) 女性外科医のロールモデル 地方で働く女性小児外科医のロールモデル Role model of female pediatric surgeons working in rural areas. **日外会誌**, 2019; 120(5): 570-572.
8. 馬場 誠朗. 論文紹介: Changes in quality of life 5 years after sleeve gastrectomy: a prospective cohort study. **肥満症治療学展望**, 2019; 7(3): 36-37.
9. 水野 大, 小林 めぐみ, 川島 到真, 早野 恵. 頸部瘻孔: 瘻管が非常に長かった. **小児外科**, 2019; 51(10): 963-965.
10. 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 新田 浩幸, 佐々木 章. 肝細胞癌に対する肝 S8 亜区域切除. **臨床外科**, 2019; 74(13): 1435-1440.
11. 佐々木 章. メタボリックサージェリーの実態と代謝異常の改善効果. **臨床栄養**, 2019; 134(3): 303-309.
12. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 肥田 圭介, 二階 春香, 遠藤 史隆, 佐々木 章. 腹腔鏡下噴門側胃切除術後の Side Overlap 法による再建. **手術**, 2019; 73(9): 1363-1368.
13. 佐々木 章. 肥満外科手術とメタボリックサージェリー. **標準外科学 第 15 版**, 2019; 186-191.
14. 佐々木 章, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 肥田 圭介. 高度肥満症患者に対する腹腔鏡下腹腔鏡下スリープ状胃切除術の手法と注意点. **外科**, 2019; 81(3): 215-222.
15. 片桐 弘勝, 西塚 哲. 肝切除における Muse 細胞を用いた治療戦略. **血液フロンティア**, 2019; 29(2): 235-241.
16. 佐々木 章. 肥満・糖尿病に対する外科治療の効果と今後の展望. **岩手医誌**, 2019; 70(6): 189-196.
17. 佐々木 章. 外科治療総論 ～術式、適応、効果など～. **第 10 回肥満症総合治療セミナー ～満足度の高い減量外科治療を目指す「チーム」とは～**, 2019; 1: 27-30.
18. 早野 恵, 須藤 隆之, 梅邑 晃, 藤原 久貴, 中村 聖華, 池田 健一郎, 佐藤 綾香, 石田 和之, 菅井 有, 佐々木 章. 腸回転異常を伴う多発結腸癌に腹腔鏡補助下結腸右半切除術を施行した 1 例. **日本外科系連合学会誌**, 2019; 44(5): 942-949.
19. 有吉 佑, 須藤 隆之, 新田 浩幸, 藤原 久貴, 石田 和之, 上杉 憲幸, 佐藤 綾香, 菅井 有, 梅邑 晃, 佐々木 章. 乳癌術後単発性肝転移に対する腹腔鏡補助下肝部分切除術によって長期生存が得られている 1 例. **岩手医誌**, 2019; 71(1): 29-34.
20. 松浦 朋彦, 杉村 淳, 大森 聡, 阿部 貴弥, 高山 美郷, 五十嵐 大樹, 小野田 充敬, 加藤 陽一郎, 兼平 貢, 高田 亮, 長谷川 康, 高原 武志, 新田 浩幸, 及川 浩樹, 小原 航. 脳死下肝腎同時移植の経験. **泌尿器外科**, 2019; 32(1): 77-80.

国際学会発表

The 35th PPSA-JC, Hawaii, USA, 2019/02/28 ~ 03/02

1. Takahashi T, Kimura T, Otsuka K, Matsuo T, Fujii H, Kondo S, Takahara T, Akiyama Y, Iwaya T, Nitta H, Mizuno M, Sasaki A. Desmoid tumor with familial adenomatous polyposis successfully treated by chemotherapy. Oral Presentation
2. Nakamura Y, Tono C, Ishioka H, Yaegashi M, Ito C, Kimura T, Takahara T, Iwaya T, Otsuka K, Nitta H, Mizuno M, Sasaki A, Yoshida T. Bile duct metastasis after surgery for ascending colon cancer: a case report. Oral Presentation
3. Ariyoshi Y, Otsuka K, Kimura T, Matsuo T, Kondo S, Takashimizu K, Takahara T, Akiyama Y, Iwaya T, Nitta H, Mizuno M, Koeda K, Sasaki A. Laparoscopic surgery for right-sided colon cancer by intraperitoneal ileal dissection. Oral Presentation
4. Yanari S, Noda H, Fujisawa K, Kawashima T, Mitomo S, Tamasaw Y, Takahara T, Akiyama Y, Iwaya T, Otsuka K, Nitta H, Mizuno M, Sasaki A. Penile metastasis from rectal carcinoma: a case report. Oral presentation

American Association for Cancer Research, Atlanta, Georgia, USA, 2019/03/29 ~ 04/03

1. Sasaki N, Iwaya T, Chiba T, Fujita M, Endo F, Yaegashi M, Sugimoto R, Doris Siwak, Lance Liotta, Yilling Lu, Gordon Mills, Hidewaki Nakagawa, Nishizuka S. Molecular profile of histological and mutational heterogeneity of adenocarcinoma of the stomach in tumor burden monitoring using circulating tumor DNA. Poster presentation.
2. Yaegashi M, Iwaya T, Fujita M, Zhenlin Ju, Doris Siwak, Sato K, Endo F, Sugimoto R, Sugai T, Lance Liotta, Yiling Lu, Gordon Mills, Nakagawa H, Nishizuka S. The clinical utility of ctDNA in colorectal cancer validated by multiregional sequencing and protein analysis. Poster presentation.
3. Iwaya T, Endo F, Sasaki Y, Sasaki N, Yaegashi M, Akiyama Y, Sasaki A, Masuda M, Yamada T, Tokino T, Nishizuka S. Patient-specific circulating tumor DNA monitoring using esophageal squamous cell cancer gene panel and digital PCR. Poster presentation
4. Nishizuka S, Yaegashi M, Sasaki N, Iwaya T. Digital PCR probe library for TP53 mutations for early relapse prediction. Poster presentation

The 2nd World Congress of the International Laparoscopic Liver Society (ILLS2019), Tokyo, 2019/05/09 ~ 05/11

1. Takahara T, Nitta H, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Takeda D, Sasaki A. Our current status of laparoscopic repeat hepatectomy. Poster presentation.
2. Katagiri H, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Kanno S, Sasaki A. Efforts and outcomes of the reduced port laparoscopic hepatic left lateral sectionectomy; difficulty score based education and training system in our department. Poster presentation.
3. Nitta H. Japanese Registry. Invited speakers session.
4. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Katagiri H, Kanno S, Sasaki A. Clamp crush technique in laparoscopic liver resection. Parenchymal transection session.
5. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Katagiri H, Kanno S, Sasaki A. Pure laparoscopic living donor left hepatectomy using Glissonean pedicle approach. Oral presentation.

MASCC/ISOO ANNUAL MEETING, San Francisco, California, USA, 2019/06/21 ~ 06/23

1. Komatsu H, Ishida K, Hasimoto M, Matsui Y, Kawagishi R, Sasaki A. The study of the effect of low dose olanzapine on nausea in our department. Poster presentation.

44th Annual Scientific Congress of The Royal College of Surgeons of Thailand, Thailand, 2019/07/13 ~ 07/16

1. Umemura A, Sasaki A. Metabolic Outcome of Laparoscopic Sleeve Gastrectomy in Japan: Follow-up Liver Biopsy reveals Development and Improvement of NASH. Oral presentation

48th World Congress of Surgery, Krakow, Poland, 2019/08/11 ~ 08/15

1. Akiyama Y, Iwaya T, Endo F, Nikai H, Baba S, Chiba T, Koeda K, Sasaki A. Safety of minimally invasive esophagectomy after triplet chemotherapy with docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil for advanced esophageal squamous cell carcinoma. Poster presentation.
2. Endo F, Akiyama Y, Nikai H, Baba S, Chiba T, Iwaya T, Koeda K, Sasaki A. Investigation of operative outcomes of esophagectomy for esophageal cancer in elderly patients. Poster presentation.
3. Matsuo T, Otsuka K, Kimura T, Kondo S, Sato K, Takashimizu K, Takahara T, Akiyama Y, Iwaya T, Nitta H, Koeda K, Sasaki A. Retrospective study of neoadjuvant chemotherapy in patients with locally advanced rectal cancer. Presentation

The 7th Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association (A-PHPBA 2019), Seoul, Korea, 2019/09/04 ~ 09/07

1. Nitta H. Standardization of Techniques for Laparoscopic Hepatectomy. A-PHPBA & A-PLHPDEC Joint symposium.
2. Takahara T, Nitta H, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Sasaki A. The Impact of High Body Mass Index on Short-Term Outcomes After Living Donor Liver Transplantation. Poster presentation.

3. Katagiri H, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Kanno S, Sasaki A. The Incidence of Liver Abscesses After TAE for Patients with Postpancreatectomy Hemorrhages. Poster presentation.
 4. Kanno S, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Umemura A, Ando T, Sasaki A. Treatment outcomes for stage 1 pancreatic cancer. Poster presentation.
 5. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Katagiri H, Kanno S, Sasaki A. Steroid Administration and Ischemia-Reperfusion Injury during Laparoscopic Liver Resection - A Randomized Controlled Trial -. Oral presentation.
- * Nitta H. Poster Presentation 09. Chair.

The 14th Asia-Pacific Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (ELSA2019), Chiang Mai, 2019/11/21 ~ 11/23

1. Umemura A, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Ando T, Kimura T, Sasaki A. Standardization of pure laparoscopic donor hepatectomy in living donor liver transplantation. HBP VDO Presentation
2. Ando T, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Kimura T, Sasaki A. Initial experiences of laparoscopic pancreaticoduodenectomy. HBP Presentation
3. Kimura T, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Ando T, Sasaki A. Laparoscopic surgery for congenital biliary dilatation in adults. HBP Presentation

国内学会発表

第 34 回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 東京, 2019/02/14 ~ 02/15

1. 秋山 有史, 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 二階 春香, 佐藤 慧, 馬場 誠朗, 千葉 丈広, 木村 聡元, 高原 武志, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 水野 大, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 佐々木 章. 食道癌術後の空腸瘻による経腸栄養投与の必要性の検討. 一般口演

第 36 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会, 大阪, 2019/02/22 ~ 02/23

1. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 八重樫 瑞典. 一時的人工肛門は全例回腸で良いのか?. 一般口演
 2. 箱崎 将規, 清水端 光子. 当院での単孔式ストーマ造設における粘膜非反転法の治療経験. 一般口演
 3. 八重樫 瑞典, 十文字 晴美, 千葉 励子, 高橋 咲子, 佐藤 雅恵, 小笠原 久美子, 木村 聡元, 大塚 幸喜. 直腸癌における一時的人工肛門造設後の腎機能障害. 一般口演
- * 大塚 幸喜. ストーマ造設閉鎖. 座長

第 91 回日本胃癌学会総会, 沼津, 2019/02/27 ~ 03/01

1. 秋山 有史, 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 二階 春香, 佐藤 慧, 馬場 誠朗, 千葉 丈広, 木村 聡元, 高原 武志, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 水野 大, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 佐々木 章. Feasibility of DCF chemotherapy for advanced esophagogastric junctional cancer. 一般口演
2. 馬場 誠朗, 肥田 圭介, 千葉 丈広, 二階 春香, 杉本 亮, 佐藤 慧, 遠藤 史隆, 長谷川 康, 岩谷 岳, 上杉 憲幸, 菅井 有, 佐々木 章. 胃粘膜下腫瘍の診断で発見された網膜脈絡膜悪性黒色腫の肺転移の 1 例. 一般示説
3. 遠藤 史隆. Nivolumab 投与後に意識障害を発症し、有害事象としての脳炎を疑った胃癌の 1 症例. 一般口演

第 55 回日本腹部救急医学会総会, 仙台, 2019/03/07 ~ 03/08

- * 佐々木 章. ビデオワークショップ 2 腹部救急疾患に対する内視鏡手術. 司会

第 119 回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 2019/04/18 ~ 04/20

1. 箱崎 将規, 塩井 義裕, 石黒 保直, 佐藤 一, 坂下 伸夫. 地域での腹腔鏡下大腸癌切除術の取り組みと治療成績. 一般口演
2. 佐藤 麻生, 松井 雄介, 石田 和茂, 小松 英明, 木村 聡元, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 二瓶 哲, 佐々木 章. ホスアプレピタントに伴う注射部位疼痛の検討. ポスター
3. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下 S 状結腸、低位前方切除術 これだけは押さえておきたい手技. ランチョンセミナー
4. 松尾 鉄平, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 近藤 優, 藤井 仁志, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 直腸癌に対する永久人工肛門造設の適応について. ポスター
5. 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 前方アプローチで行う巨大肝腫瘍に対する腹腔鏡下肝葉切除術. ポスター
6. 秋山 有史, 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 二階 春香, 佐藤 慧, 馬場 誠朗, 千葉 丈広, 木村 聡元, 高原 武志, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 水野 大, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 佐々木 章. 進行食道癌に対する術前 DCF 療法と食道切除術の治療成績. ポスター
7. 安藤 太郎, 高清水 清治, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 長谷川 康, 高原 武志, 新田 浩幸, 秋山 有史, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章. 教室における脾神経内分泌腫瘍の治療成績. ポスター
8. 石田 和茂, 佐藤 麻生, 松井 雄介, 小松 英明, 木村 聡元, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 脳転移指向性乳癌細胞株を用いた脳転移予測バイオマーカー検索. サージカルフォーラム

9. 小松 英明, 石田 和茂, 川岸 涼子, 松井 雄介, 佐藤 麻生, 秋山 有史, 高原 武志, 木村 聡元, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 水野 大, 佐々木 章. 当科における術前化学療法後のセンチネルリンパ節生検の検討. ポスター
10. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 近藤 優, 清水 清治, 八重樫 瑞典, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 水野 大, 佐々木 章. 当院における Stagell 結腸癌における再発予測因子の検討. ポスター
11. 早野 恵, 水野 大, 小林 めぐみ, 阿部 崇臣, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 秋山 有史, 高原 武志, 菅野 紘暢, 兼子 由香, 重枝 弥, 友安信, 出口 博之, 斎藤 元, 佐々木 章. 全葉に病変を有する先天性肺気道奇形の治療方針. ポスター
12. 清水 清治, 高原 武志, 安藤 太郎, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 十二指腸乳頭部癌に対する膵頭十二指腸切除術の短期成績及び長期成績の検討. ポスター
13. 菅野 将史, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 肝内胆管癌に対する手術適応の border line. ポスター
14. 佐藤 麻生, 松井 雄介, 石田 和茂, 小松 英明, 木村 聡元, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 二瓶 哲, 佐々木 章. ホスアプレピタントに伴う注射部位疼痛の検討. ポスター
15. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 客観的データから腹腔鏡下肝切除術の困難例を予測する. サージカルフォーラム
16. 片桐 弘勝, 安藤 太郎, 清水 清治, 菅野 将史, 長谷川 康, 高原 武志, 新田 浩幸, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章, 西塚 哲. 高度侵襲肝臓手術患者における Muse 細胞とその遊走因子測定の臨床的有用性. ポスター
17. 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 千葉 丈広, 八重樫 瑞典, 佐々木 教之, 佐藤 慧, 秋山 有史, 佐々木 章, 西塚 哲. 上部消化管癌における Circulating tumor DNA 検査に関する検討. サージカルフォーラム
18. 藤井 仁志, 大塚 幸喜, 松尾 鉄平, 近藤 優, 木村 聡元, 秋山 有史, 高原 武志, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 術前化学療法後の Covering ileostomy が直腸癌術後腎機能に与える影響. ポスター
19. 遠藤 史隆, 岩谷 岳, 千葉 丈広, 八重樫 瑞典, 佐々木 教之, 佐藤 慧, 秋山 有史, 佐々木 章, 西塚 哲. 食道扁平上皮癌患者における Circulating tumor DNA と既存検査の比較. ポスター
20. 小林 めぐみ, 水野 大, 木村 聡元, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 地方で働く女性小児外科医のロールモデル. 特別企画
21. 水野 大, 阿部 崇臣, 早野 恵, 小林 めぐみ, 高原 武志, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 低侵襲性, 根治性に加え教育にも配慮した腹腔鏡補助下胆道拡張症根治手術. サージカルフォーラム
22. 佐藤 慧, 秋山 有史, 二階 春香, 遠藤 史隆, 馬場 誠朗, 千葉 丈広, 木村 聡元, 高原 武志, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 水野 大, 肥田 圭介. Side-Overlap 法による腹腔鏡下噴門側胃切除後の機能評価. ポスター
- * 大塚 幸喜. 大腸鏡視下 2. 座長
- * 佐々木 章. ワークショップ 12 外科侵襲予後. 司会

第 56 回 日本小児外科学会学術集会, 久留米, 2019/05/23 ~ 05/25

1. 早野 恵, 水野 大, 小林 めぐみ, 阿部 崇臣. 末梢静脈挿入式中心静脈用カテーテルの抜去困難例に外科的摘出を施行した 2 例. 一般口演
2. 小林 めぐみ, 水野 大, 阿部 嵩臣, 早野 恵. 超低出生体重児に対し外科的治療を要した小腸多発憩室の 1 例. Poster Presentation

第 17 回日本ヘルニア学会学術集会, 四日市, 2019/05/24 ~ 05/25

1. 川村 英伸, 中屋 勉, 川崎 雄一郎, 松井 雄介, 瀬川 武紀. 成人鼠径部ヘルニア再発例に対する TAPP 法の有用性と再発防止策. ポスター
- * 川村 英伸. 一般演題 12 腹壁癒痕ヘルニア. 座長

第 73 回日本食道学会学術集会, 福岡, 2019/06/06 ~ 06/07

1. 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 千葉 丈広, 八重樫 瑞典, 佐々木 教之, 二階 春香, 馬場 誠朗, 秋山 有史, 佐々木 章, 西塚 哲. Circulating tumor DNA モニタリングによる食道癌患者ゲノム情報の有効活用. パネルディスカッション
2. 秋山 有史, 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 二階 春香, 馬場 誠朗, 千葉 丈広, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 佐々木 章. 当院における進行食道癌に対する術前化学療法の現状と治療成績. ポスター
3. 遠藤 史隆, 秋山 有史, 二階 春香, 馬場 誠朗, 千葉 丈広, 岩谷 岳, 肥田 圭介, 佐々木 章. 当科における高齢者に対する食道癌手術の安全性の検討. ポスター

第 31 回日本肝胆膵外科学会学術集会, 高松, 2019/06/13 ~ 06/15

1. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Katagiri H, Kanno S, Sasaki A. Prevention and troubleshooting for complications in laparoscopic liver resection. Video symposium
2. Katagiri H, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Kanno S, Fujii H, Ando T, Sasaki A. Laparoscopic left hemihepatectomy: a safe and feasible procedure. Poster presentation
3. Ando T, Takahara T, Hasegawa Y, Kanno S, Katagiri H, Fujii H, Nitta H, Sasaki A. Posterior reversible encephalopathy syndrome occurring after living-donor liver transplantation: A case report. Poster presentation
4. Takahara T, Nitta H, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Takeda D, Makabe K, Sasaki A. Evaluation of early graft function among three different graft procurement procedures in living donor liver transplantation. Poster presentation
5. Kanno S, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Sasaki A. Treatment outcomes for borderline resectable pancreatic cancer. Poster presentation

6. Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Akira S. Pitfalls unique to laparoscopic hepatectomy and its management. Educational videos

* Nitta H. Secure and reliable techniques for laparoscopic hepatectomy. Chair

第 25 回日本家族性腫瘍学会学術集会, 東京, 2019/06/14 ~ 06/15

1. 小松 英明, 石田 和茂, 佐藤 麻生, 櫻庭 実, 板持 広明, 福島 明宗, 菅井 有, 佐々木 章. 当科における遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対するリスク低減手術への取り組み. 一般示説

第 44 回日本外科系連合学会学術集会, 金沢, 2019/06/19 ~ 06/21

1. 藤澤 良介, 大淵 徹, 畑中 智貴, 川岸 涼子, 武田 大樹, 石橋 正久, 米澤 仁志, 船渡 治, 小林 慎, 高金 明典, 佐々木 章. 虫垂炎との鑑別を要したメッケル憩室の 1 切除例. 一般口演
2. 高橋 真人, 遠野 千尋, 中村 侑哉, 石岡 秀基, 八重樫 瑞典, 伊藤 千絵, 皆川 幸洋, 吉田 徹. 魚骨による腹腔内膿瘍再燃に対して腹腔鏡下膿瘍摘除術を施行した 1 例. 専修医口演
3. 中村 侑哉, 高橋 直人, 石岡 秀基, 八重樫 瑞典, 伊藤 千絵, 皆川 幸洋, 遠野 千尋, 佐々木 章, 吉田 徹. Direct Kugel 術施行歴のある絞扼性イレウスの 1 例. 専修医口演
4. 木村 拓, 高原 武志, 西谷 匡央, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 長谷川 康, 木村 聡元, 秋山 有史, 石田 和之, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 菅井 有, 佐々木 章. 乳癌術後長期経過後の孤立性肝転移に対して腹腔鏡下肝部分切除術を施行した一例. パネルディスカッション
5. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将司, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 高齢者の胆道癌に対する膵頭十二指腸切除の検討. シンポジウム
6. 箱崎 将規, 石黒 保直, 佐藤 一. 当院での腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術会陰創に対する局所陰圧閉鎖療法の使用経験. 一般口演
7. 遠藤 史隆. 後期高齢者に対する食道癌手術における多職種チーム介入の効果. シンポジウム
8. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 高清水 清治, 佐藤 慧, 近藤 優, 八重樫 瑞典, 畑中 智貴, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 佐々木 章. 腹腔鏡下大腸癌手術における術中出血に対する処置と限界. ビデオシンポジウム
9. 藤澤 良介, 大淵 徹, 畑中 智貴, 川岸 涼子, 武田 大樹, 石橋 正久, 米澤 仁志, 船渡 治, 小林 慎, 高金 明典, 佐々木 章. 虫垂炎との鑑別を要したメッケル憩室の 1 切除例. 一般口演
10. 伊藤 浩平, 石橋 正久, 畑中 智貴, 川岸 涼子, 武田 大樹, 大淵 徹, 船渡 治, 小林 慎, 高金 明典, 佐々木 章. 穿孔性腹膜炎を契機に診断された腎細胞癌小腸転移の一例. 一般口演

日本睡眠学会第 44 回定期学術集会, 名古屋, 2019/06/27 ~ 06/28

1. 梅邑 晃. Metabolic Surgery として内視鏡的肥満外科の実際と臨床的位置付け. シンポジウム

日本外科代謝栄養学会 第 56 回学術集会, 神戸, 2019/07/04 ~ 07/06

1. 遠藤 史隆, 秋山 有史, 二階 春香, 馬場 誠朗, 木村 聡元, 高原 武志, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 高齢者食道癌患者に対する、周術期多職種チーム介入の効果. ワークショップ

第 27 回日本乳癌学会学術総会, 東京, 2019/07/11 ~ 07/13

1. 橋元 麻生, 松井 雄介, 石田 和茂, 小松 英明, 二瓶 哲, 工藤 賢三, 佐々木 章. ホスアプレピタントによる注射部位疼痛の検討. デジタルポスター
 2. 佐伯 俊昭, 早川 善郎, 米澤 仁志, 大淵 徹, 高金 明典. 一次乳房再建における当院の取り組み. 一般口演
 3. 小松 英明, 石田 和茂, 川岸 涼子, 松井 雄介, 佐藤 麻生, 刑部 光正, 上杉 憲幸, 石田 和之, 菅井 有, 佐々木 章. 当科における 75 歳以上の高齢者乳癌に対する治療成績の検討. 一般示説
- * 小松英明. デジタルポスター 105 病理: その他. 座長

第 74 回日本消化器外科学会総会, 東京, 2019/07/17 ~ 07/19

1. 川村 英伸, 中屋 勉, 川崎 雄一郎, 松井 雄介, 瀬川 武紀. 腹腔鏡下胆嚢摘出術における胆管損傷に対する至適対応. デジタルポスター
2. 橋元 麻生, 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 杉本 亮, 石田 和之, 菅井 有, 佐々木 章. 再発後に長期生存している後腹膜デスマイド腫瘍の一例. デジタルポスター
3. 加藤 久仁之, 西成 悠, 大塚 幸喜, 天野 怜, 佐々木 章. 左側閉塞性大腸癌に対する腹腔鏡下大腸切除術における術前ステント留置と経肛門イレウス管留置の比較検討. ミニオーラル
4. 菅野 将史, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 当院における Stage1 膵癌の治療成績. ワークショップ
5. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 菅野 将史, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 慢性拒絶を背景とした胆道合併症に対するエベロリムスによる対策と治療成績. ワークショップ
6. 有吉 佑, 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 大塚 幸喜, 石田 和之, 菅井 有, 佐々木 章. 肥満男性に発症した肝細胞腺腫 (分類不能型) の 1 例. デジタルポスター
7. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 水野 大, 佐々木 章. 当院における直腸癌に対するロボット支援下手術の導入. デジタルポスター
8. 梅邑 晃, 佐々木 章, 二階 春香, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 馬場 誠朗, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜. 臓器連関の改善から見た腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の治療効果. ワークショップ

9. 二階 春香, 秋山 有史, 佐藤 慧, 遠藤 史隆, 馬場 誠朗, 千葉 丈広, 岩谷 岳, 肥田 圭介, 佐々木 章. 食道胃接合部癌術後再発に対しラムシルマブ+ナブパクリタキセル療法施行中に胸部大動脈解離を発症した一例. デジタルポスター
10. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 上腹部手術既往患者に対する肝切除術の工夫. 主題関連口演
11. 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 八重樫 瑞典, 千葉 丈広, 佐々木 教之, 佐藤 慧, 秋山 有史, 佐々木 章, 西塚 哲. 消化管癌の新規バイオマーカーとしての Circulating tumor DNA の有用性. デジタルポスター
12. 秋山 有史, 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 二階 春香, 馬場誠朗, 千葉 丈広, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 佐々木 章. 術前 DCF による化学療法と胸腔鏡下食道切除術による進行食道癌の治療成績. デジタルポスター
13. 橋元 麻生, 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 杉本 亮, 石田 和之, 菅井 有, 佐々木 章. 再発後に長期生存している後腹膜デスモイド腫瘍の一例. デジタルポスター
14. 松尾 鉄平, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 近藤 優, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 左側大腸癌手術における persistent descending mesocolon に対する腹腔鏡手術手技について. デジタルポスター
15. 藤井 仁志, 大塚 幸喜, 近藤 優, 松尾 鉄平, 木村 聡元, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 佐々木 章. 巨大直腸 GIST に対する Imatinib による術前化学療法の 3 症例の検討. デジタルポスター
16. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. ハイリスクレシピエントに対する生体肝移植とマージナルドナーでの脳死肝移植. 主題関連演題
17. 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 武田 大樹, 真壁 健二, 秋山 有史, 大塚 幸喜, 佐々木 章. ICG 蛍光イメージングを用いた胆嚢静脈肝還流域の同定. デジタルポスター
18. 佐々木 教之, 岩谷 岳, 秋山 有史, 千葉 丈広, 馬場 誠朗, 遠藤 史隆, 佐藤 慧, 二階 春香, 佐々木 章. O-Ip+II 型食道癌肉腫の 2 例. デジタルポスター
19. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 肥田 圭介, 二階 春香, 遠藤 史隆, 千葉 丈広, 岩谷 岳, 上杉 憲幸, 菅井 有, 佐々木 章. 腹腔鏡下幽門側胃切除後の残胃に発生したデスモイド腫瘍の 1 例. 一般示説
- * 大塚 幸喜. 大腸: 画像診断. 座長
- * 新田 浩幸. デジタルポスター 195 肝臓: 合併症. 座長

第 17 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都, 2019/07/19 ~ 07/20

1. 藤井 仁志, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 高清水 清治, 長谷川 康, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 佐々木 章. Imatinib による術前化学療法が有用であった巨大直腸 GIST の 3 症例. ポスター

第 37 回日本肝移植学会, 京都, 2019/07/25 ~ 07/26

1. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 佐々木 章. 当科における原発性胆汁性胆管炎症例に対する生体肝移植術の現状. 一般演題
2. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 石田 和之, 菅井 有, 佐々木 章. マージナルドナーでの脳死肝移植の経験. ワークショップ

第 51 回県立病院医学会総会, 宮古, 2019/09/08

1. 石黒 保直. 指導医たちのジレンマ 県立釜石病院の立場から. シンポジウム

第 78 回日本癌学会学術総会, 京都, 2019/09/26 ~ 09/28

1. 岩谷 岳, 西塚 哲. Post-therapeutic tumor burden monitoring with circulating tumor DNA in esophageal squamous cell carcinoma. シンポジウム

第 55 回日本移植学会総会, 広島, 2019/10/10 ~ 10/12

1. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 菅野 将史, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 佐々木 章. 慢性拒絶を背景とした胆道合併症に対するエベロリムスの有効性と治療成績. ミニオーラル
2. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 生体肝移植において術後門脈血栓に対して大腿静脈を用いて膝下縁から門脈再建を施行した 1 例. 一般口演
3. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 安藤 太郎, 滝川康裕, 佐々木 章. 教室における PBC に対する生体肝移植術の臨床的検討. ポスター

第 74 回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京, 2019/10/11 ~ 10/12

1. 箱崎 将規, 石黒 保直, 佐藤 一, 坂下 伸夫. 当院でのストーマ造設における粘膜非反転法の治療経験と有用性. 一般口演
2. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 高清水 清治, 中村 侑哉, 畑中 智貴, 八重樫 瑞典, 佐々木 章. 当教室における 進行横行結腸癌に対する 腹腔鏡下手術手技. 一般口演
3. 高清水 清治, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 佐々木 章. 術前化学療法後の直腸癌に対し直腸切除術. 一時的回腸ストーマ造設術を行い、腎機能低下を来した 1 例. 一般口演
4. 藤澤 健太郎, 屋成 信吾, 川島 到真, 野田 宏伸, 御供 真吾, 玉澤 佳之. 腹腔鏡下回盲部切除術における当科での標準化と教育方法. 一般示説

第 24 回日本外科病理学会学術集会, 宇都宮, 2019/10/11 ~ 10/12

1. 石黒 保直, 箱崎 将規, 佐藤 孝. 腸重積で発症し急速に増大した子宮肉腫小腸転移の 1 例. 一般口演

Pediatric Surgery Joint Meeting 2019, 大阪, 2019/10/17 ~ 10/18

1. 小林 めぐみ, 平井 みさ子, 早野 恵, 阿部 嵩臣, 石川 健, 三上 仁. 進行性骨化性線維異形成症に対する気管切開の経験. 一般口演
2. 早野 恵, 小林 めぐみ, 阿部 嵩臣, 平井 みさ子, 松本 敦, 佐々木 章. EXIT にて救命しえなかった気管無形成の一例. 一般口演

第 57 回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 2019/10/24 ~ 10/26

1. Yaegashi M, Nitta K, Hatanaka T, Ito C, Minagawa Y, Tono C, Yoshida T. A New Strategy for Medical Area Is Difficult for Death at Home by Physician Shortage. 一般示説

第 11 回日本 Acute Care Surgery 学会, 沖縄, 2019/10/25 ~ 10/26

1. 小林 慎. 函館五稜郭病院にて緊急手術を要した食道損傷の 9 例. 招待講演

第 41 回日本臨床栄養学会総会・第 40 回日本臨床栄養協会総会 第 17 回大連合大会, 名古屋, 2019/10/26 ~ 10/27

1. 梅邑 晃, 佐々木 章, 新田 浩幸, 二階 春香, 馬場 誠朗, 高原 武志, 長谷川 康, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 安藤 太郎. メタボリックサージェリーにおけるフォーミュラ食を用いた術前減量効果. 一般演題

第 40 回日本肥満学会・第 37 回日本肥満症治療学会学術集会, 東京, 2019/11/02 ~ 11/03

1. 佐々木 章, 梅邑 晃, 二階 春香, 馬場 誠朗, 長谷川 康, 高原 武志, 新田 浩幸, 木澤 哲也, 西島 嗣生, 櫻井 滋, 石垣 泰. 肥満閉塞性睡眠時無呼吸に対するメタボリックサージェリーの効果とスリーブサージェリーとしての可能性. シンポジウム
 2. 梅邑 晃, 佐々木 章, 新田 浩幸, 二階 春香, 馬場 誠朗, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 安藤 太郎, 石垣 泰. 肥満 2 型糖尿病に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の非寛解患者についての検討. 一般口演
- * 馬場 誠朗. ポスター 22: 外科療法 (治療成績) 3. 座長
- * 佐々木 章. シンポジウム 症例から考える高度肥満症へのアプローチ ~内科・外科それぞれの立場から~. 座長

第 81 回日本臨床外科学会総会, 高知, 2019/11/14 ~ 11/16

1. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 高清水 清治, 伊藤 公平, 佐々木 章. 次世代に伝えたい! 直腸癌手術の「再建」. ランチョンセミナー
 2. 高橋 智子, 佐藤 慧, 吉田 瑛司, 川岸 涼子, 武田 大樹, 河野 剛, 千葉 丈広, 米澤 仁志, 船渡 治, 小林 慎, 高金 明典, 佐々木 章. 急速に進行した上行結腸神経内分泌癌の治療経験. 一般口演
 3. 佐藤 慧, 吉田 瑛司, 川岸 涼子, 武田 大樹, 河野 剛, 千葉 丈広, 米澤 仁志, 船渡 治, 小林 慎, 高金 明典. 術後 3 年間無再発生存中の直腸肛門部悪性黒色腫の 1 例. 一般口演
- * 川村 英伸. 鼠径ヘルニア 1. 座長
- * 秋山 有史. チーム医療 2. 座長
- * 佐々木 章. ワークショップ 効果的な学生教育 (座学および bed side learning). 司会

第 27 回日本消化器関連学会週間 (JDDW), 神戸, 2019/11/21 ~ 11/24

1. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 菅野 将史, 安藤 太郎, 木村 聡元, 岩谷 岳, 秋山 有史, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 当科における胆道再建術後肝切除症例の検討. デジタルポスター
2. 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 高清水 清治, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 直腸手術における ileostomy 後の早期腎機能障害. デジタルポスター
3. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下肝切除術における周術期ステロイド投与の有効性. デジタルポスター
4. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 片桐 将史, 梅邑 晃, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 石田 和之, 菅井 有, 佐々木 章. 胆道癌における膵頭十二指腸切除の合併症が予後に及ぼす影響. デジタルポスター
5. 菅野 将史, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 佐々木 章. 高齢者における膵癌の治療成績. 一般示説
6. 秋山 有史, 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 二階 春香, 馬場 誠朗, 木村 聡元, 高原 武志, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 進行食道癌に対する DCF 療法および biweekly DCF 療法が食道切除術に与える影響. 一般示説

第 17 回日本消化器外科学会大会, 神戸, 2019/11/21 ~ 11/24

1. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下肝切除術における周術期ステロイド投与の有効性. 一般口演

第 32 回 日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2019/12/05 ~ 12/07

1. 早野 恵. 傍ストーマヘルニアに対する reduced port sandwich technique による修復術. ミニオーラル
2. 箱崎 将規. 同時性多発大腸癌 (右側 + 左側) に対して腹腔鏡下大腸切除術を施行した 3 例. ミニオーラル
3. 屋成 信吾, 須藤 隆之, 藤原久貴, 有吉 佑, 梅邑 晃, 佐々木 章. 高度肥満患者に発症した臍ヘルニア嵌頓に対して Hybrid IPOM-plus を施行した 1 例. サージカルフォーラム
4. 橋元 麻生, 中村 聖華, 石橋 正久, 有末 篤弘, 高橋 正統, 大山 健一, 杉村 好彦, 佐々木 章. 内視鏡手術により電解質喪失症候群から離脱できた直腸絨毛腫瘍の一例. ミニオーラル
5. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 高清水 清治, 中村 侑哉, 八重樫 瑞典, 長谷川 康, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 当教室における cT4b 結腸癌に対する腹腔鏡下手術の検討. 一般口演

6. 高清水 清治, 大塚 幸喜, 茂木 はるか, 中村 侑哉, 藤井 仁志, 松尾 鉄平, 木村 聡元, 長谷川 康, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 佐々木 章. 肥満大腸癌患者に対する腹腔鏡下大腸切除術における術前減量プログラムの取り組み. 一般示説
 7. 藤澤 健太郎, 川村 到真, 野田 宏伸, 御供 真吾, 玉澤 佳之. 腹腔鏡下手術を施行した慢性特発性偽性大腸閉塞症を伴う横行結腸癌の 1 例. ミニオーラル
 8. 小林 めぐみ, 早野 恵, 長谷川 康, 木村 聡元, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 急速に進行する多発皮下腫瘍を契機に発見された乳児神経芽腫 4S 期の一例. 一般口演
 9. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 八重樫 瑞典, 高清水 清治, 畑中 智貴, 長谷川 康, 高原 武志, 秋山 有史, 新田 浩幸, 佐々木 章. 技術認定医試験に求められる腹腔鏡下 S 状結腸切除の手技と教育. シンポジウム
 10. 川村 英伸, 石橋 正久, 松井 雄介, 瀬川 武紀. 内視鏡下 component separation 法で修復した腹壁癒痕ヘルニア術後メッシュ感染の 1 例. 一般口演
 11. 藤澤 良介, 秋山 有史, 馬場 誠朗, 棚橋 洋太, 佐々木 教之, 二階 春香, 遠藤 史隆, 長谷川 康, 木村 聡元, 高原 武志, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 審査腹腔鏡が診断に有用であったクラミジア腹膜炎合併早期胃癌の一例. ミニオーラル
 12. 高橋 智子, 武田 大樹, 吉田 瑛司, 佐藤 慧, 河野 剛, 千葉 丈広, 舩渡 治, 高金 明典. 単孔式腹腔鏡下虫垂切除術の有用性 Usefulness of single-portal laparoscopic appendectomy. サージカルフォーラム
 13. 菅野 将史, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 佐々木 章. S8・S7 領域の腫瘍に対する最適なアプローチ. ワークショップ
 14. 佐藤 慧, 吉田 瑛司, 武田 大樹, 河野 剛, 千葉 丈広, 米澤 仁志, 舩渡 治, 高金 明典. 当院における大腸憩室炎に対する外科手術の治療戦略. ワークショップ
 15. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. Glisson 一括法を用いた 完全腹腔鏡下ドナー肝切除術. 一般口演
 16. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 適応拡大された腹腔鏡下肝切除における 術式別の成績とステップアップ. パネルディスカッション
 17. 秋山 有史, 岩谷 岳, 藤澤 良介, 佐々木 教之, 二階 春香, 遠藤 史隆, 馬場 誠朗, 木村 聡元, 長谷川 康, 高原 武志, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 佐々木 章. Stage II/III 進行食道癌に対する胸腔鏡下食道切除術の手術成績. 一般口演
 18. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 遠藤 史隆, 藤澤 良介, 棚橋 洋太, 佐々木 教之, 二階 春香, 長谷川 康, 木村 聡元, 高原 武志, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. LPG における Side-Overlap 法による再建の手技と成績. 一般口演
 19. 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 秋山 有史, 大塚 幸喜, 佐々木 章. Reduced Port Surgery による腹腔鏡下ドナー肝切除術の可能性. ワークショップ
 20. 菅野 将史, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 佐々木 章. S8・S7 領域の腫瘍に対する最適なアプローチ. ワークショップ
 21. 松尾 鉄平, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 藤井 仁志, 高清水 清治, 川上 亜紀子, 佐々木 章. 進行右側結腸癌に対する腹腔鏡下結腸右半切除術における安全なアプローチ法. ワークショップ
 22. 藤井 仁志, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 高清水 清治, 中村 侑哉, 茂木 はるか, 長谷川 康, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 佐々木 章. 当科における腹腔鏡下大腸全摘術の定型化手技と手術成績. ミニオーラル
 23. 梅邑 晃, 佐々木 章, 石垣 泰, 新田 浩幸, 馬場 誠朗, 二階 春香, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 安藤 太郎, 木澤 哲也, 西島 嗣生, 櫻井 滋. 腹腔鏡下スリープ状胃切除術による膵機能改善効果と閉塞性睡眠時無呼吸の関連を含めた検討. シンポジウム
 24. 梅邑 晃, 須藤 隆之, 藤原 久貴, 有吉 佑, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 安藤 太郎, 佐々木 章. 心肺機能低下を来した Upside-down stomach 合併巨大食道裂孔ヘルニアの 1 例. ミニオーラル
- * 大塚 幸喜. 右半結腸切除 D3 リンパ節郭清の手術手技 進行右側結腸 癌に対する安全なアプローチ法. 座長
 - * 秋山 有史. 食道 良性 7. 司会
 - * 佐々木 章. シンポジウム メタボリックサージェリーの今後の展望. 司会
 - * 川村 英伸. ヘルニア 外科解剖・適応 4. 司会

第 24 回日本内視鏡外科学会総会教育セミナー, 横浜, 2019/12/05 ~ 12/07

1. 大塚 幸喜. 安全な腹腔鏡下結腸右半切除手技 一たかが右側結腸、されど右側結腸. 特別講演

講演会・研究会・セミナー

第3回腹腔鏡下肥満・糖尿病外科手術講習会, 川崎, 2019/1/12

1. 佐々木 章. 肥満外科手術の注意点 ～トロッカー挿入や自動縫合器選択など～. 講演

第3回宮古消化器癌研究会, 宮古, 2019/1/24

1. 佐々木 章. 肥満消化器癌と糖尿病に対する外科治療戦略. 特別講演
2. 木村 聡元. 当科における大腸癌治療. 講演

第2回 Master Class for AEGIS Women, 川崎, 2019/2/3

1. 大塚 幸喜. アニマルラボ解説 - 腹腔鏡下 S 状結腸 (直腸) 切除術の手術と手技 -. 講演

日本消化器病学会第206会東北支部例会, 仙台, 2019/2/9

1. 佐々木 章. 特別企画 1 消化器病専門医 一初期研修医からの報告. 審査員

第206回日本消化器病学会東北支部例会, 仙台, 2019/2/9

1. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 肥田 圭介, 千葉 丈広, 鳥谷洋右, 赤坂理三郎, 松本主之, 佐々木 章. 第15回専門医セミナー 症例 1. 専門医セミナー

第1回沖縄腹腔鏡下大腸切除アカデミー, 八王子, 2019/2/10

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下低位前方切除 - 技術認定医試験に応用できる手技 -. 講演

第22回東北家族性腫瘍研究会, 仙台, 2019/02/23

1. 小松 英明, 石田 和茂, 佐藤 麻生, 福島 明宗, 佐々木 章. 当科で経験した遺伝性乳癌卵巣癌症候群 (HBOC) の1例. 一般口演

クリニカルパス講演会, 盛岡, 2019/2/28

- * 佐々木 章. クリニカルパスと医療安全クリニカルパスで医療者も患者も Win-Win - 患者満足度も質も高い医療の提供 -. 司会

第29回青森内視鏡外科研究会, 青森, 2019/3/1

1. 藤澤 健太郎, 屋成 信吾, 野田 宏伸, 御供 真吾, 玉澤 佳之. 当科での腹腔鏡下直腸切除における LCS 使用の工夫. 一般口演

第16回日本乳癌学会東北地方会, 仙台, 2019/3/2

1. 佐藤 麻生, 松井 雄介, 石田 和茂, 小松 英明, 二瓶 哲, 工藤 賢三, 佐々木 章. FEC 療法の口内炎に対するアズレン・L- グルタミンの検討. 若手セッション II
 2. 石黒 保直, 箱崎 将規, 佐藤 一, 及川 浩樹. FEC 療法が奏功し、アロマトマーゼ阻害剤で CR を維持している局所進行乳癌の1例. 一般演題
 3. 佐々木 章, 早川 善郎, 大淵 徹, 米澤 仁志, 高金 明典. 若年発症の乳腺偽血管腫様過形成の1例. 一般口演
 4. 小松 英明, 石田 和茂, 松井 雄介, 佐藤 麻生, 刑部 光正, 上杉 憲幸, 石田 和之, 菅井 有, 佐々木 章. 当科で経験した葉状腫瘍の臨床病理学的検討. 一般口演
- * 佐々木 章. イブニングセミナー II 転移・再発乳癌の治療 ～我々の研究成果～. 座長

第35回 岩手ストーマ研究会, 盛岡, 2019/3/2

1. 高清水 清治, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 佐藤 慧, 近藤 優, 藤井 仁志, 八重樫 瑞典, 安藤 太郎, 佐々木 章. 術前化学療法後の直腸癌に対し直腸切除術、一時的回腸ストーマ造設術を行い、腎機能低下を来した1例. 一般口演

がん早期診断講演会, 盛岡, 2019/3/5

1. 小松 英明. 乳がんにおける早期発見と治療. 講演

第6回岩手腫瘍免疫研究会, 盛岡, 2019/3/7

1. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 千葉 丈広, 佐藤 麻生, 二階 春香, 佐藤 慧, 遠藤 史隆, 岩谷 岳, 肥田 圭介, 佐々木 章. 当科における胃癌に対するニボルマブの使用経験. 一般口演

岩手県病院薬剤師会 第3回がん・緩和セミナー, 盛岡, 2019/3/16

1. 小松 英明. 乳がん化学療法の evidence と当科の取り組み. 講演

第10回肥満症総合治療セミナー, 東京, 2019/03/16～03/17

1. 佐々木 章. ワークショップ 患者満足度を高めるための減量手術とは. コメンテーター
2. 佐々木 章. 外科治療総論 ～術式、適応、効果など～. 講演

第9回 三重消化器内視鏡外科研究会, 津, 2019/3/23

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸切除上達術 - 技術認定医試験の前と後に求められること -. 講演

水戸医療センター外科 アニマルラボ & ビデオクリニック, 川崎, 2019/4/7

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下 S 状結腸切除術の定型化 - 技術認定医に必要な基本的な手技と教育 -. 講演

エビデンスを重視した肥満 2 型糖尿病を考える会, 千葉, 2019/4/16

1. 佐々木 章. メタボリックサージェリーのエビデンスから内科治療への還元を目指して. 特別講演

第 21 回外科分子細胞治療研究会, 大阪, 2019/4/19

1. 岩谷 岳. 食道癌診療における Circulating tumor DNA モニタリングの臨床的有用性評価. ポスター

Grand Ryukyu inter-hospital surgeon team forum, 沖縄, 2019/4/25

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下 S 状結腸切除術の定型化 ― 技術認定医に必要な基本的な手技 ―. 講演

CRC Seminar in 埼玉県央, 埼玉, 2019/5/10

1. 大塚 幸喜. 岩手でやってきた大腸癌に対する 腹腔鏡下大腸手術の教育と集学的治療. 講演

第 22 回岩手内視鏡外科研究会, 盛岡, 2019/5/11

1. 箱崎 将規, 石黒 保直, 佐藤 一. 当院での腹腔鏡下大腸癌切除術の取り組みと治療成績. 一般口演
- * 佐々木 章. 特別講演 胃がん手術治療のトピックス - 接合部癌からロボットまで -. 座長

第 1 回 NCGM 肥満外科治療セミナー, 東京, 2019/5/13

1. 佐々木 章. メタボリックサージェリー導入の準備と注意点 ～質の高いチーム医療の構築を目指して～. 特別講演

第 30 回内視鏡外科フォーラム in 仙台, 仙台, 2019/5/18

1. 二階 春香, 秋山 有史, 遠藤 史隆, 馬場 誠朗, 千葉 丈広, 肥田 圭介, 佐々木 章. 完全内臓逆位を伴った胃癌に対して腹腔鏡下幽門側胃切除術を施行した 2 症例. 一般演題
2. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 高清水 清治, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 佐々木 章. 当科における腹腔鏡下大腸全摘術の定型化手技. 要望演題
- * 川村 英伸. 一般演題 3(ヘルニア). 座長

第 11 回 Tohoku-NET WORK, 仙台, 2019/5/18

- * 佐々木 章. 特別講演 NET 診療における外科的治療の位置づけ ～最近の動向～. 座長

Scientific Exchange Meeting in Iwate - HBOC(遺伝性乳がん卵巣がん)-, 盛岡, 2019/5/24

- * 佐々木 章. HBOC を踏まえた個別化医療. 座長

第 73 回手術手技研究会, 東京, 2019/05/24 ~ 05/25

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下低位前方切除 ―剥離と授動を極める―. 講演
2. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 佐々木 章. 生体肝移植において術後門脈血栓に対する再手術. Expert video
3. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 松尾 鉄平, 近藤 優, 高清水 清治, 藤井 仁志, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 水野 大, 佐々木 章. 当院における直腸癌に対するロボット支援下手術の導入. デジタルポスター
4. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 菅野 将史, 佐々木 章. 肝胆膵高度技能医を目指すための肝十二指腸間膜郭清の手術手技. デジタルポスター
5. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 生体肝移植において術後門脈血栓に対する再手術. サージカルフォーラム
6. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 肥田 圭介, 二階 春香, 遠藤 史隆, 千葉 丈広, 木村 聡元, 高原 武志, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 腹腔鏡下噴門側胃切除術における Side-Overlap による再建法. 一般示説
- * 高原 武志. その他. 司会
- * 新田 浩幸. 肝臓 1. 司会
- * 大塚 幸喜. 大腸 1. 司会
- * 佐々木 章. Expert video 2 肥満. 司会

二戸地区乳癌診療学術セミナー, 二戸, 2019/5/28

1. 小松 英明. 乳がん診療の最新の話. 講演

第 177 回東北外科集談会, 仙台, 2019/6/8

1. 高橋 智子, 木村 聡元, 大塚 幸喜, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 高清水 清治, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 佐々木 章, 菅井 有. 経過中に神経内分泌癌への分化を認めた再発直腸癌の一例. 一般口演

県北外科集談会, 二戸, 2019/6/20

1. 木村 聡元. 当科における大腸癌治療の実際. 講演

兵庫肥満治療セミナー, 西宮, 2019/7/4

1. 佐々木 章. メタボリックサージェリー ～クリニカルアップデート～. 特別講演

第 26 回 外科侵襲とサイトカイン研究会, 神戸, 2019/7/4

1. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 佐々木 章. 腹腔鏡下肝切除術における 術前ステロイド投与が術後成績に与える影響. ワークショップ

埼玉西部地区大腸癌講演会, 埼玉, 2019/7/11

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸切除上達術 ― 技術認定医試験の前と後に求められること ―. 講演

KOMACHI Summit in Iwate, 盛岡, 2019/7/12

1. 藤井 仁志, 木村 拓, 茂木 はるか, 高清水 清治, 松尾 鉄平, 木村 聡元, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 当院における CRC の治療. 講演
* 木村 聡元. 一般演題. 司会

第 28 回 新潟内視鏡外科研究会, 新潟, 2019/7/13

1. 大塚 幸喜. 岩手でやってきた腹腔鏡下大腸手術の教育. 講演

つがる大腸ビデオクリニック, 弘前, 2019/7/22

1. 木村 聡元. 技術認定医の合格に向けて. 講演

Breast Cancer Seminar in Akita 2019, 秋田, 2019/7/23

1. 小松 英明. 周術期における抗 HER2 薬の治療戦略. 講演

Colorectal Cancer Seminar in 阪神, 兵庫, 2019/7/24

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸切除上達術 ― 技術認定医試験の前と後に求められること ―. 講演

八戸外科集談会, 八戸, 2019/7/26

1. 木村 聡元. ガイドラインを考慮した 当院における大腸癌治療. 講演

第 469 回八戸外科学集談会, 八戸, 2019/7/26

1. 野田 宏伸, 川島 到真, 御供 真吾, 藤澤 健太郎, 玉澤 佳之. 切除不能再発胃癌の二次治療法. 講演

第 8 回 とかちラバロ教室, 帯広, 2019/8/2

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸切除上達術 ― 技術認定医試験の前と後に求められること ―. 講演

8th Reduced Port Surgery Forum RPS 2019, 東京, 2019/08/02 ~ 08/03

1. 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 秋山 有史, 大塚 幸喜, 佐々木 章. Reduced Port Surgery による腹腔鏡下肝切除術. シンポジウム

第 6 回腹部集中治療研究会, 盛岡, 2019/8/6

- * 佐々木 章. 特別講演 外科侵襲学と腫瘍学のクロストーク ~炎症・凝固異常とがん転移をめぐる~. 座長

第 46 回日本脾切研究会, 岐阜, 2019/08/23 ~ 08/24

1. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 菅野 将史, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 佐々木 章. 当科における脾仮性動脈瘤に対する治療成績と IVR 後肝腫瘍形成における検討. シンポジウム

第 8 回 E-LAP/LAB セミナー, 川崎, 2019/8/24

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸切除上達術 ― 技術認定医試験の前と後に求められること ―. 講演

CRCC- 南大阪 2019, 大阪, 2019/8/30

1. 大塚 幸喜. 進行大腸癌に対する腹腔鏡手術 ― 実際の手技から集学的治療まで ―. 講演

第 12 回岩手県三陸 NST 講演会, 宮古, 2019/8/30

- * 石黒 保直. NST 活動報告. 座長

南部胃腸同好会学術講演会, 十和田, 2019/9/2

1. 木村 聡元. ガイドラインを考慮した 当院における大腸癌治療. 講演

第 16 回 山口県消化管セミナー, 宇部, 2019/9/4

1. 大塚 幸喜. ハイリスク大腸がん患者の腹腔鏡手術の実際 ― 抗凝固療法の切り替えタイミングも含めて ―. 講演

第 9 回 KPUM 大腸ビデオクリニック, 京都, 2019/9/7

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸切除上達術 ― いかに上手になるか、上手にするか ―. 講演

兵庫 DKT フォーラム, 神戸, 2019/9/13

1. 大塚 幸喜. 進行大腸癌に対する腹腔鏡手術 - 周術期管理から実際の手技まで -. 講演

第 45 回東北小児外科研究会, 青森, 2019/9/13

1. 早野 恵, 小林 めぐみ, 阿部 高臣. 難治性便秘症と診断された 11 才に対する治療方針の検討. 一般口演

第 178 回東北外科集談会 / 第 104 回日本胸部外科学会東北地方会 / 第 36 回日本血管外科学会東北地方会 / 第 93 回日本小児外科学会東北地方会, 青森, 2019/9/14

1. 新田 浩幸. 肝胆脾外科領域のガイドラインを紐解く. 講師
2. 秋山 有史. 上部消化管領域 (食道・胃) のガイドラインを紐解く. 講師

第 27 回日本外科学会生涯教育セミナー（東北地区），青森，2019/9/14

1. 秋山 有史．上部消化管領域（食道・胃）のガイドラインを紐解く．講演

第 2 回 Grand Ryukyu inter-hospital surgeon team forum, 那覇，2019/9/17

1. 大塚 幸喜．S 状結腸癌、直腸癌に対する腹腔鏡手術の基本手技 - 骨盤内視野展開の定型化 - 講演

腹腔鏡下手術で利用できる操作性の高い止血剤の開発，東京，2019/10/03～10/04

1. 佐々木 章．腹腔鏡下手術における出血・体液漏れの対処法と止血剤の使い方．講演

第 16 回次世代の内視鏡下消化管手術セミナー，札幌，2019/10/5

1. 大塚 幸喜．次世代に伝えたい腹腔鏡下大腸癌手術のピットフォール・困難症例への対応．講演

第 2 回北日本肥満症・糖尿病チーム医療セミナー，仙台，2019/10/5

1. 梅邑 晃．リバウンド症例に対する対応．講演
- * 佐々木 章．術後の血糖・体重管理、李バンドへの対応．座長

第 21 回名古屋消化器外科セミナー，名古屋，2019/10/16

1. 大塚 幸喜．腹腔鏡下大腸切除上達術 一技術認定医試験の前と後に求められること一．講演

第 17 回日本乳癌学会北海道地方会，札幌，2019/10/19

1. 小笠原 和宏（独立行政法人 労働者健康安全機構 釧路労災病院 副院長），早川 善郎，米澤 仁志，高金 明典．当院で施行した Advance care planning の一例．一般口演

第 13 回北東北 LAC, 盛岡，2019/10/26

- * 木村 聡元．教育ビデオ．司会

香川漢方講演会，高松，2019/11/1

1. 大塚 幸喜．進行大腸癌に対する腹腔鏡手術 一周術期管理から実際の手技まで一．講演

Area Forum in Fukuoka, 福岡，2019/11/2

1. 大塚 幸喜．腹腔鏡下直腸癌手術の実際 一再発させないための手技一．講演

第 36 回北海道ストーマリハビリテーション研究会学術集会，札幌，2019/11/2

1. 佐藤 慧，吉田 瑛司，川岸 涼子，武田 大樹，河野 剛，千葉 丈広，米澤 仁志，船渡 治，小林 慎，高金 明典．双口式結腸人工肛門が重積脱出し緊急手術を施行した直腸癌の 1 例．一般口演

第 32 回東北膵・胆道癌研究会，仙台，2019/11/2

- * 新田 浩幸．Session2. 座長

リリーインターネット講演会，盛岡，2019/11/6

1. 木村 聡元．ガイドラインを考慮した 当院における大腸癌治療．講演

Merck CRC Summit for Next Generation in Fukushima, 福島，2019/11/11

1. 木村 聡元．ガイドラインを考慮した当科における大腸癌治療．講演

第 45 回八戸医学会，八戸，2019/11/16

1. 川島 到真，野田 宏伸，御供 真吾，藤澤 健太郎，玉澤 佳之．十二指腸狭窄を契機に診断された成人回腸異常症の 1 例．一般口演

Gastric Cancer Conference in IWATE, 盛岡，2019/11/22

- * 馬場 誠朗．これだけは押さえておきたいロンスーフ服薬指導のポイント．座長

第 2 回 沖縄腹腔鏡下大腸切除アカデミー，八王子，2019/11/23

1. 大塚 幸喜．腹腔鏡下低位前方切除 一剥離と授動を極める一．講演

岩手県臨床栄養フォーラム，盛岡，2019/11/28

- * 佐々木 章．特別講演 胃・食道癌に対する東京大学の周術期栄養管理 ～栄養支持療法を含め～．座長

第 14 回岩手骨盤外科研究会，盛岡，2019/11/29

- * 佐々木 章．特別講演 腫瘍マーカーとしての体細胞変異．座長

第 12 回東北ヘルニア研究会，盛岡，2019/11/30

1. 川村 英伸，石橋 正久，松井 雄介，瀬川 武紀．TEP 法の手術成績と Strategy. 一般口演
2. 小林 めぐみ，早野 恵，長谷川 康，木村 聡元，高原 武志，秋山 有史，岩谷 岳，新田 浩幸，大塚 幸喜，佐々木 章．当院における Nuck 管水腫に対する治療方針．一般口演
3. 瀬川 武紀，川村 英伸，中屋 勉，石橋 正久，松井 雄介．当院における再発成人鼠径部ヘルニア術後の再発に関する検討．シンポジウム
4. 梅邑 晃，須藤 隆之，藤原 久貴，有吉 佑，新田 浩幸，高原 武志，長谷川 康，片桐 弘勝，菅野 将史，安藤 太郎，佐々木 章．腹腔内全面癒着症例に対する腹腔鏡下傍ストーマヘルニア修復術の 1 例．一般口演
5. 早野 恵，小林 めぐみ，齋藤 匠，箱崎 将規，石川 徹，坂下 伸夫，佐々木 章．小児ヘルニアの岩手地域医療連携．一般演題

- * 小林 めぐみ . 一般演題 2 「小児鼠径ヘルニア手術」 . 座長
- * 梅邑 晃 . 協賛企業製品説明 . 座長
- * 梅邑 晃 . 一般演題 1 「腹部・腹壁・鼠径部ヘルニア」 . 座長
- * 川村 英伸 . 「TAPP ～新しい視点から～」 . 座長

第 11 回膵臓内視鏡外科研究会, 横浜, 2019/12/4

1. 安藤 太郎, 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 佐々木 章 . 腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術の導入と短期成績 . 要望演題

第 13 回肝臓内視鏡外科研究会, 横浜, 2019/12/4

1. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 佐々木 章 . 腹腔鏡下肝切除時の出血に対する止血法 . 要望演題
2. 菅野 将史, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 佐々木 章 . 術前シミュレーションによる S8・S7 領域腫瘍に対する術式の検討 . 要望演題
3. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 佐々木 章 . 当科での再肝切除における腹腔鏡下肝切除 . ワークショップ
4. 新田 浩幸 . レジストリー報告 . レジストリー報告
5. 新田 浩幸 . Clamp-crushing method による高難度腹腔鏡下肝切除術 - 背景肝に対応した安全なテクニック -. ランチョンセミナー

第 13 回日本内視鏡下肥満・糖尿病外科研究会, 横浜, 2019/12/4

1. 佐々木 章 . ミニワークショップ 合併症を有する患者の適応限界と周術期管理 . コメンテーター
2. 梅邑 晃, 佐々木 章, 新田 浩幸, 西島 嗣生, 木澤 哲也, 二階 春香, 馬場 誠朗, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 安藤 太郎, 櫻井 滋 . 睡眠時無呼吸症候群・呼吸不全 . ワークショップ

市民教育講座 (第 2 回), 岩手 普代村, 2019/12/12

1. 八重樫 瑞典, 新田 香澄 . 人生会議 ～アドバンス・ケア・プランニングを行うために . 講演

第 2 回岩手大腸癌治療を語る会, 盛岡, 2019/12/13

1. 八重樫 瑞典, 岩手医科大学の大腸癌 ctDNA 研究について . 一般口演
- * 木村 聡元 . 一般演題 . 司会

岩手医科大学 外科学講座 スタッフ

役 職	名 前	卒業年	診療・研究チーム	認定資格・高度技能医
教 授	佐々木 章	1988	内視鏡外科・内分泌代謝外科	JSES 技術認定（食道）、消化器外科専門医、内分泌科専門医
准 教 授	大塚 幸喜	1993	下部消化管	JSES 技術認定（大腸）、消化器外科専門医
	新田 浩幸	1993	肝胆膵・移植	JSES 技術認定（肝臓）、JHBPS 高度技能指導医、消化器外科専門医
特 任 准 教 授	岩谷 岳	1995	上部消化管・外科分子治療研究室	消化器外科専門医
講 師	秋山 有史	1999	上部消化管（胃・食道）	JSES 技術認定（大腸）、消化器外科専門医、食道外科専門医
	高原 武志	2000	肝胆膵・移植	JHBPS 高度技能専門医、消化器外科専門医
	木村 聡元	2002	下部消化管	JSES 技術認定（大腸）、消化器外科専門医
特 任 講 師	長谷川 康	2002	肝胆膵・移植	JSES 技術認定（肝臓）、JHBPS 高度技能専門医、消化器外科専門医
助 教	菅野 将史	2004	肝胆膵・移植	消化器外科専門医
	片桐 弘勝	2004	肝胆膵・移植	JHBPS 高度技能専門医、消化器外科専門医
	小松 英明	2004	乳腺	
	馬場 誠朗	2004	上部消化管（胃・食道）	消化器外科専門医
	梅邑 晃	2005	内視鏡外科・内分泌代謝外科 / 肝胆膵	JSES 技術認定（胆道）、消化器外科専門医
	石田 和茂	2005	乳腺	
	松尾 鉄平	2005	下部消化管	消化器外科専門医
	遠藤 史隆	2006	上部消化管（胃・食道）	消化器外科専門医
	小林めぐみ	2007	小児外科	
助教(任期付)	藤井 仁志	2008	下部消化管	
	安藤 太郎	2012	肝胆膵・移植	消化器外科専門医
大 学 院 生	高清水清治	2010	下部消化管	消化器外科専門医
	二階 春香	2011	上部消化管（胃・食道）	消化器外科専門医
	有吉 佑	2012		消化器外科専門医
	佐々木教之	2012	リサーチ	消化器外科専門医
	橋元 麻生	2016		
	早野 恵	2016		
	中村 侑哉	2016		
	中屋 流石	2016		
	屋成 信吾	2017		
	伊藤 浩平	2017		
	高橋 真人	2017		
	菊地 晃司	2017		
	藤澤 良介	2017		
	木村 拓	2017		
	小泉 優香	2018		
	高橋 智子	2018		
専 攻 医	棚橋 洋太	2015		
	川上亜紀子	2017		

非常勤医師

客 員 教 授	寺島 雅典	静岡県立静岡がんセンター 胃外科部長
客 員 准 教 授	平井みさ子	愛正会記念茨城福祉医療センター医療部 小児外科担当部長、茨城県立こども病院 小児外科 非常勤医師
非 常 勤 講 師	阿部 正	岩手県予防医学協会
	杉立 彰夫	高松病院
	大森 浩明	雫石大森クリニック 院長
	川村 英伸	岩手県立二戸病院 副院長
	池田健一郎	池田外科・消化器内科医院 院長
	笠原 群生	国立成育医療研究センター 臓器移植センター長
	富澤 勇貴	内丸病院 院長
非 常 勤 医 師	矢内 俊裕	茨城県立こども病院 第二医療局次長（小児泌尿器科部長兼務）
	水野 大	内丸病院 外科
	島袋 誠守	東京ミッドタウンクリニック 外来診療部長



血液凝固阻止剤

薬価基準収載

リコモジュリン[®]点滴静注用12800

トロンボモデュリン アルファ(遺伝子組換え)製剤 生物由来製品 処方箋医薬品※
Recomodulin[®] Inj. 12800

※注意-医師等の処方箋により使用すること

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。

AsahiKASEI

製造販売元 旭化成ファーマ株式会社
(資料請求先)

〒100-0006 東京都千代田区有楽町一丁目1番2号
くすり相談窓口 ☎ 0120-114-936

2018年9月作成

まだないくすりを
創るしごと。

世界には、まだ治せない病気があります。

世界には、まだ治せない病気とたたかう人たちがいます。

明日を変える一錠を創る。

アステラスの、しごとです。

www.astellas.com/jp/

明日は変えられる。



astellas

アステラス製薬株式会社



hvc
human health care

患者様の想いを見つめて、 薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。
病氣とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。
私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、
そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合っていきたいと思います。
治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。
病氣を見つめるだけではなく、想いを見つめて、薬は生まれる。
「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ



AFUTUREFREEOFLF
Global Alliance

エーザイはWHOのリンパ系フィラリア病制圧活動を支援しています。

患者さん自らが持つ免疫力を、
がん治療に大きく生かすことはできないだろうか——。
小野薬品とブリistol・マイヤーズ スクイブは、
従来のがん治療とは異なる
「新たながん免疫療法」の研究・開発に取り組んでいます。

 小野薬品工業株式会社



ブリistol・マイヤーズ スクイブ株式会社

2018年3月作成



私	の	免	疫	力	に	、
が	ん	と	闘	う	力	を



Immuno-Oncology

未来をひらくがん免疫療法

OLYMPUS

Your Vision. Our Future.



オリンパスが追い続けるもの、それは…

最先端の技術を採用した内視鏡システムと幅広い手技に対応した先進のエネルギーデバイスにより「視認性の向上と、より繊細な処置」を両立することでの医療発展への貢献です。

オリンパス メディカル サイエンス販売株式会社

020202



高度管理医療機器 保険適用

sepra/film[®]
ADHESION BARRIER

癒着防止吸収性バリア
セプトラ/フィルム[®]

ヒアルロン酸ナトリウム/カルボキシメチルセルロース癒着防止吸収性バリア

- 禁忌・禁止を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元(輸入) **サノフィ株式会社**

〒163-1488 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号 SAJP.SEP.16.03.0570

発売元
〔資料請求先〕



科研製薬株式会社

〒113-8650 東京都文京区本駒込2丁目28-8
医薬品情報サービス室

SPF03CP
(2016年4月作成)

クオリティーの向上



ISO 9001:登録企業



誠実・医療に奉仕

共立医科器械株式会社

●本社 〒020-0013 岩手県盛岡市愛宕町15-9 TEL (019) 623-1205 (代) FAX (019) 653-5301

水沢支店 TEL (0197) 25-6221 (代) FAX (0197) 25-6223

青森営業所 TEL (017) 718-3205 FAX (017) 718-3206

さんりく営業所 TEL (0193) 23-0491 (代) FAX (0193) 23-0976

六ヶ所営業所 TEL (0175) 71-1170 FAX (0175) 71-1171

八戸支店 TEL (0178) 43-2923 (代) FAX (0178) 44-1957

秋田営業所 TEL (018) 884-7464 FAX (018) 884-7465

弘前営業所 TEL (0172) 55-5081 FAX (0172) 55-5082

共立サポートセンター TEL (019) 652-8988

FAX (019) 623-4161

矢巾営業所 TEL (019) 613-6771 FAX (019) 613-6772

■医療機器 ■医療情報システム ■病・医院諸設備 ■理化学機器

<http://www.kmic.co.jp/>



INNOVATING
WITH
PATIENTS
AND
PROVIDERS
IN MIND

より良い医療の実現を目指して

Further, Together
共に医療を次のレベルへ

medtronic.co.jp

コヴィディエンジャパン株式会社

Medtronic



抗悪性腫瘍剤／VEGF^注阻害剤

薬価基準収載



ザルトラップ® 100mg 200mg
点滴静注

ZALTRAP® アフリベルセプト ベータ (遺伝子組換え) 製剤

生物由来製品 劇薬 処方箋医薬品(注意-医師等の処方箋により使用すること)
注) VEGF: Vascular Endothelial Growth Factor (血管内皮増殖因子)

製造販売(資料請求先):

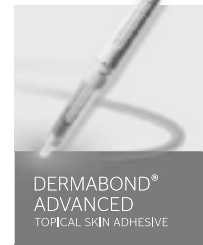
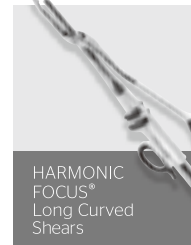
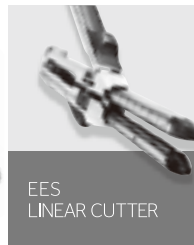
サノフィ株式会社

〒163-1488

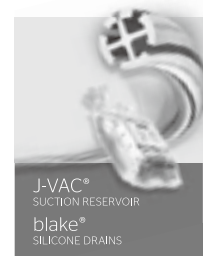
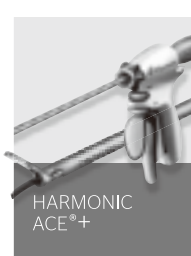
東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む
使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

SAJP.AFL.19.04.1029
2019年5月作成



Shaping the future of surgery



ETHICON
PART OF THE Johnson & Johnson FAMILY OF COMPANIES

製造販売業者: ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 メディカルカンパニー 本社 〒101-0065 東京都千代田区西神田3丁目5番2号

一般医療機器 販売名: デーマボンド アドバンスド
管理医療機器 販売名: JVA/C ドレナージ システム
管理医療機器 販売名: エンドパス トロカールシステム
管理医療機器 販売名: EES リニヤー カッター ステイプラー
管理医療機器 販売名: エンドスコピック バードリニヤーカッター

届出番号: 13B1X00204ME0008
承認番号: 20200BZY00540000
承認番号: 21900BZX00882000
承認番号: 223AASZX00075000
承認番号: 22500BZX00396000

高度管理医療機器 販売名: バイクリル プラス
高度管理医療機器 販売名: PDS プラス
高度管理医療機器 販売名: プロキシメイト ILS
高度管理医療機器 販売名: エンシール G2 ディスジェクター
処方箋医薬品 販売名: サージセル・アブノバブル・ヘモスタット

承認番号: 22000BZX00652000
承認番号: 22300BZX00333000
承認番号: 21900BZX00879000
承認番号: 22500BZX00547000
承認番号: 14700AMY00205000

高度管理医療機器 販売名: GST カートリッジ
高度管理医療機器 販売名: EES ジェネレーター
高度管理医療機器 販売名: ハーモニック ACE プラス
高度管理医療機器 販売名: ハーモニック スカルペル II
高度管理医療機器 販売名: ハーモニック FOCUS

承認番号: 22700BZX00155000
承認番号: 22500BZX00119000
承認番号: 22600BZX00425000
承認番号: 21300BZY00662000
承認番号: 22100BZX00832000

ETH02021-05-201912 ©J&J 2019



持続性がん疼痛治療剤

薬価基準収載

ナルサス錠 2mg 6mg
12mg 24mg

劇薬、麻薬、処方箋医薬品：注意—医師等の処方箋により使用すること
ヒドロモルフォン塩酸塩徐放錠



がん疼痛治療剤

薬価基準収載

ナルラピド錠 1mg
2mg 4mg

劇薬、麻薬、処方箋医薬品：注意—医師等の処方箋により使用すること
ヒドロモルフォン塩酸塩錠



癌疼痛治療用注射剤

薬価基準収載

ナルベイン注 2mg
20mg

劇薬、麻薬、処方箋医薬品：注意—医師等の処方箋により使用すること
ヒドロモルフォン塩酸塩注

※「効能又は効果」、「用法及び用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

製造販売元

第一三共プロファーマ株式会社

東京都中央区日本橋本町3-5-1



販売元（文献請求先及び問い合わせ先を含む）

第一三共株式会社

東京都中央区日本橋本町3-5-1

2019年9月作成



抗悪性腫瘍剤

劇薬、処方箋医薬品（注意—医師等の処方箋により使用すること）

ロンサーフ® 配合錠 T15 T20

Lonsurf® combination tablet T15・T20

トリフルリジン・チピラシル塩酸塩配合錠

薬価基準収載

効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等につきましては添付文書をご参照ください。

■資料は当社医薬情報担当者にご請求ください。

製造販売元
資料請求先
（医薬品情報課）



大鵬薬品工業株式会社

〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27
TEL.0120-20-4527 <https://www.taiho.co.jp/>

2017年6月作成



Better Health, Brighter Future

タケダから、世界中の人々へ。より健やかで輝かしい明日を。

一人でも多くの人に、かけがえのない人生をより健やかに過ごしてほしい。タケダは、そんな想いのもと、1781年の創業以来、革新的な医薬品の創出を通じて社会とともに歩み続けてきました。

私たちは今、世界のさまざまな国や地域で、予防から支援活動にわたる多様な医療ニーズと向き合っています。その一つひとつに添えていくことが、私たちの新たな使命。よりよい医薬品を待ち望んでいる人々に、少しでも早くお届けする。それが、いつまでも変わらない私たちの信念。

世界中の英知を集めて、タケダはこれからも全力で、医療の未来を切り拓いていきます。

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp



すべての革新は患者さんのために

中外製薬

Roche A member of the Roche group

日本標準商品分類番号 874291

抗悪性腫瘍剤 抗VEGF^{注1)}ヒト化モノクローナル抗体

生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品^{注2)}

アバステン[®]

点滴静注用

100mg/4mL
400mg/16mL

ペバシズマブ(遺伝子組換え) 注

注1) VEGF: Vascular Endothelial Growth Factor(血管内皮増殖因子)

注2) 注意—医師等の処方箋により使用すること

(資料請求先)

製造販売元 中外製薬株式会社

〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1

※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意等は製品添付文書をご参照ください。

ホームページで中外製薬の企業・製品情報をご覧ください。

<https://www.chugai-pharm.co.jp/>

2017年11月作成

漢方は、自然から。

漢方は、たくさんの人の手と想いを経て生まれます。

長い年月をかけて、樹木が豊かな山を育み、その山で水が蓄えられる。

山で磨かれた水が、生薬をつくるための畑に注がれ、
生産農家のみなさんによって大切に育てられる。

人が本来持っている自然治癒力を高め、生きる力を引き出すことを目的とした
漢方にとって、「自然」はいのちを強くする力そのものです。

その力をそこなうことなく、すべての人が受け取れる形にして届けたい。
そして健康に役立ててほしい。

100年以上、自然と向き合いつづけてきた私たちツムラの願いです。

自然と健康を科学する。漢方のツムラです。



www.tsumura.co.jp

資料請求・お問い合わせは、お客様相談窓口まで。

[医療関係者の皆様] 0120-329-970 [患者様・一般のお客様] 0120-329-930

受付時間 9:00～17:30(土・日・祝日は除く)

(2019年5月制作) RSCAb01-D ㊞

TERUMO



解熱鎮痛剤
アセトアミノフェン 静注液

薬価基準収載

アセリオ® 静注液 1000mg バッグ

acelio® Bag for Intravenous Injection 1000mg

創薬、処方箋医薬品 注意—医師等の処方箋により使用すること

※「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等については、製品添付文書をご参照下さい。

製造販売元:テルモ株式会社 〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2-44-1 www.terumo.co.jp

資料請求先:テルモ株式会社 コールセンター ☎0120-12-8195 (平日9:00-17:45受付)

TERUMOはテルモ株式会社の商標です。 acelio、アセリオはテルモ株式会社の登録商標です。 ©テルモ株式会社 2017年3月 2017年3月作成



CYRAMZA[®]

(ramucirumab)

抗悪性腫瘍剤 ヒト型抗VEGFR-2^注モノクローナル抗体
生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品*

サイラムザ[®]

点滴静注液 100mg
点滴静注液 500mg

CYRAMZA[®] Injection ラムシルマブ(遺伝子組換え)注射液

注) VEGFR-2: Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-2 (血管内皮増殖因子受容体2)

*注意—医師等の処方箋により使用すること

薬価基準収載

RAM-PA013(R0)
2018年6月作成

「効能・効果」、「用法・用量」、「警告、禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

製造販売元(資料請求先)
日本イーライリリー株式会社

Lilly Answers リリーアンサーズ
日本イーライリリー医薬情報問合せ窓口
0120-360-605 (医療関係者向け)
受付時間: 月～金 8:45～17:30

Lilly

消化器科領域の製品

抗悪性腫瘍剤 劇薬、処方箋医薬品*

動注用アイエーコル[®] 50mg・100mg

シスプラチン製剤

抗悪性腫瘍剤 劇薬、処方箋医薬品*
ランタ[®] Randa Inj.
シスプラチン製剤
10mg/20mL
25mg/50mL
50mg/100mL

シスプラチン製剤

抗悪性腫瘍剤 劇薬、処方箋医薬品*
オキサリプラチン点滴静注液 50mg・100mg・200mg「NK」
オキサリプラチン点滴静注液

代謝拮抗剤 劇薬、処方箋医薬品*

エヌケーエスワン[®] 配合カプセル T20・T25

デガフル・ギメラシル・オデラシルカリウム配合カプセル剤

エヌケーエスワン[®] 配合顆粒 T20・T25

デガフル・ギメラシル・オデラシルカリウム配合顆粒剤

エヌケーエスワン[®] 配合 OD錠 T20・T25

デガフル・ギメラシル・オデラシルカリウム配合口腔内崩壊錠

抗悪性腫瘍剤 劇薬、処方箋医薬品*

カベシタピン錠 300mg「NK」

カベシタピン錠

抗悪性腫瘍剤 劇薬、処方箋医薬品*

バクリタキセル[®] 注 30mg/5mL

100mg/16.7mL「NK」

バクリタキセル製剤

タキソイド系抗悪性腫瘍剤 劇薬、処方箋医薬品*

ドセタキセル点滴静注 20mg/1mL「ニプロ」

80mg/4mL「ニプロ」

抗悪性腫瘍剤 劇薬、処方箋医薬品*

イリノテカン塩酸塩点注液 40mg「NK」

100mg「NK」

イリノテカン塩酸塩水和物点注液

代謝拮抗性抗悪性腫瘍剤 劇薬、処方箋医薬品*

ゲムシタピン点滴静注 200mg・1g「NK」

点注用ゲムシタピン塩酸塩

ゲムシタピン点滴静注液 200mg/5mL「NK」

1g/25mL「NK」

ゲムシタピン塩酸塩注射液

抗HER2ヒト化モノクローナル抗体 抗悪性腫瘍剤 生物由来製品、処方箋医薬品*

トラスツズマブ[®] BS点滴静注用 60mg・150mg「NK」

トラスツズマブ(遺伝子組換え)【トラスツズマブ後続1】製剤

*注意—医師等の処方箋により使用すること

文献請求先及び
問い合わせ先

日本化薬株式会社
東京都千代田区丸の内二丁目1番1号

日本化薬 医薬品情報センター
0120-505-282 (フリーダイヤル)

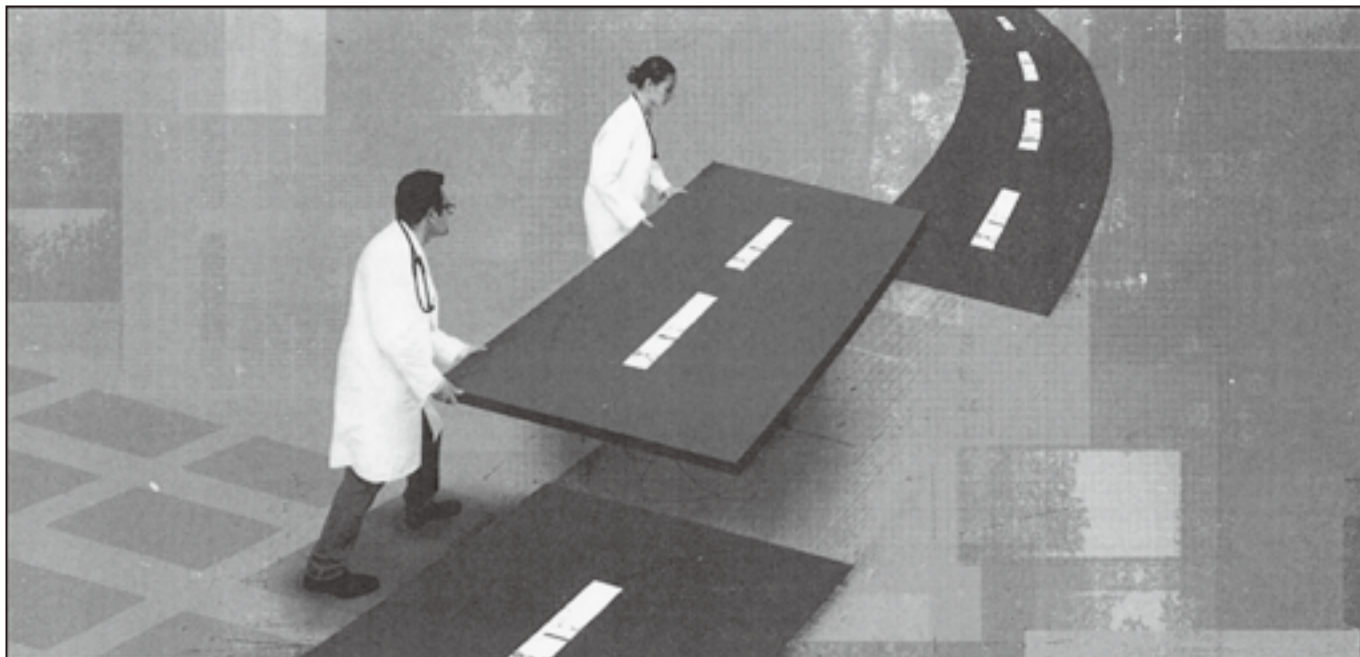
日本化薬 医療関係者向け情報サイト
<https://minknipponkayaku.co.jp/>

NK
Speciality, Biosimilar & Generic

※効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

薬価基準収載

'19.12作成



抗悪性腫瘍剤 / キナーゼ阻害剤

スチバーガ錠 40mg

Stivarga® tablets 40 mg

レゴラフェニブ錠

薬価基準収載

創薬、処方箋医薬品[※]

注) 注意一医師等の処方箋により使用すること

効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等につきましては製品添付文書をご参照ください。

弊社製品情報サイト

(<http://pharma-navi.bayer.jp/stivarga/>) をご参照ください



Bayer

資料請求先

バイエル薬品株式会社

大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001

<http://byl.bayer.co.jp/>

(2018年2月作成) LJP.MKT.OH.02.2018.2660



抗悪性腫瘍剤 (CDK4/6阻害剤)

イブランス[®] カプセル 25mg 125mg

IBRANCE® 25mg・125mg Capsules パルボシクリブカプセル

薬価基準収載

創薬 | 処方箋医薬品 | 注意一医師等の処方箋により使用すること

製造販売 (輸入)

ファイザー株式会社

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7

資料請求先: 製品情報センター

「効能・効果」、「用法・用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等は、製品添付文書をご参照ください。

MARUKIは、
最新の情報と質の高いサービスの提供を通して
地域医療の発展に貢献して参ります

MARUKI



丸木医科器械株式会社
Maruki Medical Systems Inc.

仙台支店
〒961-1105 宮城県仙台市太白区西中田3-20-7
TEL 022-242-6001 (代)

盛岡営業所
〒997-0046 山形県盛岡市みどり町12-10 コアビル202
TEL 0235-29-1377 (代)

秋田営業所
〒010-1417 秋田県秋田市西ノ小笹字中野64-1-B-13
TEL 018-889-6400 (代)

青森県出張所
〒988-0053 青森県青森市中央町1-10-18 エイブイビル8号
FAX 0226-22-0880

山形支店
〒990-2338 山形県山形市蔵王松ヶ丘2-2-22
TEL 023-695-3000 (代)

岩手支店
〒028-3621 岩手県紫波郡矢野町大字広宮東五世館313番
TEL 019-698-1567 (代)

秋田南営業所
〒013-0043 秋田県横手市安田字越前37
TEL 0182-33-4751 (代)

庄内営業所
〒996-0875 山形県酒田市東町1-26-8
TEL 0234-23-7566 (代)

水沢営業所
〒023-0003 岩手県奥州市水沢区血河字瑞神2-3
TEL 0197-25-7703 (代)

八戸営業所
〒039-1165 青森県八戸市石室2-29-6-102
TEL 0178-21-8009 (代)

教室年報

岩手医科大学医学部外科学講座

発行年月日／令和2年3月26日

発行責任者／佐々木 章

発 行／岩手医科大学医学部外科学講座同門会
〒020-8505 盛岡市内丸19-1
TEL 019-651-5111 (3627)
FAX 019-651-7166

編 集 者／秋山 有史

制 作／有限会社ヤマダプランニング

■表写真説明

2019.9.21 開院を迎えた矢巾新病院

延べ面積	病院本体86,114.08㎡
最高高さ	50.80m
階数	地上11階、地下階なし
構造	RCST構法(柱:RCST造、梁:S造)、免震構造

■裏写真説明

正解 写真はワイキキにあるハワイ出雲大社です

巖刀会 (がんとうかい:岩手山別称(巖鷲山)から1字とり、岩手の外科医の象徴の意)

醫
藥



●クイズ これはどこの神社でしょうか？